

匝瑳市男女共同参画に関する市民意識調査 結果報告書

平成26年6月

匝 瑳 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査目的	3
2	調査方法	3
3	調査項目	3
4	回収結果	3
5	集計結果について	4
II	回答者の属性	5
III	調査結果	17
1	男女平等に関する意識について	19
1-1	男女平等意識	19
1-2	男性のほうが優遇されていると思う理由	29
1-3	用語の認知度	31
2	男女の役割分担について	40
2-1	男女の役割意識	40
2-2	家庭における役割分担	45
2-3	平日における家事・育児・介護・仕事・趣味の時間	57
3	仕事について	62
3-1	女性の仕事や結婚についての理想像	62
3-2	女性が仕事をもち続けるうえでの障害	64
3-3	女性が働きやすい環境づくり	66
3-4	管理職への就任願望	68
3-5	職場における休暇取得環境	70
3-6	育児休業の取得	74
3-7	働いていない理由	75

4	社会への参画について	77
4-1	地域活動の参加状況・参加希望	77
4-2	男性の家庭生活や地域活動への参加	81
4-3	女性リーダーが少ない原因	83
4-4	仕事と仕事以外の生活の調和	85
4-5	指導的地位に占める女性の割合	87
4-6	女性の割合が増えるほうがよいと思う職業	89
4-7	女性の参画による社会の変化	91
5	人権について	93
5-1	ドメスティック・バイオレンス（DV）の認知度	93
5-2	配偶者等の暴力の経験	95
5-3	配偶者等の暴力にかかる相談	97
5-4	配偶者等の暴力にかかる相談先	98
5-5	配偶者等の暴力にかかる相談をしなかった理由	100
6	少子化対策について	102
6-1	出生率が低くなった原因	102
6-2	出生率を上げるための施策	104
7	高齢者介護について	106
7-1	老後の不安	106
7-2	介護をする人	108
8	男女共同参画の推進について	110
8-1	男女共同参画社会の実現に向けた必要な取り組み	110
IV	「その他」の意見	113
V	自由意見	135
VI	調査票	145

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

匝瑳市男女共同参画計画は、男性も女性もお互いを尊重し、支え合い、みんなが幸せに暮らせる社会をめざすことを基本理念としており、平成22年度から平成26年度までを計画期間として、施策の推進を図ってきました。この調査は、次期計画策定に向けて、現計画の評価と検証をすることを目的としています。

2 調査方法

- (1) 調査対象 匝瑳市内に居住している20歳以上の人
- (2) 対象者数 2,000人（男性1,000人・女性1,000人）
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査期間 平成26年1月15日から同月31日まで
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収

3 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 男女平等に関する意識について
- (3) 男女の役割分担について
- (4) 仕事について
- (5) 社会への参画について
- (6) 人権について
- (7) 少子化対策について
- (8) 高齢者介護について
- (9) 男女共同参画の推進について

4 回収結果

配布数	回収数	有効	無効	回収率
2,000 票	705 票	705 票	0 票	35.3%

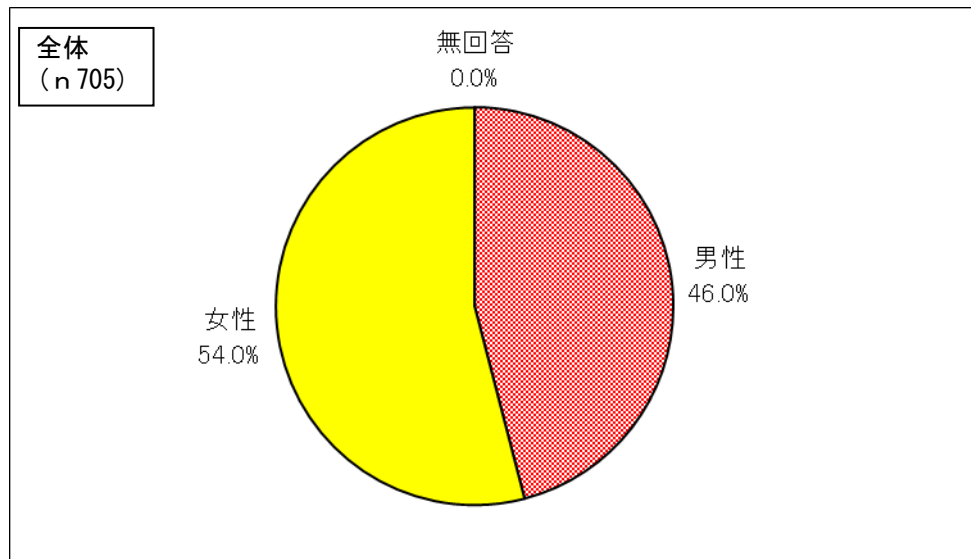
5 集計結果について

- (1) 調査結果の数値は、原則としてパーセント（％）で表しています。
- (2) 回答率は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記していますので合計が100％にならない場合があります。
- (3) 回答率は、回答者数を基数として算出しているため、複数回答の質問では各項目の比率を合計すると100％を超える場合があります。
- (4) 基数となる数字は「n」で表しています。

Ⅱ 回答者の属性

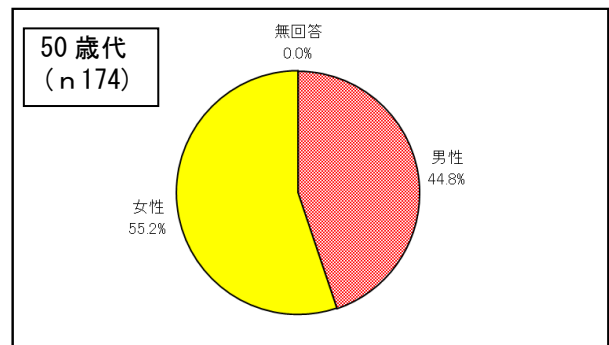
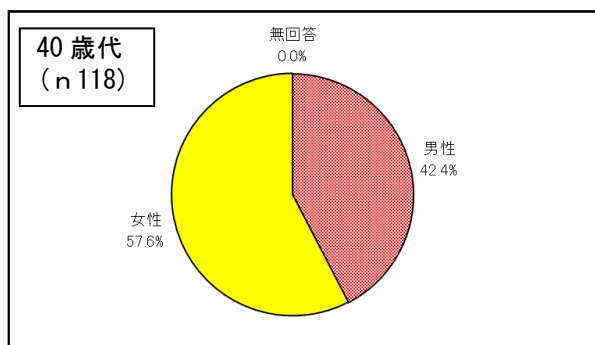
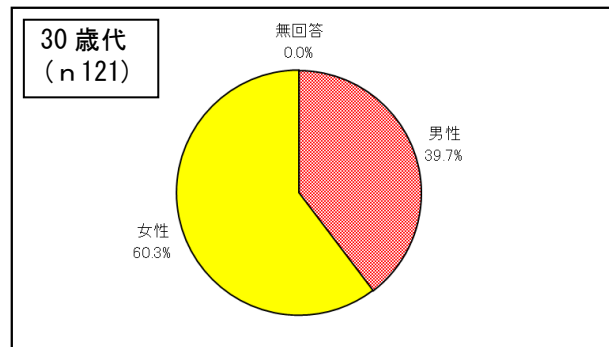
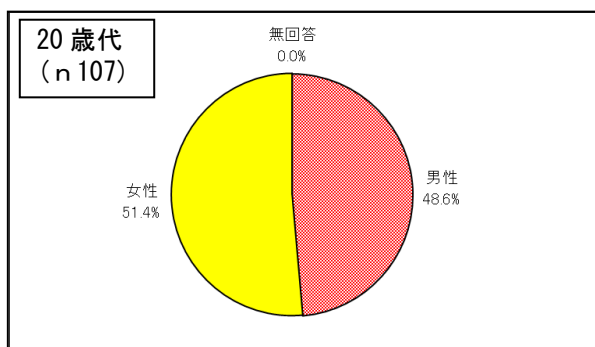
Ⅱ 回答者の属性

1 性別

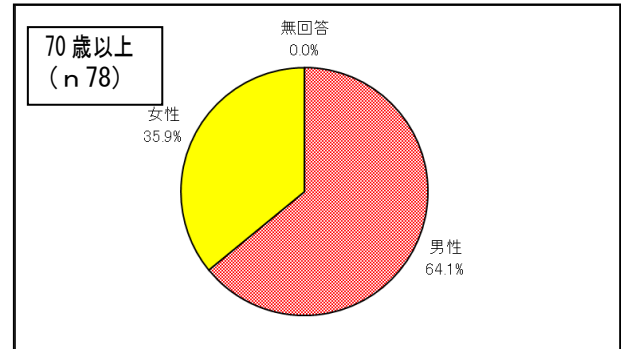
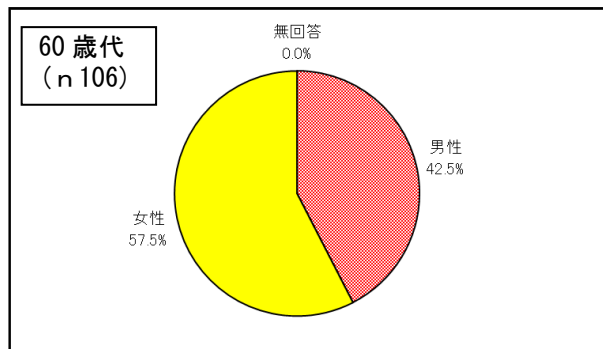


【全体】

「男性」の割合が 46.0%、「女性」の割合が 54.0%と、「男性」の回答者より「女性」の回答者のほうが多くなっています。



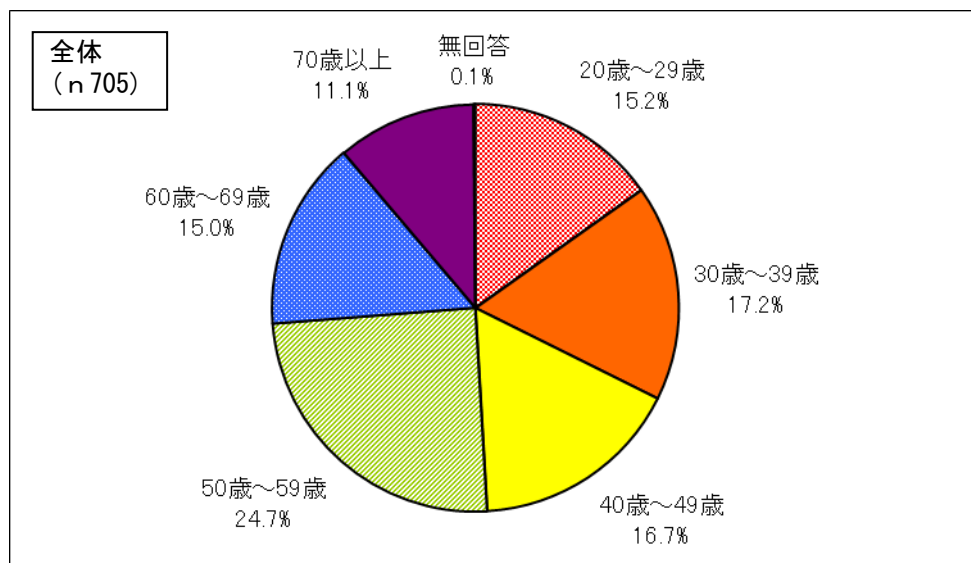
性 別（つづき）



【年齢別】

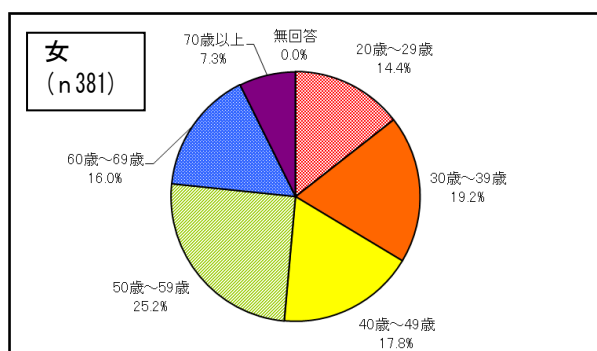
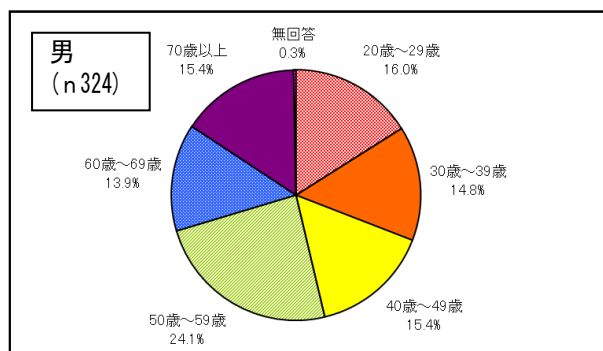
「70 歳以上」を除き、「女性」の回答者のほうが多くなっています。「70 歳以上」の割合は、「男性」が 64.1%、「女性」が 35.9%と、ポイント差が最も大きくなっています。

2 年 齢



【全体】

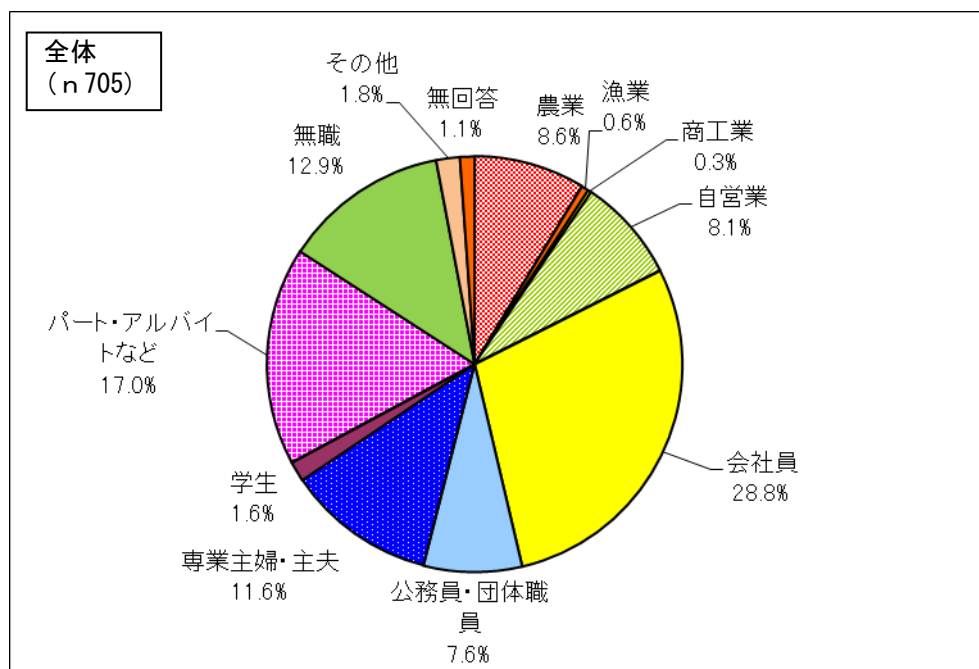
「50 歳～59 歳」の割合が 24.7%と最も高く、次いで「30 歳～39 歳」の割合が 17.2%、「40 歳～49 歳」の割合が 16.7%となっています。一方、「70 歳以上」の割合が 11.1%と最も低くなっています。



【性別】

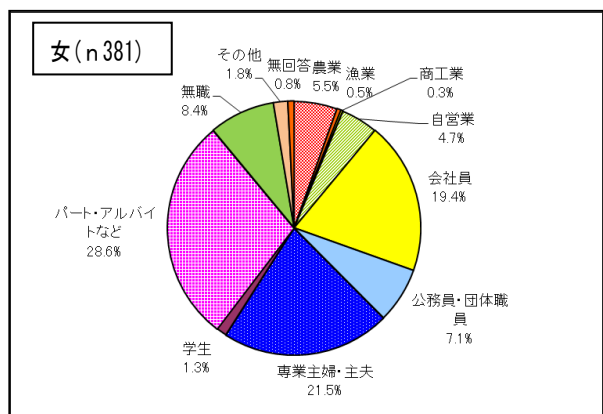
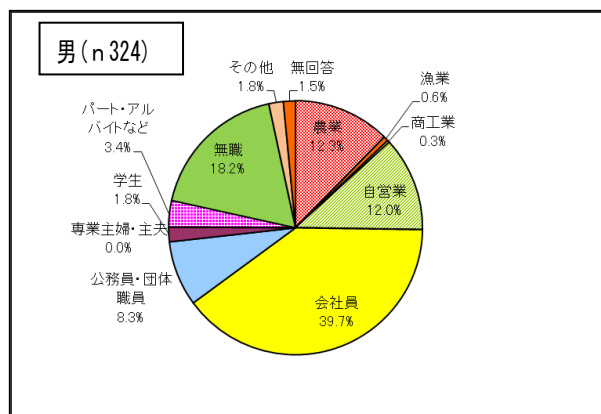
男性回答者においては、「50 歳～59 歳」の割合が 24.1%で最も高くなっているのに対し、「60 歳～69 歳」の割合が 13.9%で最も低くなっています。女性回答者においては、「50 歳～59 歳」の割合が 25.2%で最も高くなっているのに対し、「70 歳以上」の割合が 7.3%と最も低くなっており、男性回答者よりも年齢によるポイント差が大きくなっています。

3 職 業



【全体】

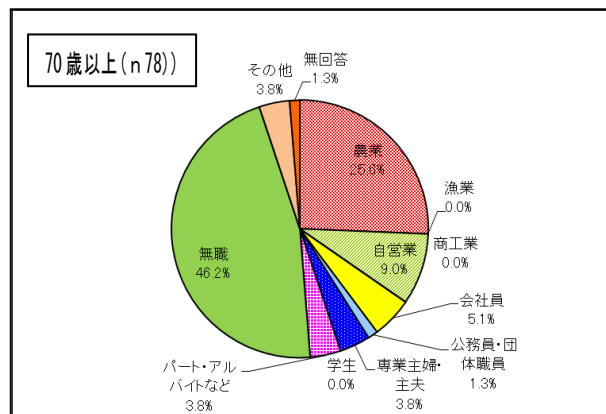
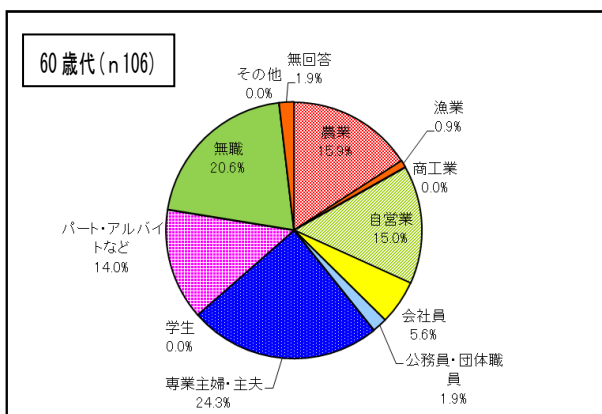
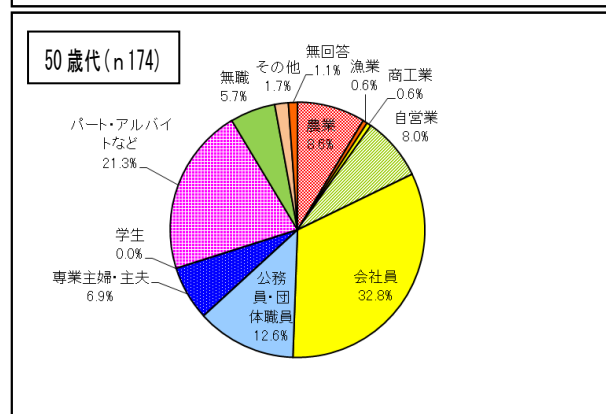
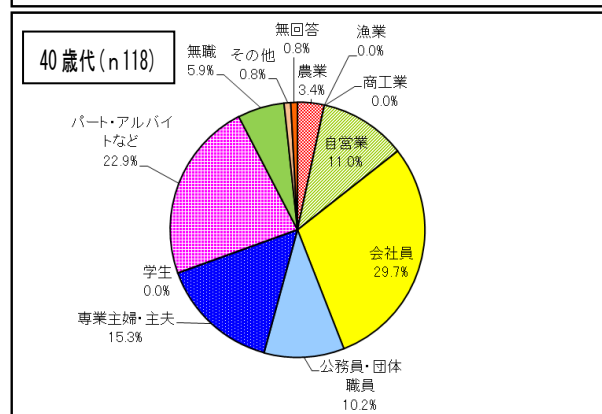
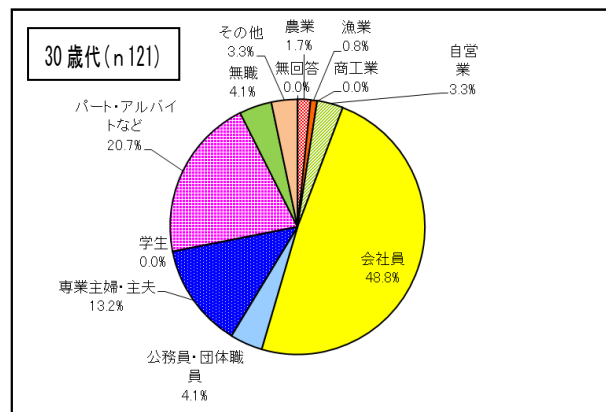
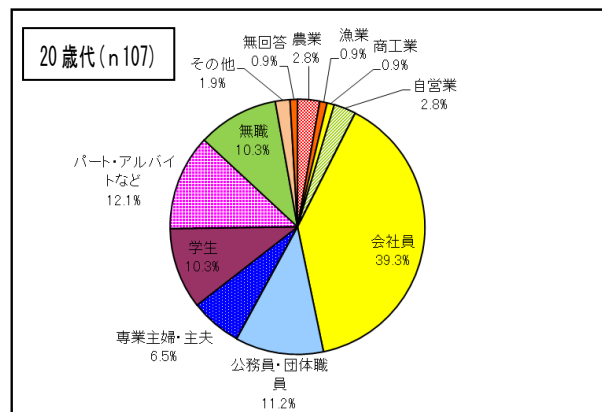
「会社員」の割合が 28.8%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が 17.0%、「無職」の割合が 12.9%となっています。



【性別】

「会社員」の割合は、男性回答者が 39.7%と約 4 割であるのに対し女性回答者は 19.4%と約 2 割となっており、女性が男性の半分程度となっています。「パート・アルバイトなど」の割合は男性回答者が 3.4%であるのに対し女性回答者は 28.6%であり、「専業主婦・主夫」の割合は男性回答者が 0.0%であるのに対し女性回答者は 21.5%と、男女でポイント差が大きくなっています。

職 業（つづき）



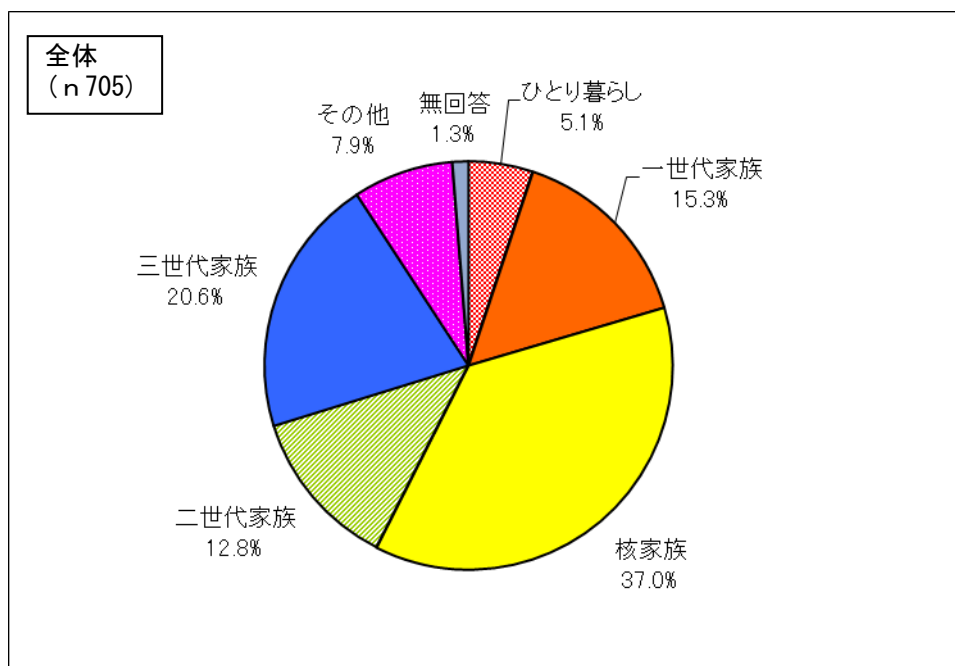
【年齢別】

「会社員」の割合は、30 歳代で 48.8%と 5 割弱を占め最も高く、次いで 20 歳代で 39.3%となっており、若い年齢層で「会社員」の割合が高くなっています。

「パート・アルバイトなど」の割合は 40 歳代で 22.9%と最も高く、次いで 50 歳代で 21.3%、30 歳代で 20.7%となっており、30 歳代から 50 歳代まで 2 割を超えています。

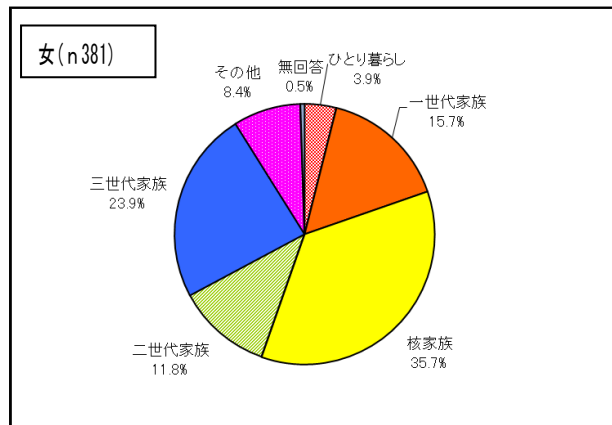
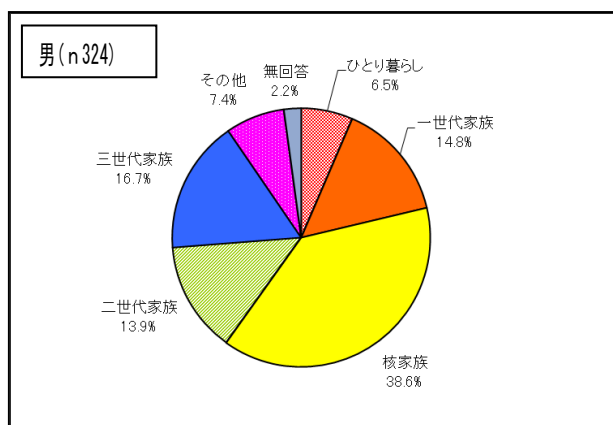
「専業主婦・主夫」の割合は、20 歳代で 6.5%、30 歳代で 13.2%、40 歳代で 15.3%と 20 歳代から 40 歳代まで年齢が高くなるにしたがって高くなっていますが、50 歳代で 6.9%と 40 歳代の半分以下に減っています。

4 家族構成



【全体】

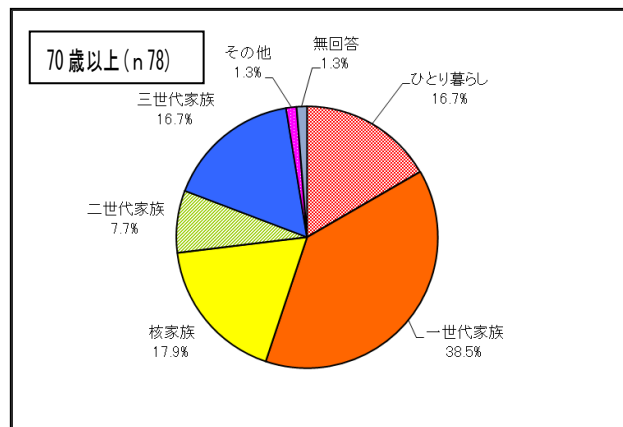
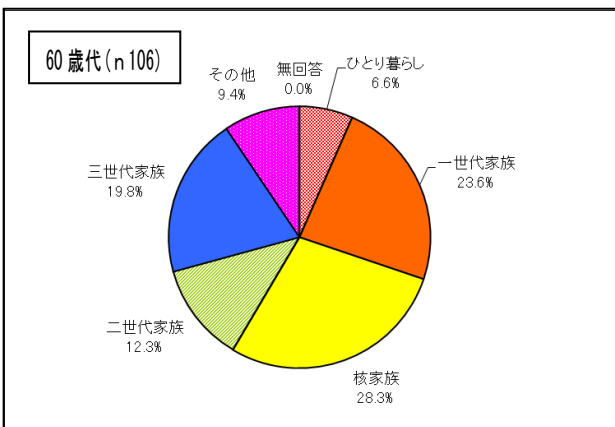
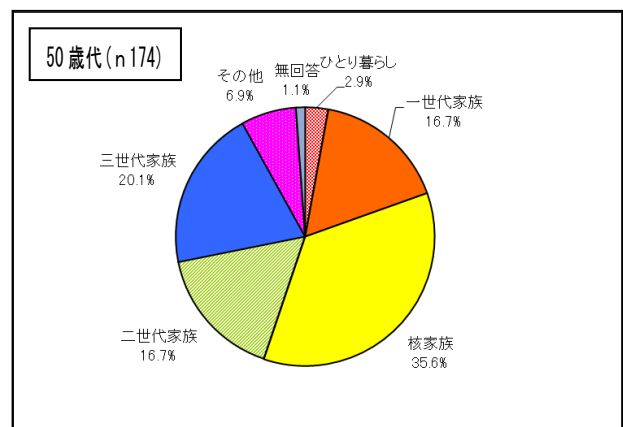
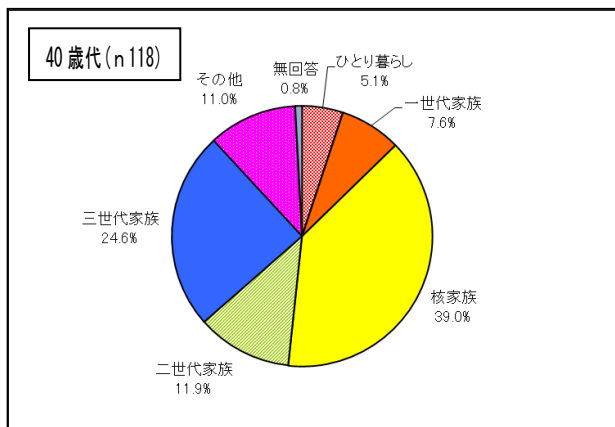
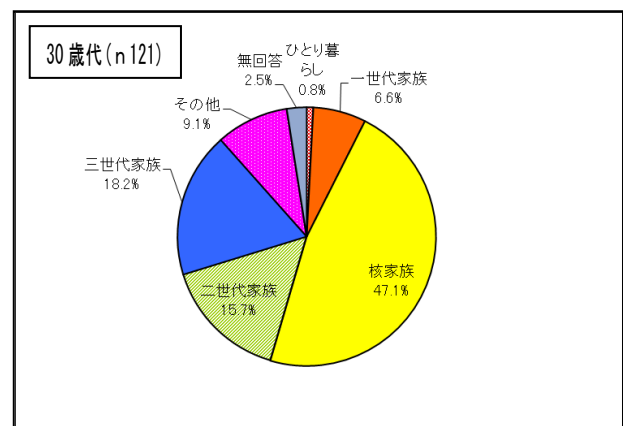
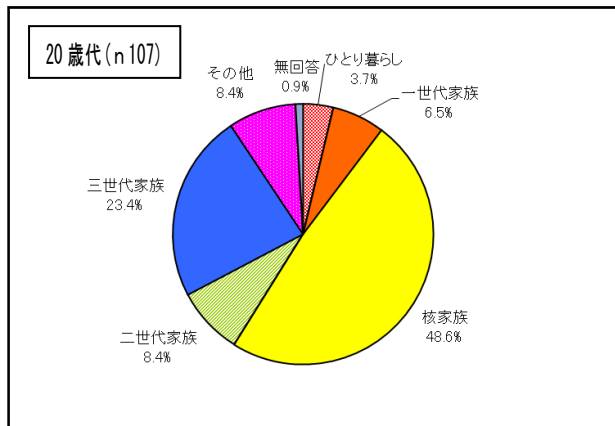
「核家族（親と未婚の子ども）」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「三世代家族（親と子ども夫婦と孫）」の割合が 20.6%、「一世代家族（夫婦のみ）」の割合が 15.3%となっています。



【性別】

男女とも「核家族（親と未婚の子ども）」の割合が最も高く、男性回答者は 38.6%、女性回答者は 35.7%となっています。

家族構成（つづき）

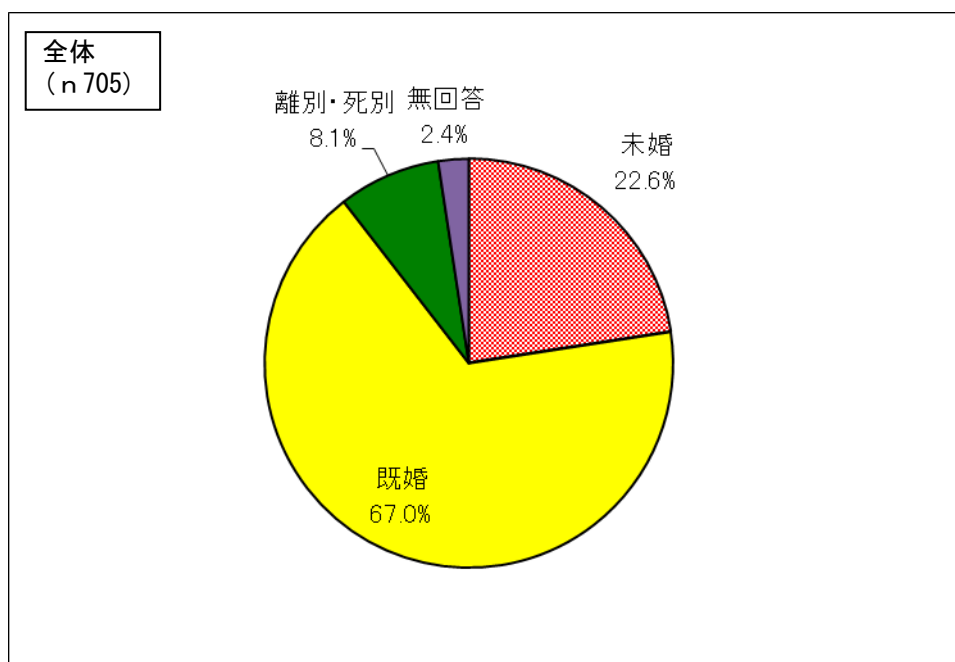


【年齢別】

「70 歳以上」を除き、「核家族（親と未婚の子ども）」の割合が高くなっています。

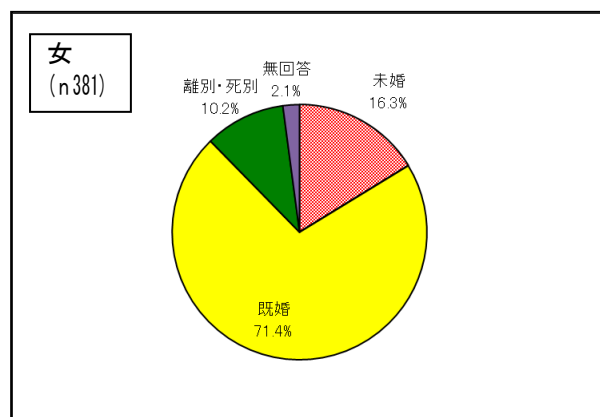
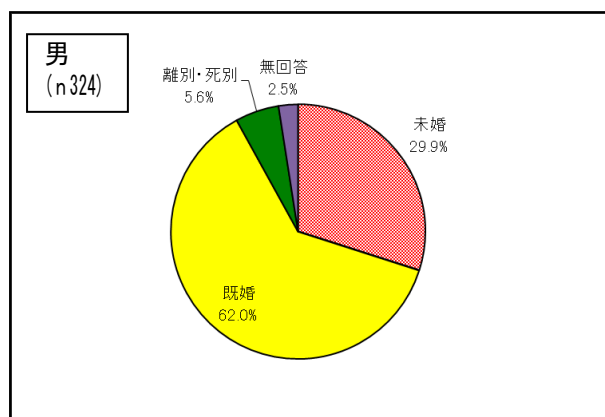
「70 歳以上」においては、「ひとり暮らし」（16.7%）と「一世代家族（夫婦のみ）」（38.5%）を合わせると 55.2%と 5 割を超えています。

5 結婚の有無（問4. あなたは結婚されていますか。（〇は1つ））



【全体】

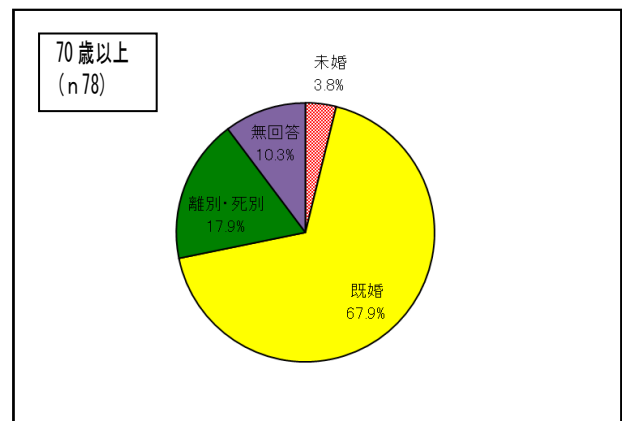
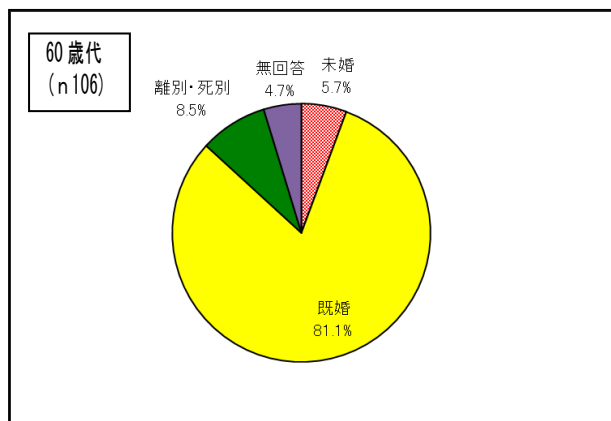
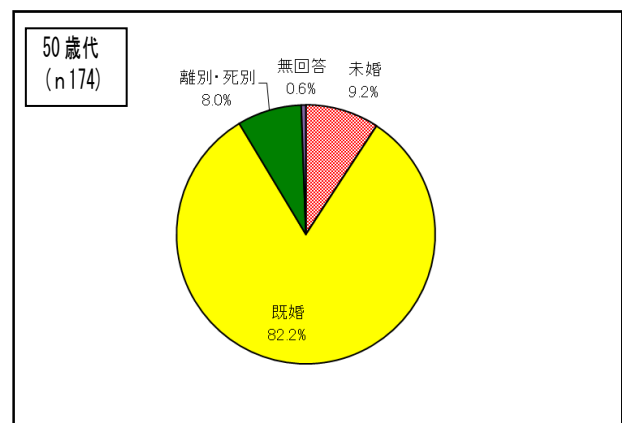
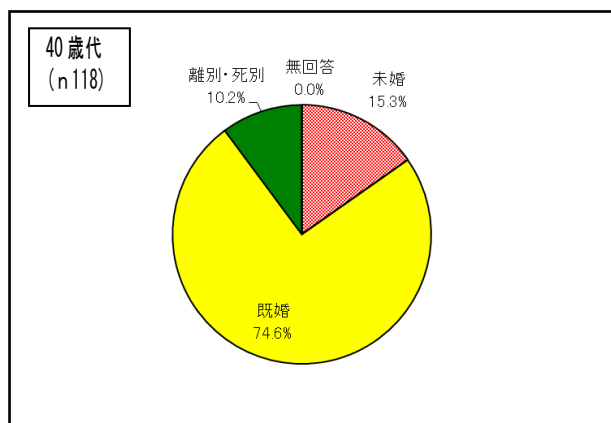
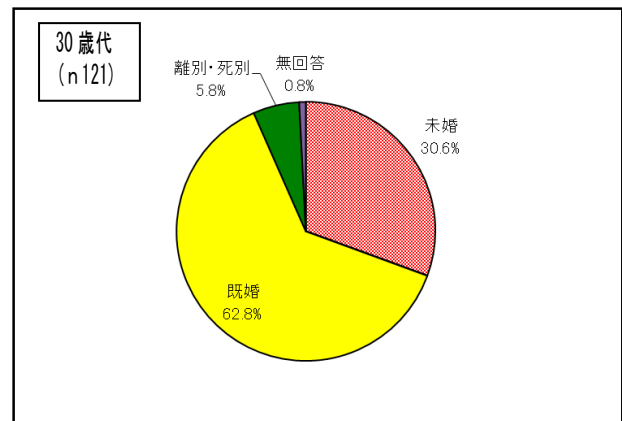
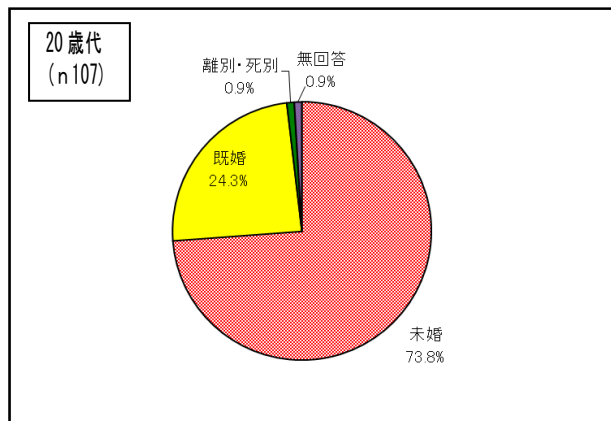
「既婚」の割合が 67.0%、「未婚」の割合が 22.6%、「離別・死別」の割合が 8.1%となっています。



【性別】

「未婚」の割合は、女性回答者が 16.3%であるのに対し男性回答者は 29.9%と、男性のほうが高くなっています。「離別・死別」の割合は、男性回答者が 5.6%、女性回答者が 10.2%と、女性のほうが高くなっています。

結婚の有無（つづき）



【年齢別】

「未婚」の割合は、20 歳代において 73.8%と 7 割を超えています。「既婚」の割合は、30 歳代で 62.8%、40 歳代で 74.6%、50 歳代で 82.2%と年齢が上がるにしたがって高くなっています。一方、最も既婚率の高い 50 歳代で「未婚」が 9.2%と約 1 割を占めています。

Ⅲ 調査結果

Ⅲ 調査結果

1 男女平等に関する意識について

1-1 男女平等意識

問1 今の生活や社会の状況をどのように思っていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

【全体】

すべての項目において、「女性より男性のほうが優遇されている」と回答した人が多くなっています。「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた“男性優遇”と回答した割合は、『政治の場では』の項目で66.7%と7割弱を占め最も高くなっており、次いで『社会通念・慣習では』の項目で65.2%、『社会全体では』の項目で65.1%と6割を超えています。

「平等になっている」と回答した割合を見ると、『学校教育の場では』の項目で57.3%と6割弱を占めており、他の項目に比べ、学校教育の場では平等になっていると思う人が多くなっています。

【性別】

男女とも、すべての項目において“男性優遇”と回答した人が多くなっています。なお、すべての項目において、男性回答者より女性回答者のほうが、“男性優遇”と回答した人が多くなっています。一方、“女性優遇”と回答した人は、すべての項目において女性回答者より男性回答者のほうが多くなっています。

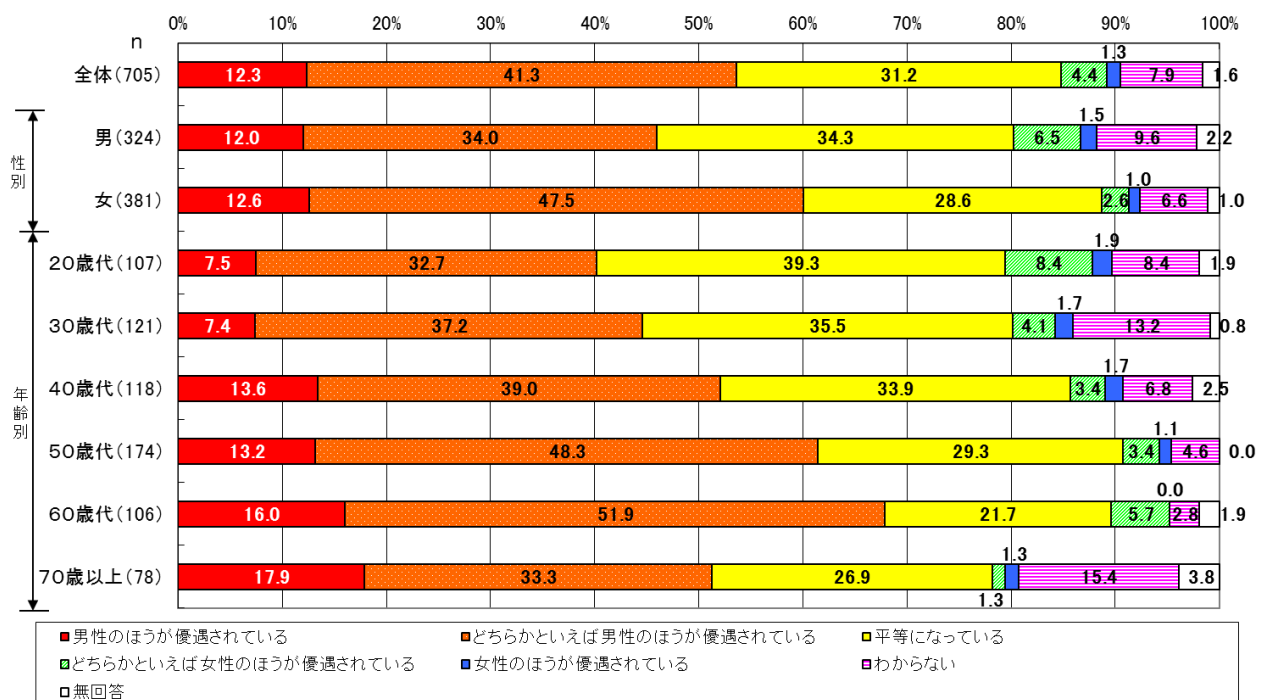
「平等になっている」を見ると、いずれの項目においても女性回答者より男性回答者のほうが「平等になっている」と思う人が多くなっています。

【年齢別】

各年齢層とも、概ね“男性優遇”と回答した人が多くなっています。『家庭生活では』『社会通念・慣習では』『社会全体では』の3項目で、年齢層が高くなるにしたがい“男性優遇”と回答した人が多くなっている傾向にあります。

一方、「平等になっている」と回答した人は、『家庭生活では』『地域活動の場では』『社会通念・慣習では』『社会全体では』の4項目で、20歳代が最も多くなっています。

1. 家庭生活では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」（12.3%）と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（41.3%）を合わせた“男性優遇”と回答した割合は、53.6%と5割を超えています。

それに対し、「女性のほうが優遇されている」（1.3%）、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」（4.4%）を合わせた“女性優遇”と回答した割合は5.7%と1割未満となっています。“男性優遇”と思う人の割合は“女性優遇”と思う人の割合よりも高くなっています。

「平等になっている」と回答した割合は31.2%と約3割となっています。

【性別】

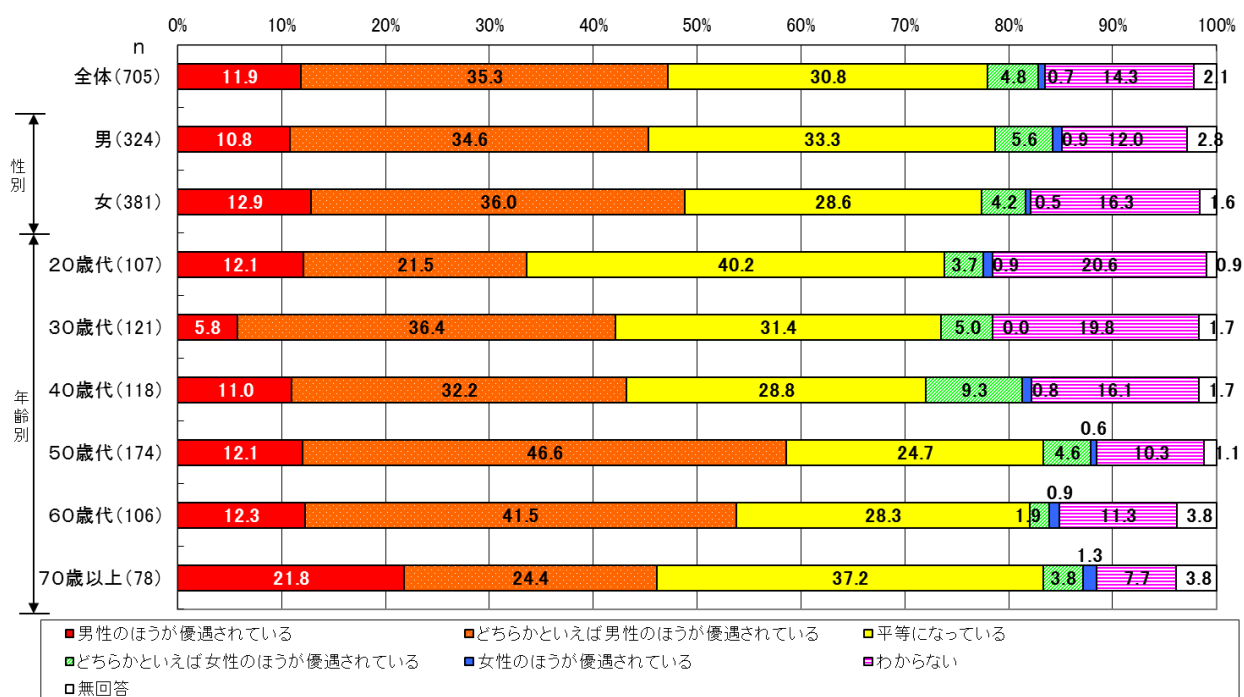
“男性優遇”と回答した男性回答者は46.0%であるのに対し、女性回答者は60.1%となっています。女性回答者は男性回答者よりも“男性優遇”と思う人の割合が高くなっています。

「平等になっている」と回答した男性回答者は34.3%、女性回答者は28.6%となっています。

【年齢別】

“男性優遇”と回答した人の割合は、20歳代（40.2%）から60歳代（67.9%）まで年齢が高くなるにしたがって高くなっています。「平等になっている」と回答した人の割合は、20歳代で39.3%と最も高く、次いで30歳代で35.5%、40歳代で33.9%と40歳代以下では年齢層が低いほど平等になっていると思う人の割合が高くなっています。

2. 地域活動の場では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(11.9%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(35.3%)を合わせた“男性優遇”と回答した割合は47.2%と4割強となっているのに対し、「女性のほうが優遇されている」(0.7%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(4.8%)を合わせた“女性優遇”と回答した割合は5.5%と1割未満となっています。“男性優遇”と思う人の割合は“女性優遇”と思う人の割合よりも高くなっています。

【性別】

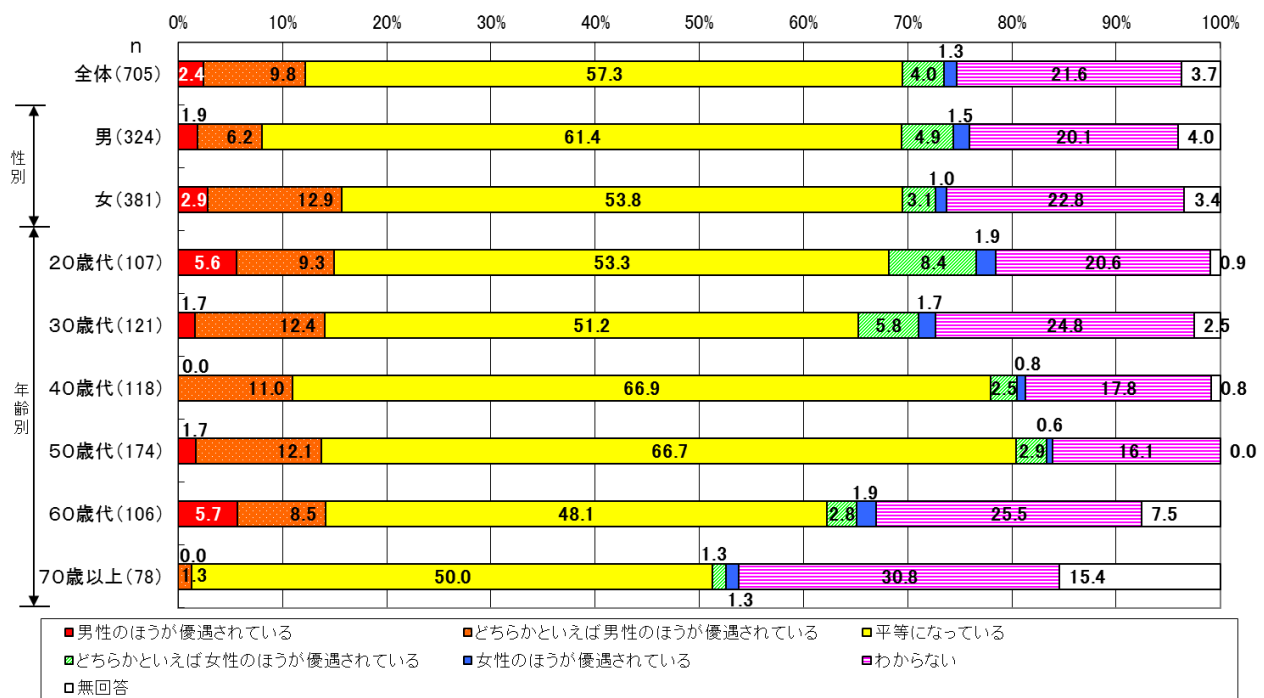
“男性優遇”と回答した男性回答者は45.4%であるのに対し、女性回答者は48.9%となっています。女性回答者は男性回答者よりも“男性優遇”と思う人の割合が高くなっています。

一方、“女性優遇”と回答した男性回答者は6.5%であるのに対し、女性回答者は4.7%となっています。男性回答者は女性回答者よりも“女性優遇”と思う人の割合が高くなっています。

【年齢別】

“男性優遇”と回答した人の割合は、50歳代で58.7%、60歳代で53.8%とそれぞれ5割を超えているのに対し、20歳代で33.6%と3割強になっています。

3. 学校教育の場では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(2.4%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(9.8%)を合わせた“男性優遇”と回答した人の割合は、12.2%と1割強に止まり、他の項目に比べ学校教育の場では“男性優遇”と思う人の割合が低くなっています。

一方、「平等になっている」と回答した人の割合は57.3%と他の項目に比べ最も高くなっています。

【性別】

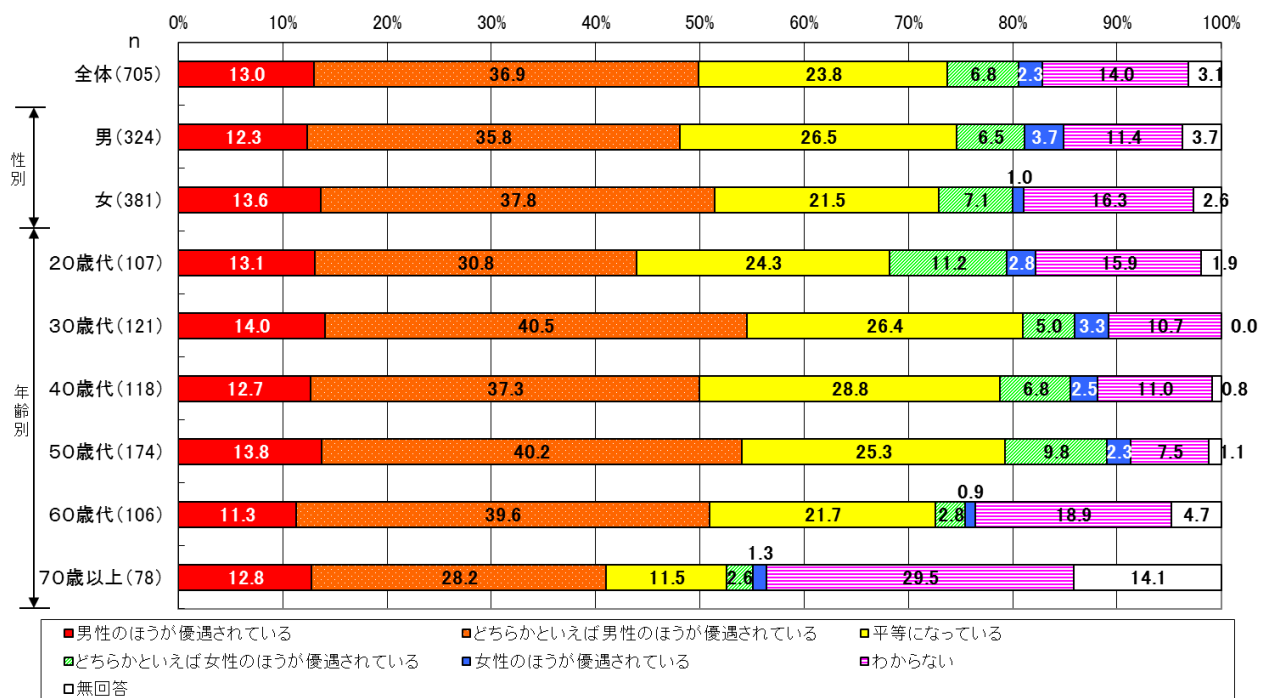
“男性優遇”と回答した男性回答者は8.1%であるのに対し、女性回答者は15.8%と、他の項目に比べ学校教育の場では“男性優遇”と思う人の割合が低くなっています。

「平等になっている」と回答した人は、男性回答者が61.4%と6割強、女性回答者が53.8%と5割強を占め、他の項目に比べ学校教育の場では「平等になっている」と思う人の割合が男女とも高くなっています。

【年齢別】

他の項目に比べ、すべての年齢層で「平等になっている」と思う人の割合が高くなっています。「平等になっている」と回答した人の割合は40歳代で66.9%と最も高く、次いで50歳代で66.7%と6割を超えています。

4. 職場では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(13.0%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(36.9%)を合わせた“男性優遇”と回答した割合は49.9%と約5割となっているのに対し、「女性のほうが優遇されている」(2.3%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(6.8%)を合わせた“女性優遇”と回答した割合は9.1%と約1割となっています。“男性優遇”と思う人の割合は“女性優遇”と思う人の割合よりも高くなっています。

「平等になっている」と回答した人の割合は23.8%と約2割となっています。

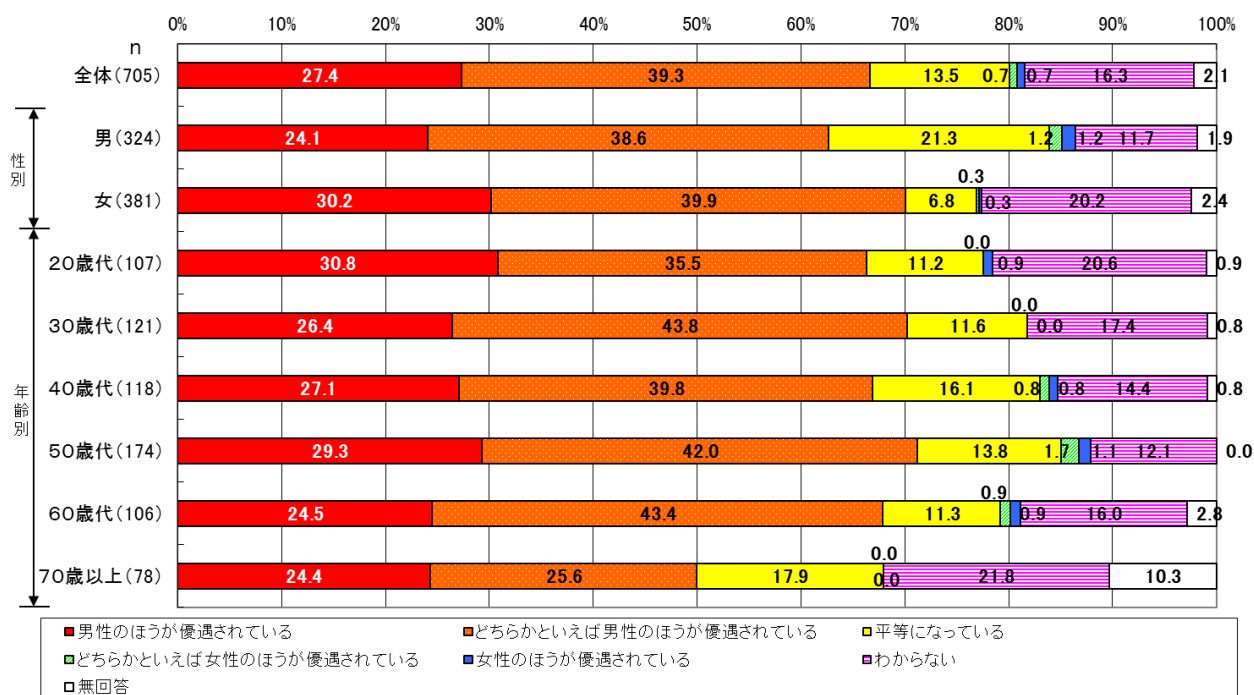
【性別】

“男性優遇”と回答した男性回答者は48.1%であるのに対し、女性回答者は51.4%と女性回答者は男性回答者よりも「男性のほうが優遇されている」と思う人の割合が高くなっています。「平等になっている」と回答した男性回答者は26.5%であるのに対し、女性回答者は21.5%となっており、男性回答者は女性回答者よりも「平等になっている」と思う人の割合が高くなっています。

【年齢別】

すべての年齢層において“男性優遇”と回答した人の割合が高くなっています。なお、「平等になっている」と回答した人の割合は、20歳代から60歳代までは、2割を超えています。70歳以上では11.5%と最も低くなっています。

5. 政治の場では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(27.4%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(39.3%)を合わせた“男性優遇”と回答した割合は66.7%と7割弱を占めるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(0.7%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(0.7%)を合わせた“女性優遇”の回答をした割合は1.4%と1割未満となっています。“男性優遇”と思う人の割合が他の項目に比べ最も高くなっています。

【性別】

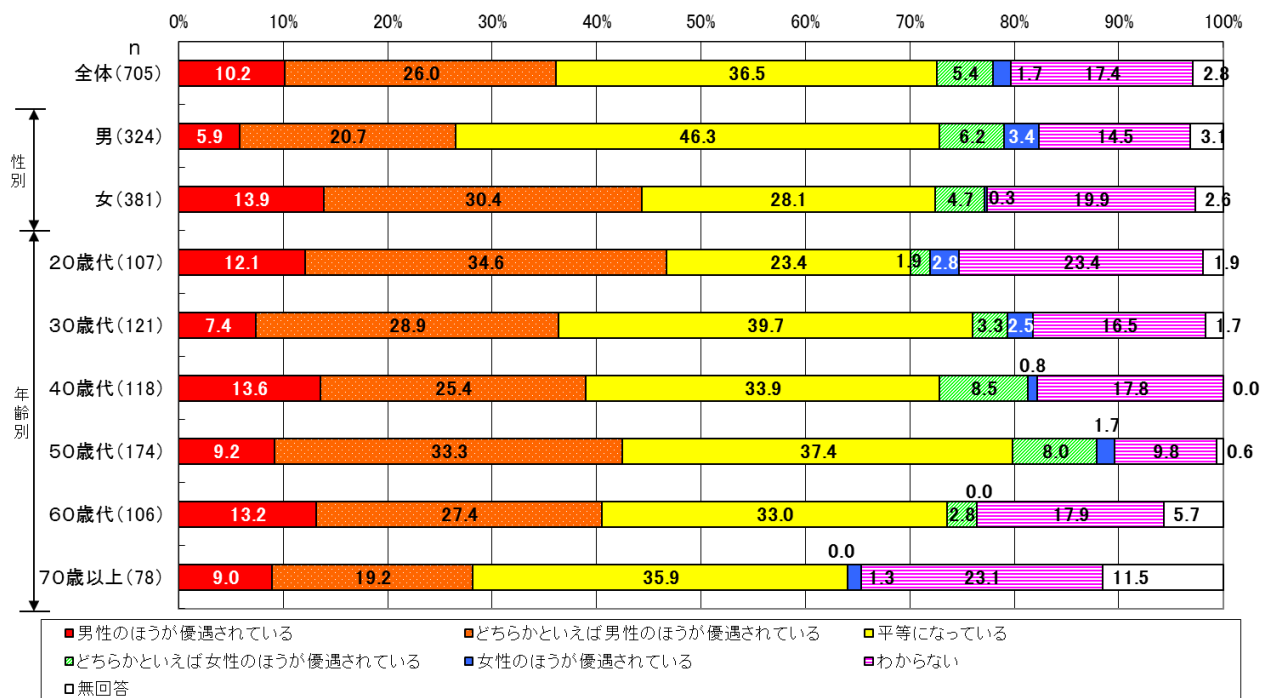
“男性優遇”と回答した男性回答者は62.7%と6割強、女性回答者は70.1%と7割を超えています。“男性優遇”と思う人の割合は“女性優遇”と思う人の割合よりも高くなっています。

「平等になっている」と回答した男性回答者は21.3%と約2割であるのに対し、女性回答者は6.8%と1割に満たず、男性回答者と女性回答者のポイント差が顕著になっています。

【年齢別】

いずれの年齢層においても“男性優遇”と回答した人の割合が5割以上を占めており、他の項目に比べて“男性優遇”と思う人の割合が高くなっています。

6. 法律や制度上では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(10.2%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(26.0%)を合わせた“男性優遇”と回答した割合は36.2%と4割弱であるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(1.7%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(5.4%)を合わせた“女性優遇”と回答した割合は7.1%と1割未満となっています。“男性優遇”と思う人の割合は“女性優遇”と思う人の割合よりも高くなっています。

【性別】

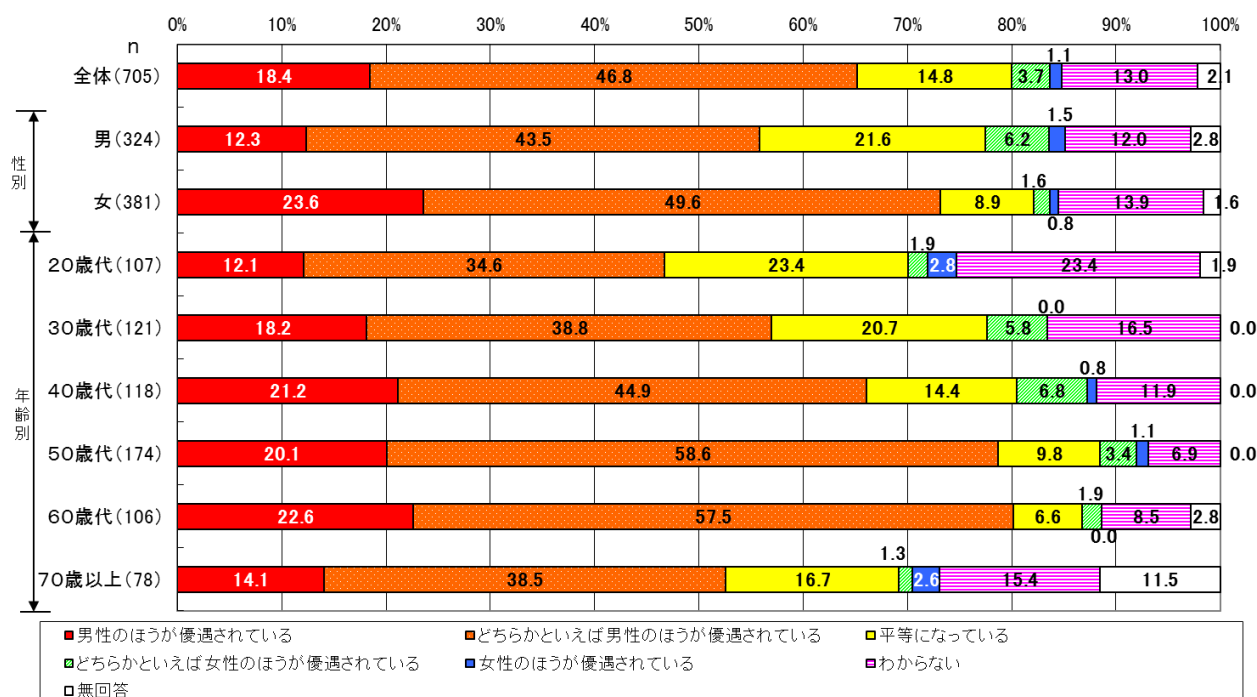
“男性優遇”と回答した男性回答者は26.6%と3割弱であるのに対し、女性回答者は44.3%と4割を超えており、男性回答者よりも女性回答者のほうが、“男性優遇”と思う人の割合が高くなっています。

「平等になっている」と回答した女性回答者は28.1%と3割弱であるのに対し、男性回答者は46.3%と4割を超えており、男性回答者は女性回答者よりも「平等になっている」と思う人の割合が高くなっています。

【年齢別】

“男性優遇”と回答した人の割合は、20歳代で46.7%と最も高く、次いで50歳代で42.5%と4割を超えています。

7. 社会通念・慣習では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(18.4%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(46.8%)を合わせた“男性優遇”と回答した割合は65.2%と6割を超えるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(1.1%)と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(3.7%)を合わせた“女性優遇”の回答をした割合は4.8%と1割未満となっています。“男性優遇”と思う人の割合は“女性優遇”と思う人の割合よりも高くなっています。

「平等になっている」と回答した人の割合は14.8%となっています。

【性別】

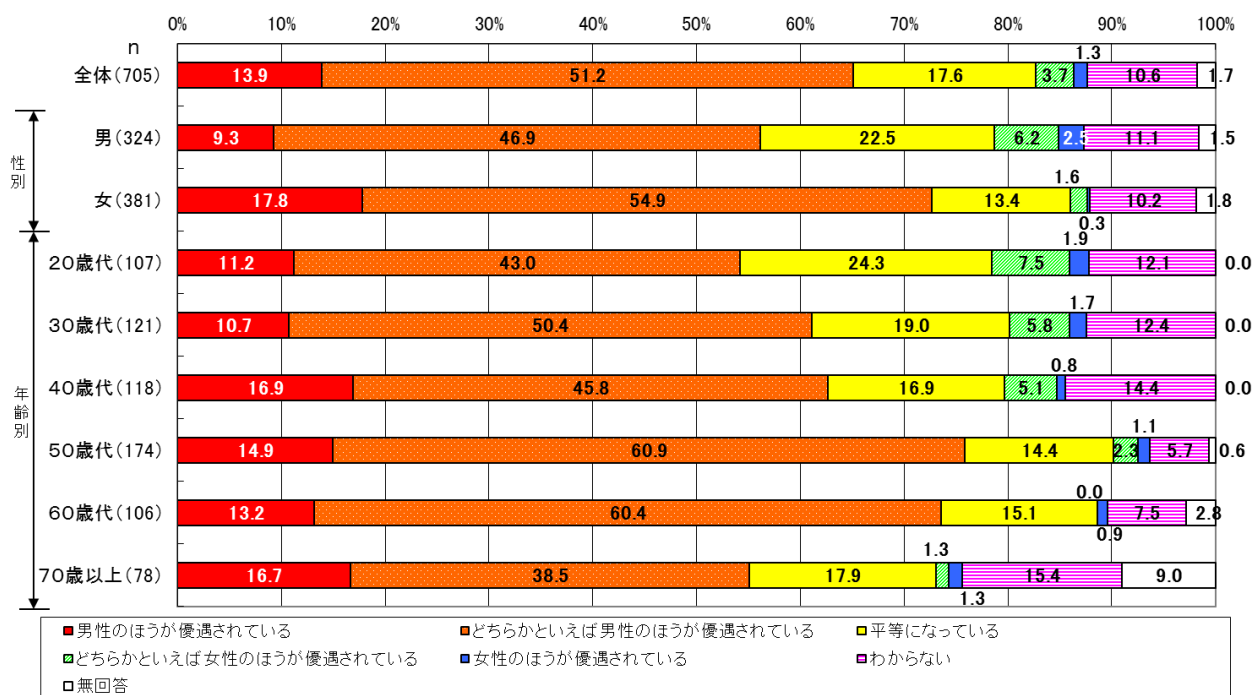
“男性優遇”と回答した男性回答者は55.8%であるのに対し、女性回答者は、73.2%と7割を超えており、女性回答者は男性回答者よりも“男性優遇”と思う人の割合が高くなっています。

「平等になっている」と回答した男性回答者は21.6%と約2割であるのに対し、女性回答者は8.9%と1割に満たず、男性回答者と女性回答者のポイント差が顕著になっています。

【年齢別】

“男性優遇”と回答した人の割合は、20歳代(46.7%)から60歳代(80.1%)にかけて年齢が高くなるにしたがって、高くなっています。「平等になっている」と回答した人の割合は、20歳代で23.4%と最も高く、次いで30歳代で20.7%と、50歳代以下では年齢層が低いほど「平等になっている」と思う人の割合が高くなっています。

8. 社会全体では



【全体】

「男性のほうが優遇されている」(13.9%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(51.2%)を合わせた“男性優遇”と回答した割合は65.1%と7割弱であるのに対し、「女性のほうが優遇されている」(1.3%)、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」(3.7%)を合わせた“女性優遇”と回答をした割合は5.0%と1割未満となっています。“男性優遇”と思う人の割合は“女性優遇”と思う人の割合よりも高くなっています。

「平等になっている」と回答した人の割合は17.6%と2割弱となっています。

【性別】

“男性優遇”と回答した男性回答者は56.2%であるのに対し、女性回答者は72.7%と7割を超えており、女性回答者は男性回答者よりも“男性優遇”と思う人の割合が高くなっています。

「平等になっている」と回答した人の割合は、女性回答者が13.4%であるのに対し、男性回答者は22.5%となっており、男性回答者は女性回答者よりも「平等になっている」と思う人の割合が高くなっています。

【年齢別】

“男性優遇”と回答した人の割合は、50歳代で75.8%と最も高く、次いで60歳代で73.6%と7割を超えています。一方、“男性優遇”と回答した人の割合が最も低いのは、20歳代で54.2%となっています。

[前回調査（平成20年）との比較]

	優男 遇性 さの れほ てう いが る	優ばど 遇男 さ性 れのか てほ とい うが え	る平 等 にな って い	優ばど 遇女 さ性 れのか てほ とい うが え	優女 遇性 さの れほ てう いが る	わ か ら な い	無 回 答
H20	14.5	46.2	18.9	4.4	0.9	10.2	4.9
H26	13.9	51.2	17.6	3.7	1.3	10.6	1.7

「男性のほうが優遇されている」（平成20年14.5%、平成26年13.9%）、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（平成20年46.2%、平成26年51.2%）を合わせた“男性優遇”と回答した人の割合は、今回調査では65.1%であり、前回調査（60.7%）に比べ4.4ポイント増加しています。

「女性のほうが優遇されている」（平成20年0.9%、平成26年1.3%）、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」（平成20年4.4%、平成26年3.7%）を合わせた“女性優遇”と回答をした人の割合は、今回調査では5.0%であり、前回調査（5.3%）と同程度となっています。

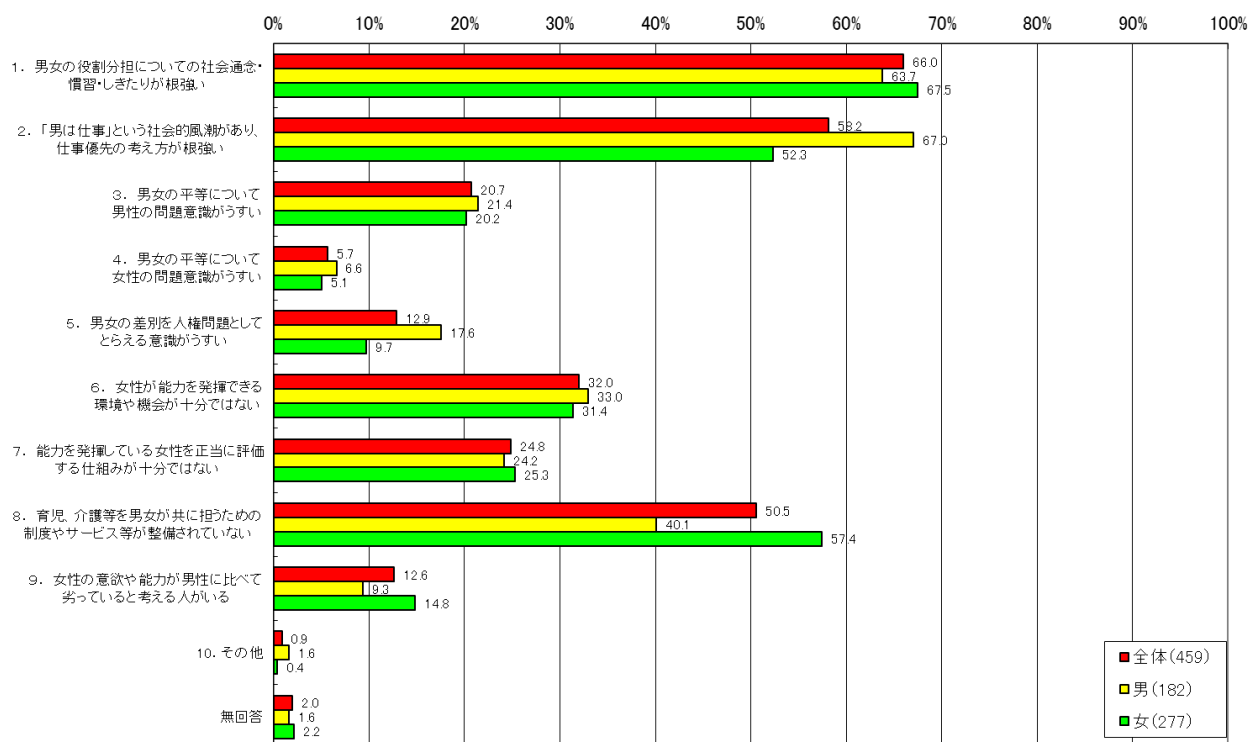
「平等になっている」と回答した人の割合は、今回調査では17.6%であり、前回調査（18.9%）に比べ1.3ポイント減少しています。

1-2 男性のほうが優遇されていると思う理由

問1-1 問1の「8. 社会全体では」の項目で、「1」または「2」と回答した方のみお答えください。社会全体の中で、男性のほうが優遇されていると思う原因は何だと思えますか。（〇は3つまで）

【全体】

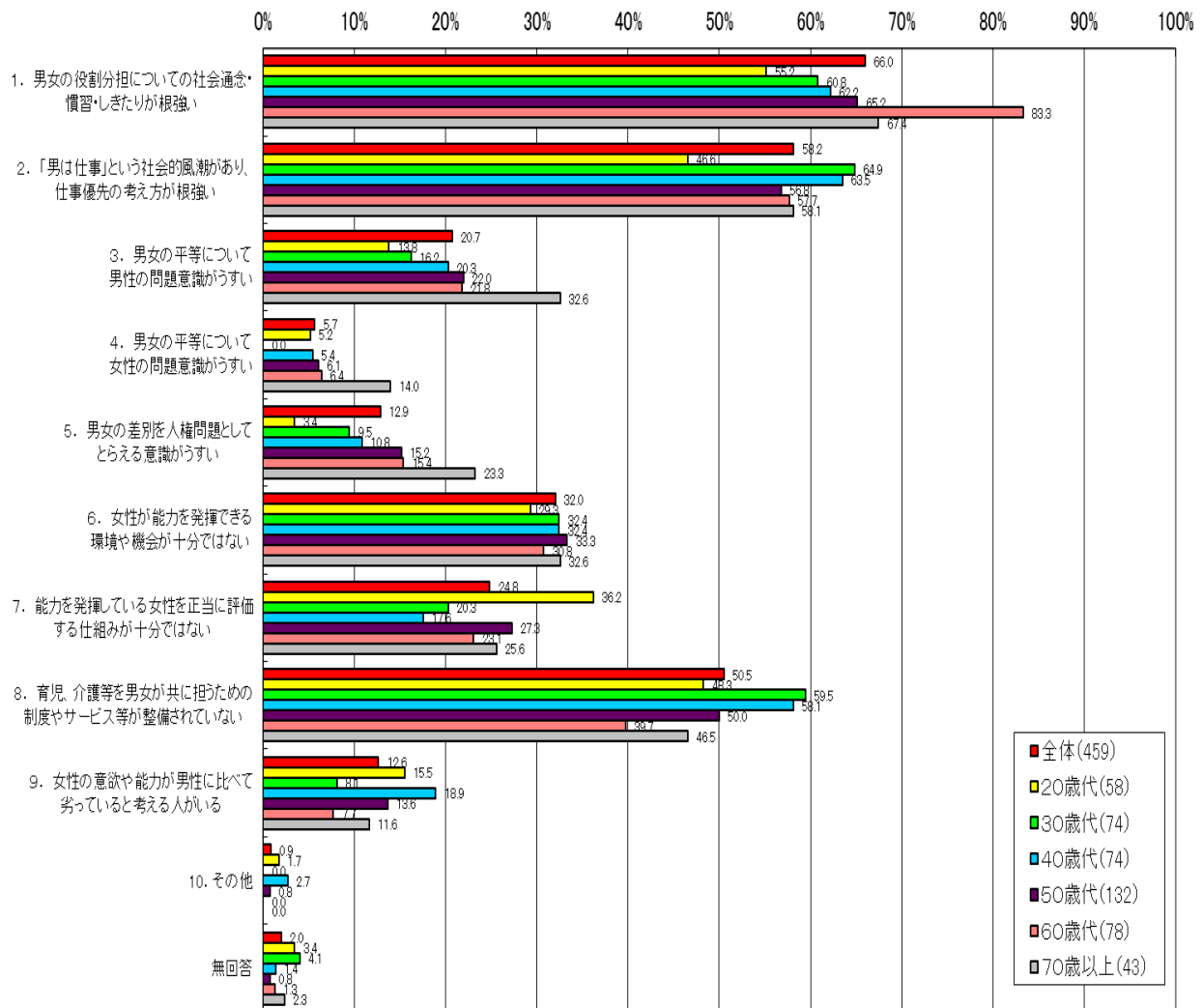
「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」（66.0%）と回答した人の割合が最も高く、次いで、「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」（58.2%）、「育児、介護等を男女が共に担うための制度やサービス等が整備されていない」（50.5%）と回答した人の割合が高くなっています。



【性別】

男性回答者は、「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」の回答が 67.0%と7割弱を占め最も多く、次いで「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」の回答が 63.7%となっています。

女性回答者は、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」の回答が 67.5%と最も多く、次いで「育児、介護等を男女が共に担うための制度やサービス等が整備されていない」の回答が 57.4%となっています。



【年齢別】

20 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」と回答した人の割合が最も高く、特に 60 歳代で 83.3%と 8 割を超えています。30 歳代、40 歳代では「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」と回答した人の割合が最も高くなっています。「育児、介護等を男女が共に担うための制度やサービス等が整備されていない」と回答した人の割合は、30 歳代で 59.5%、40 歳代で 58.1%となっており、他の年齢層よりも高くなっています。

1－3 用語の認知度

問2 あなたは、次の言葉を知っていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

【全体】

「よく知っている」、「少しは知っている」を合わせた割合は、『セクハラ（セクシャル・ハラスメント）』の項目で92.5%と9割を超え最も高くなっており、次いで『DV（ドメスティック・バイオレンス）』の項目で87.9%と8割を超えています。

一方、「知らない」と回答した割合は、『ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）』の項目で56.6%と最も高く、次いで『ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』の項目で54.2%、『女子差別撤廃条約』の項目で52.9%と5割を超えています。

【性別】

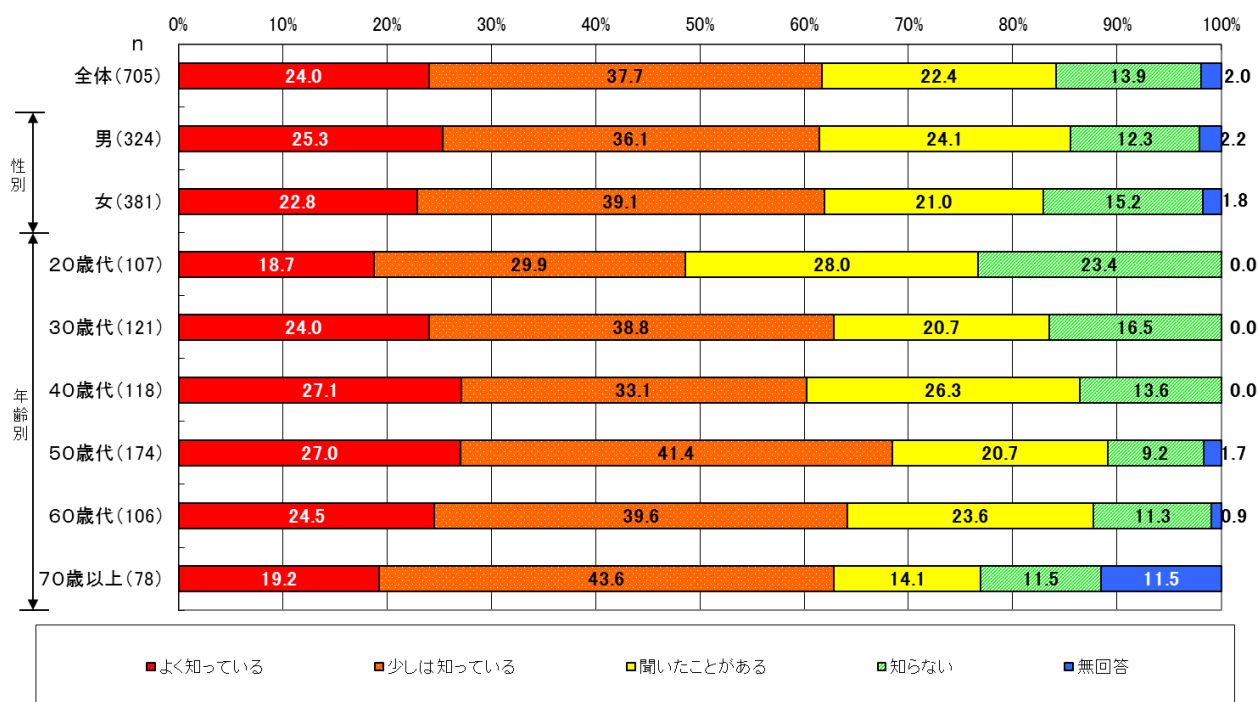
「よく知っている」、「少しは知っている」を合わせた割合は、『男女共同参画社会基本法』『女子差別撤廃条約』『ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』の3項目で、女性より男性のほうが高くなっています。

一方、『男女雇用機会均等法』『ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）』『セクハラ（セクシャル・ハラスメント）』『DV（ドメスティック・バイオレンス）』『ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』の5項目では、男性より女性のほうが「よく知っている」、「少しは知っている」を合わせた割合が高くなっています。

【年齢別】

『セクハラ（セクシャル・ハラスメント）』『DV（ドメスティック・バイオレンス）』の2項目では、すべての年齢層で「よく知っている」と回答した割合が「知らない」と回答した割合を大きく上回っており、その割合は、20歳代、30歳代の若い年齢層で他の年齢層よりも高くなっています。

1. 男女雇用機会均等法



【全体】

「よく知っている」(24.0%)、「少しは知っている」(37.7%)を合わせた割合は、61.7%で約6割を占めています。

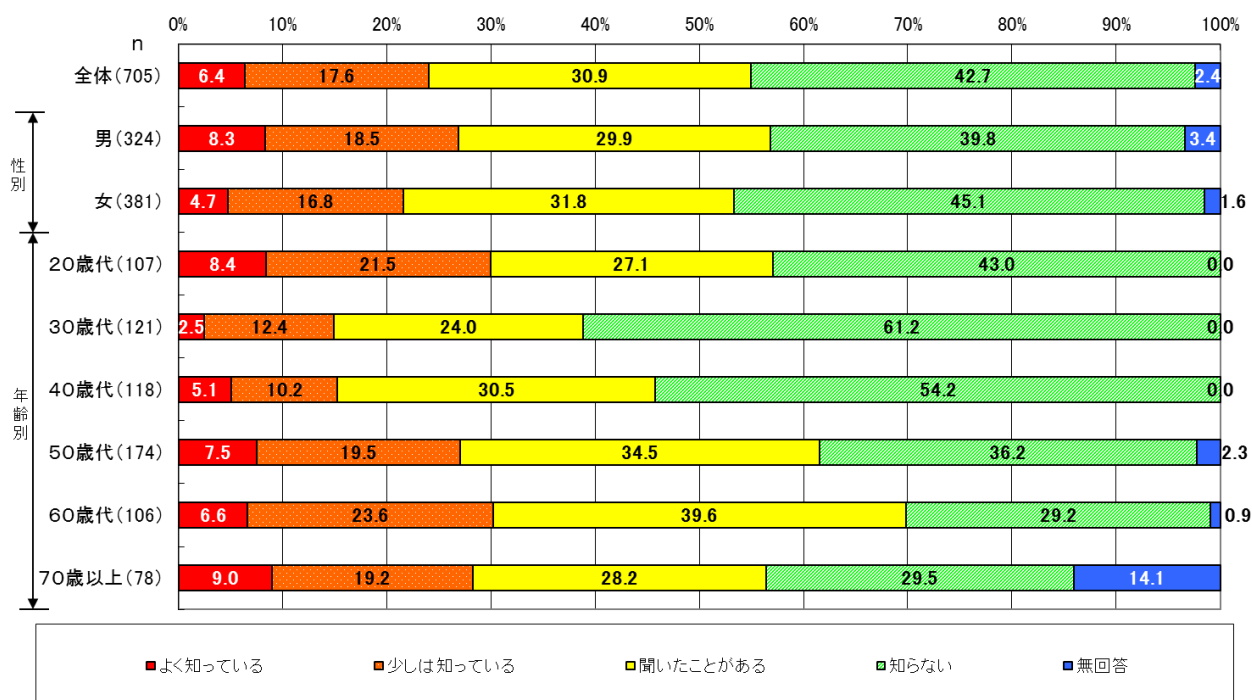
【性別】

「よく知っている」、「少しは知っている」を合わせた割合は、男性回答者が61.4%であり、女性回答者が61.9%で男女とも約6割となっています。

【年齢別】

すべての年齢層において「よく知っている」、「少しは知っている」を合わせた割合が、「知らない」と回答した割合を上回っています。一方、「知らない」と回答した人の割合は、20歳代(23.4%)から50歳代(9.2%)にかけて年齢が高くなるにしたがって、少なくなっています。

2. 男女共同参画社会基本法



【全体】

「知らない」と回答した割合が42.7%で最も高く、次いで「聞いたことがある」(30.9%)、「少しは知っている」(17.6%)となっています。

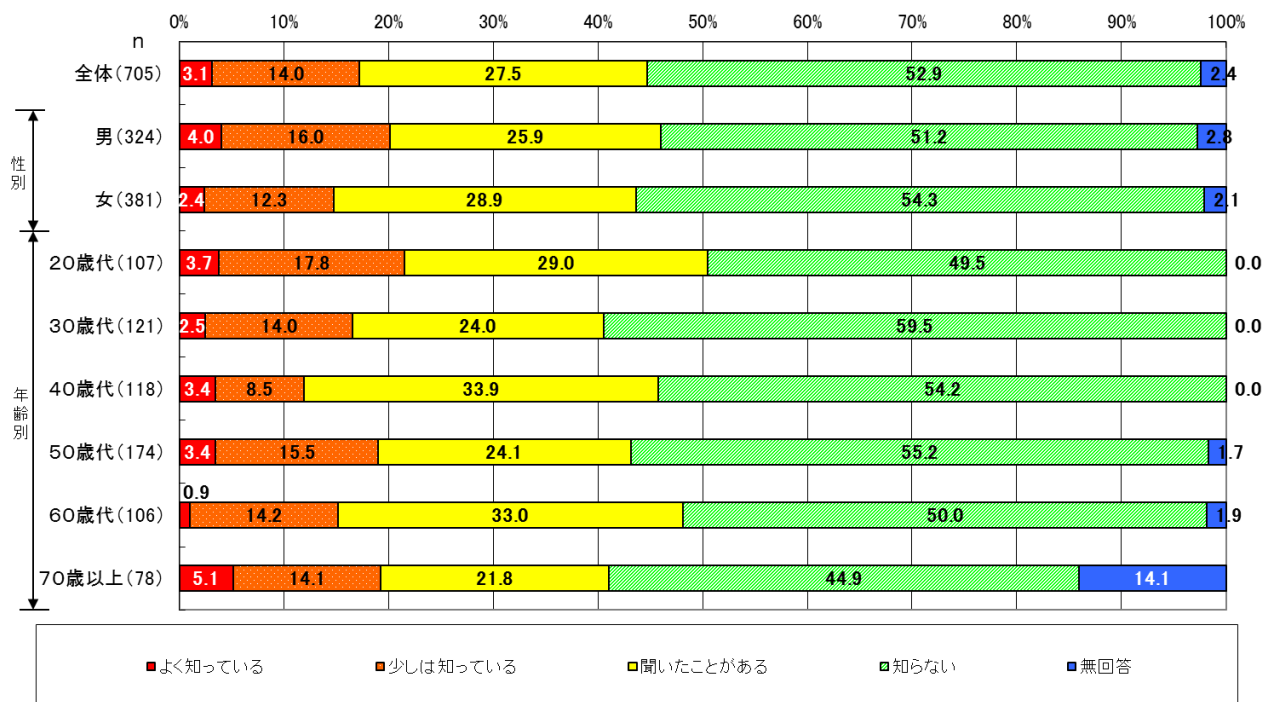
【性別】

「よく知っている」「少しは知っている」を合わせた割合は、男性回答者が26.8%、女性回答者が21.5%となっており、男性回答者は女性回答者よりも「知っている」と回答した人の割合が高くなっています。

【年齢別】

「知らない」と回答した人の割合は、30歳代で61.2%と最も高く、40歳代(54.2%)、50歳代(36.2%)、60歳代(29.2%)と60歳代以下では年齢が高くなるにしたがって、低くなっています。「よく知っている」「少しは知っている」を合わせた割合は、60歳代で最も高く30.2%、次いで20歳代で29.9%となっています。

3. 女子差別撤廃条約



【全体】

「知らない」と回答した割合が 52.9% で最も高く、次いで「聞いたことがある」(27.5%)、「少しは知っている」(14.0%) となっています。「よく知っている」と回答した割合は、3.1% で他の項目よりも低くなっています。

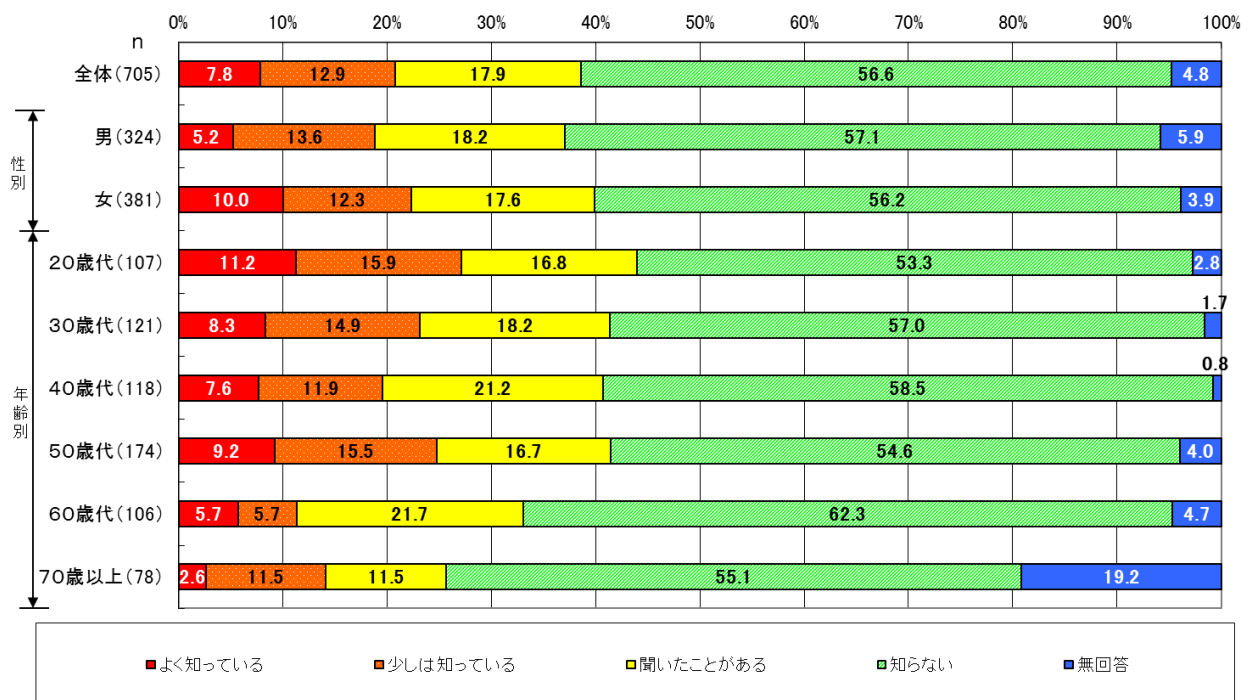
【性別】

「知らない」と回答した割合は、男性回答者が 51.2%、女性回答者が 54.3% でいずれも 5 割を超えています。

【年齢別】

「よく知っている」「少しは知っている」を合わせた割合は、20 歳代 (21.5%) が最も高く、次いで 70 歳以上 (19.2%) となっています。それに対して、「知らない」と回答した割合は、30 歳代で 59.5% と最も高く、次いで 50 歳代で 55.2% となっています。

4. ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）



【全体】

「知らない」と回答した割合が、56.6%で8項目の中で最も高くなっています。「よく知っている」、「少しは知っている」を合わせた割合は、20.7%となっています。

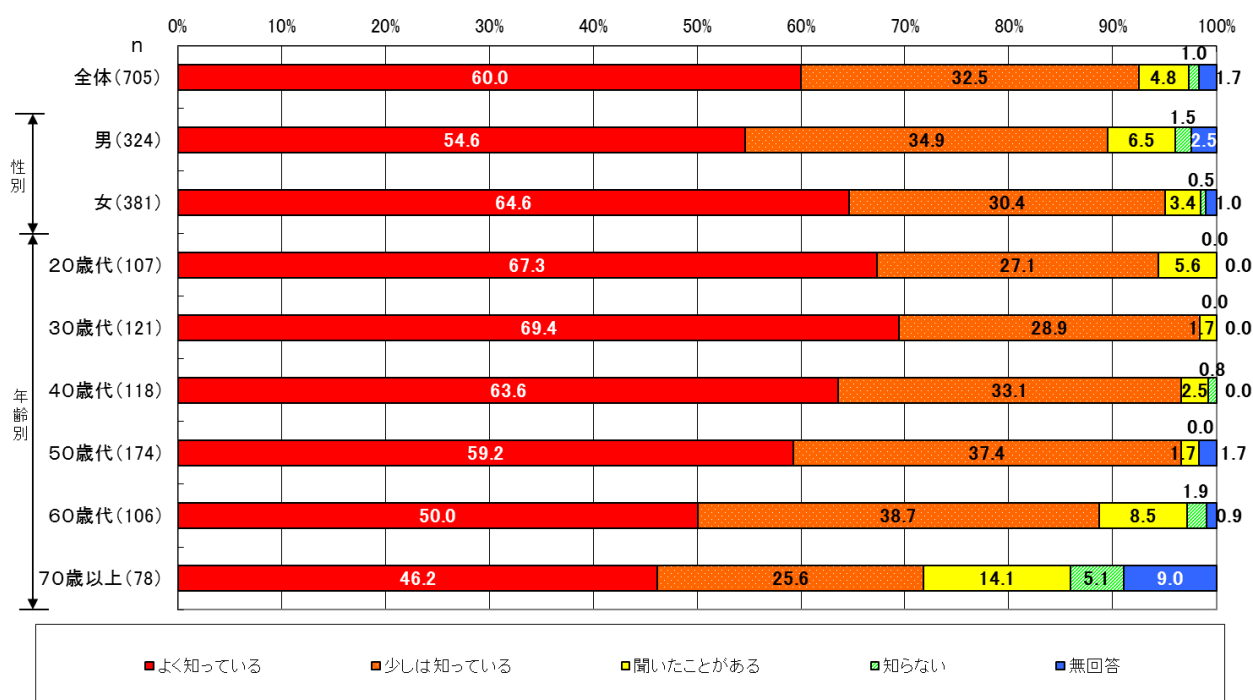
【性別】

「よく知っている」と回答した割合は、男性回答者が5.2%であるのに対し、女性回答者が10.0%で、女性回答者は男性回答者よりも高くなっています。「知らない」と回答した割合は、男性回答者が57.1%、女性回答者が56.2%で男女とも5割を超えています。

【年齢別】

「知らない」と回答した割合は、すべての年齢層で5割を超えています。特に60歳代で62.3%と6割を超えています。

5. セクハラ（セクシャル・ハラスメント）



【全体】

「よく知っている」と回答した割合は、60.0%で8項目の中で最も高くなっています。「少しは知っている」と回答した割合は 32.5%で、「知っている」と回答した割合は 92.5%で、9割以上となっています。

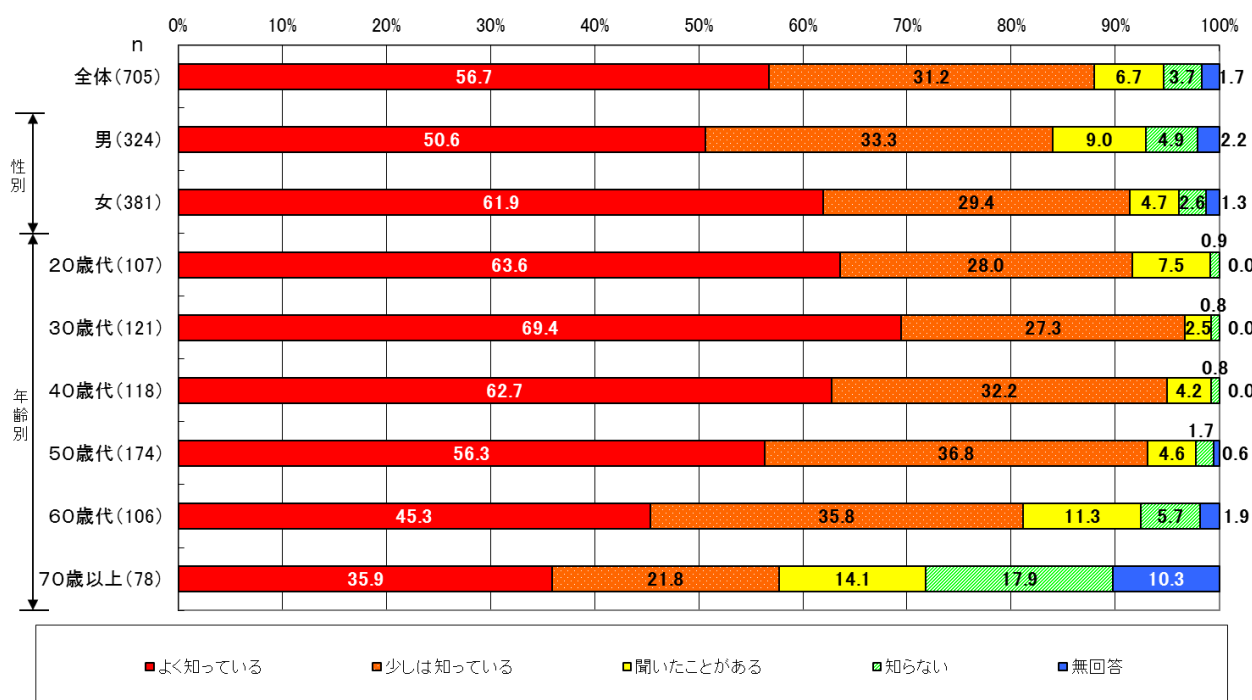
【性別】

「よく知っている」と回答した割合は、男性回答者が 54.6%、女性回答者が 64.6%、「少しは知っている」と回答した割合は、男性回答者が 34.9%、女性回答者が 30.4%となっています。女性回答者は男性回答者よりも「知っている」と回答した割合が高くなっています。

【年齢別】

「よく知っている」と回答した人の割合は、30歳代（69.4%）から70歳以上（46.2%）にかけて年齢が高くなるにしたがって、低くなっています。なお、20歳代、30歳代、50歳代では、「知らない」と回答した人はいませんでした。

6. DV（ドメスティック・バイオレンス）



【全体】

「よく知っている」と回答した割合が 56.7% で最も高く、次いで「少しは知っている」と回答した割合が 31.2% となっています。「よく知っている」と「少しは知っている」を合わせた割合は 87.9% で約 9 割となっており、「知っている」と回答した割合が他の項目に比べて高くなっています。

【性別】

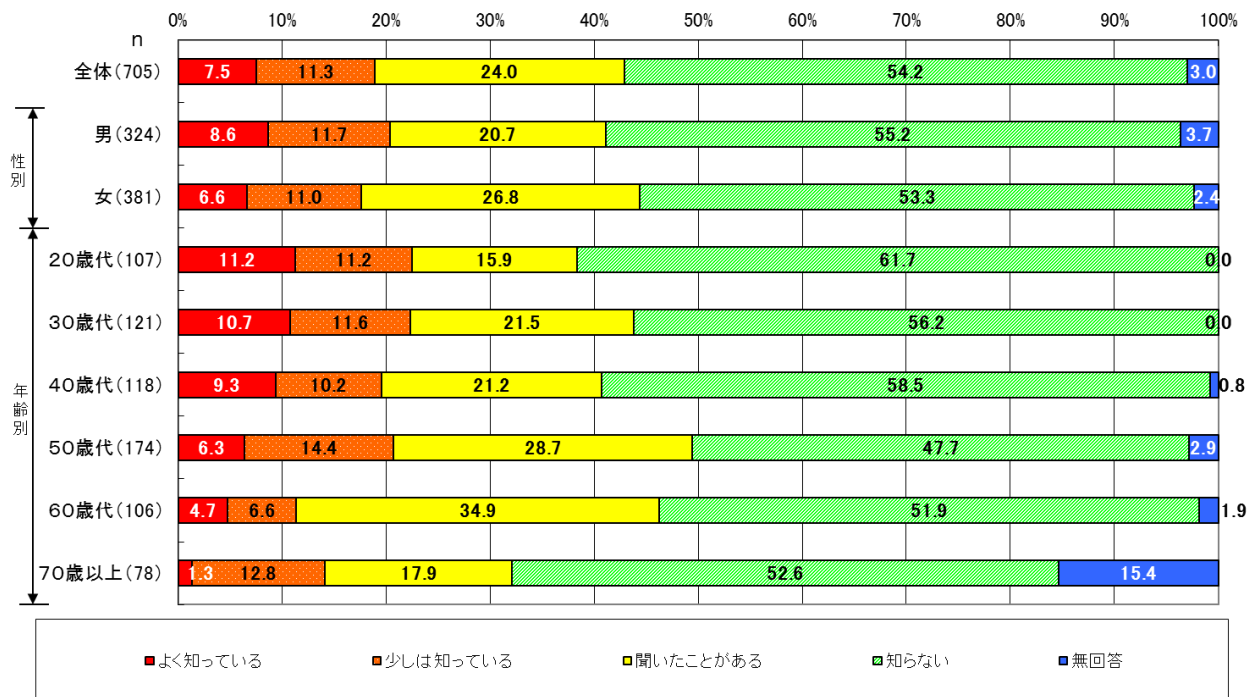
「よく知っている」と回答した割合は、男性回答者が 50.6%、女性回答者が 61.9%、「少しは知っている」と回答した割合は、男性回答者が 33.3%、女性回答者が 29.4% となっています。女性回答者は男性回答者よりも「知っている」と回答した割合が高くなっています。

【年齢別】

「よく知っている」と回答した割合は、30 歳代 (69.4%) から 70 歳以上 (35.9%) にかけて年齢が高くなるにしたがって、低くなっています。

一方、「知らない」と回答した割合は、20 歳代 (0.9%) から 60 歳代 (5.7%) にかけては 1 割未満であるのに対し、70 歳以上では 17.9% となっています。

7. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



【全体】

「知らない」と回答した割合が 54.2% で最も高く、次いで「聞いたことがある」(24.0%)、「少しは知っている」(11.3%) となっています。

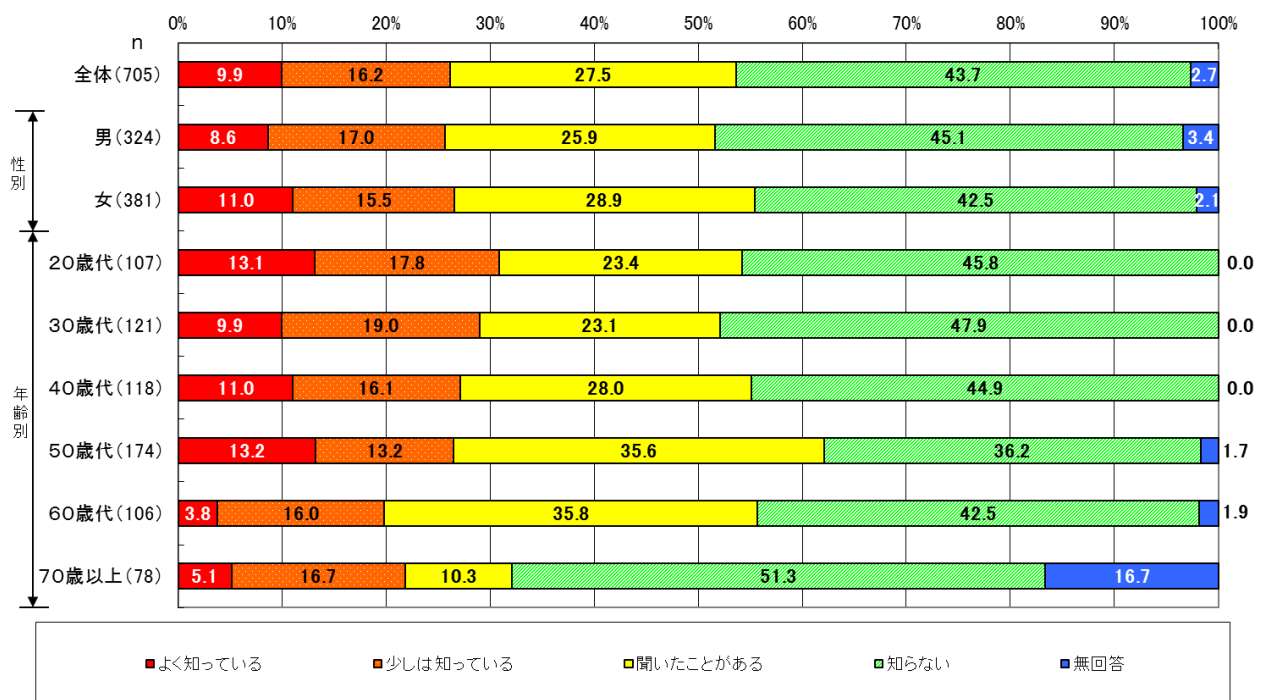
【性別】

「知らない」と回答した割合は、男性回答者が 55.2%、女性回答者が 53.3% となっており、男女とも 5 割を超えています。

【年齢別】

すべての年齢層で「知らない」と回答した割合が「よく知っている」「少しは知っている」を合わせた割合を上回っています。

8. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



【全体】

「知らない」と回答した割合が 43.7% で最も高く、次いで「聞いたことがある」(27.5%)、「少しは知っている」(16.2%) となっています。

【性別】

「知らない」と回答した割合は、男性回答者が 45.1%、女性回答者が 42.5% で男女とも 4 割を超えています。

【年齢別】

「よく知っている」と「少しは知っている」を合わせた割合は、20 歳代 (30.9%) から 60 歳代 (19.8%) にかけて年齢が高くなるにしたがって、低くなっています。

2 男女の役割分担について

2-1 男女の役割意識

問3 次に掲げる考え方について、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

【全体】

3つの項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定の考え方については、『性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい』『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』ともに89.2%とほとんどの人が肯定的な立場になっています。一方、『男は仕事、女は家庭』という考え方を肯定している人は32.3%と最も少なくなっています。

【性別】

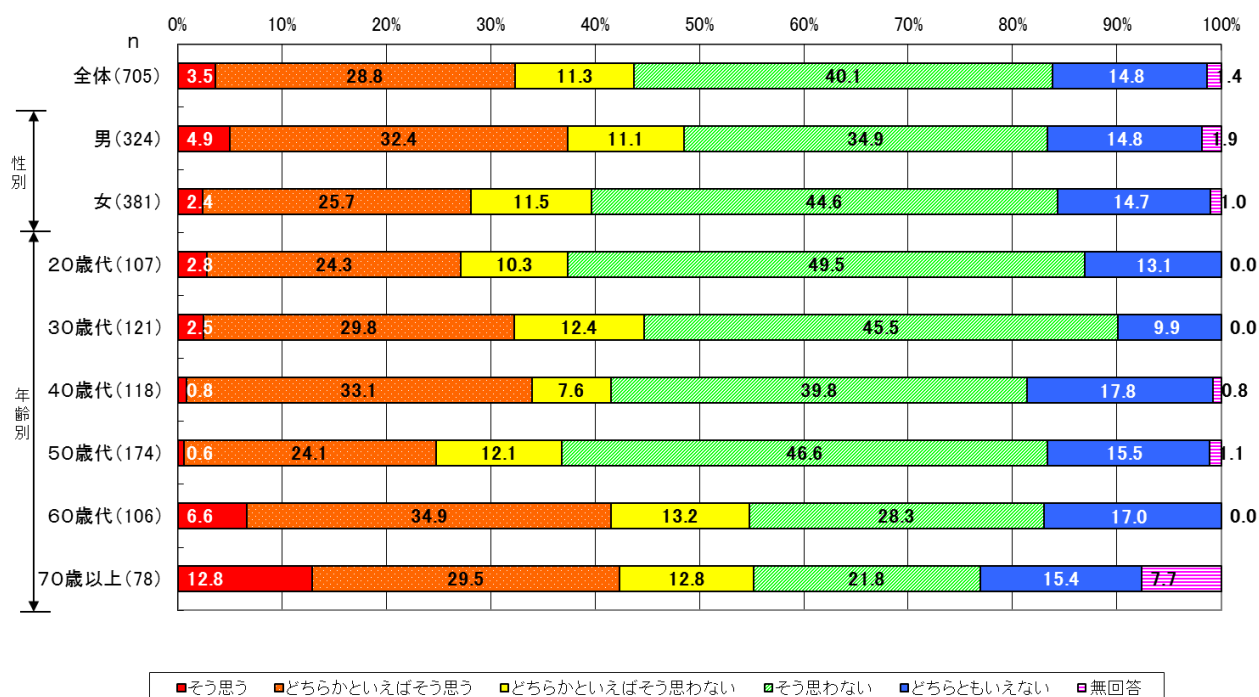
男女とも『性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい』や『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』という考え方については、肯定的な立場の方が多くなっています。『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』という考え方については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した男性回答者の割合が84.9%と8割強であるのに対し、女性回答者の割合が92.9%と9割を超えており、女性回答者は男性回答者よりもこの考え方に肯定的であると考えられます。

【年齢別】

いずれの年齢層でも『性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい』や『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』という考え方については、ほとんどの人が肯定的な立場にあります。『男は仕事、女は家庭』という考え方については、60歳代及び70歳以上の高い年齢層とそれより若い年齢層とで、回答内容に差が見られます。

『男は仕事、女は家庭』を見ると、20歳代から50歳代まで否定的な考え方が肯定的な考え方を上回っているのに対し、60歳代では両者同数、70歳代では肯定的な考え方のほうが上回っています。したがって、年齢層が高いほどこの考え方に肯定的な人が多いと考えられます。

1. 男は仕事、女は家庭



【全体】

「そう思う」（3.5%）「どちらかといえばそう思う」（28.8%）を合わせた肯定的な考え方の人の割合が32.3%であるのに対し、「どちらかといえばそう思わない」（11.3%）「そう思わない」（40.1%）を合わせた否定的な考え方の人の割合は51.4%となっています。『男は仕事、女は家庭』という考え方に肯定的な人の割合より否定的な人の割合のほうが19.1ポイント高くなっています。

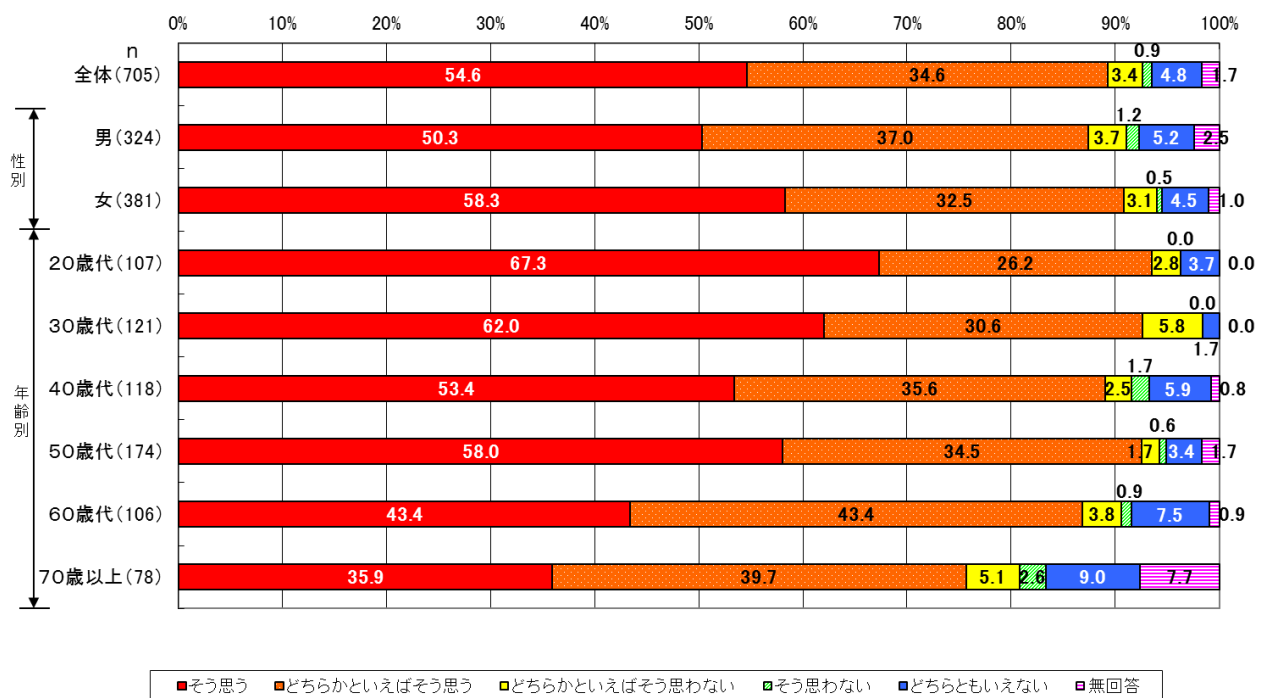
【性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、男性回答者が37.3%と4割弱、女性回答者が28.1%と3割弱となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、男性回答者が46.0%と5割弱、女性回答者が56.1%と5割を超えており、女性回答者は男性回答者よりも否定的な考えである傾向にあります。

【年齢別】

20歳代から50歳代にかけて「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた否定的な考え方の人の割合が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な考え方の人の割合を上回っているのに対し、60歳代では肯定的な考え方の人の割合が41.5%、否定的な考え方の人の割合が41.5%で同数、70歳以上では肯定的な考え方の人の割合が42.3%、否定的な考え方の人の割合が34.6%で、肯定的な考え方の人の割合が否定的な考え方の人の割合を7.7ポイント上回っています。

2. 性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい



【全体】

「そう思う」(54.6%)、「どちらかといえばそう思う」(34.6%)を合わせた肯定的な考え方の人の割合が89.2%と約9割であるのに対し、「そう思わない」(0.9%)、「どちらかといえばそう思わない」(3.4%)を合わせた否定的な考え方の人の割合は4.3%となっています。『性別にかかわらず個性と能力を重視したほうがよい』という考え方には、肯定的な考え方の人の割合が否定的な考え方の人の割合を大きく上回っています。

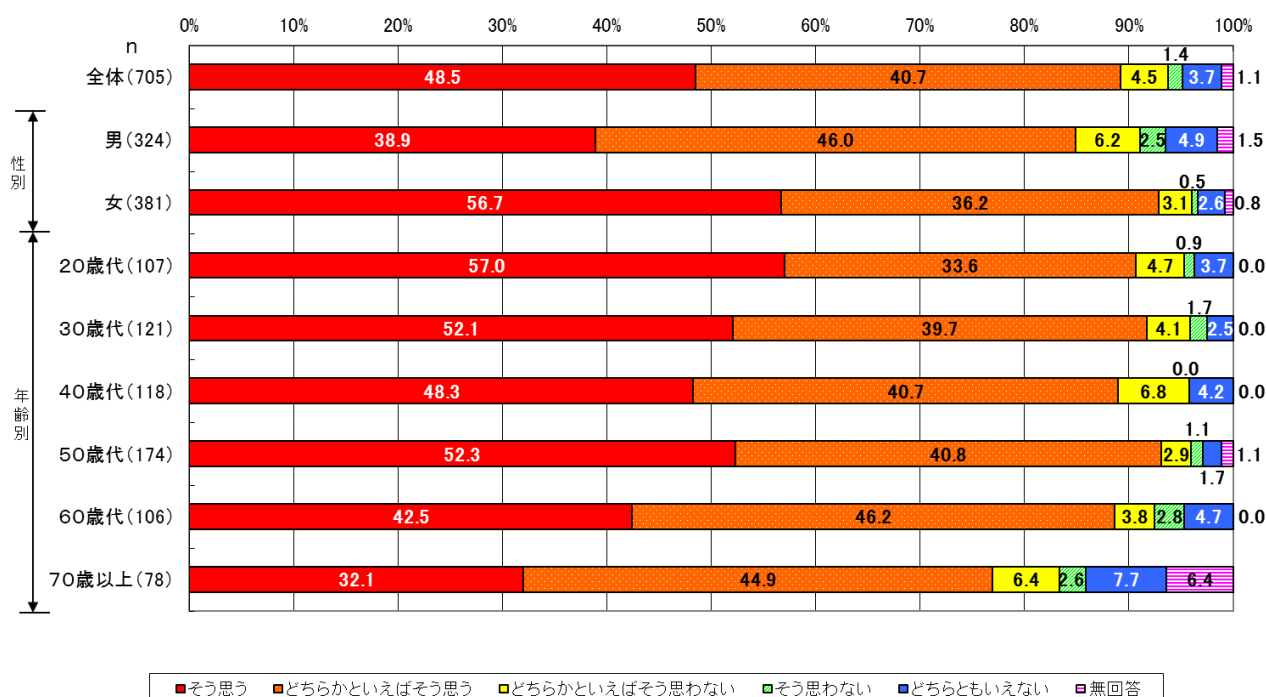
【性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な考え方の人の割合は、男性回答者は87.3%、女性回答者は90.8%と、『性別にかかわらず個性と能力を重視したほうがよい』という考え方には男性も女性もほとんどの人が肯定の立場にあります。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、20歳代で93.5%と最も高く、次いで30歳代で92.6%、最も低い70歳以上でも75.6%と7割以上を占めており、すべての年齢層において『性別にかかわらず個性と能力を重視したほうがよい』という考え方に肯定的な立場の人が多くなっています。

3. 性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である



【全体】

「そう思う」(48.5%)「どちらかといえばそう思う」(40.7%)を合わせた肯定的な考え方の人の割合が89.2%であるのに対し、「そう思わない」(1.4%)「どちらかといえばそう思わない」(4.5%)を合わせた否定的な考え方の人の割合は5.9%と、『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』という考え方にはほとんどの人が肯定の立場にあります。

【性別】

男女とも、『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』という考え方について肯定的な人が多くなっています。男性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた男性回答者の割合は84.9%と8割強、女性回答者の割合は92.9%と9割を超えており、女性回答者は男性回答者よりも肯定的な考え方の人の割合が高くなっています。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、50歳代で93.1%と最も高く、次いで30歳代で91.8%と約9割を占め、最も低い70歳以上でも77.0%と約8割を占めています。したがって、すべての年齢層において『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』という考え方にはほとんどの人が肯定の立場にあります。

[前回調査（平成20年）との比較]

1. 男は仕事、女は家庭

	そう 思う	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	思 い ど わ え ち な ば ら い そ か う と	い そ う 思 わ な	い ど え ち な い と も	無 回 答
H20	7.0	27.6	11.0	34.9	14.8	4.7
H26	3.5	28.8	11.3	40.1	14.8	1.4

「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせると平成20年（45.9%）よりも平成26年（51.4%）は5.5ポイント増加しており、『男は仕事、女は家庭』という考え方に否定的な人が増えました。

2. 性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい

	そう 思う	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	思 い ど わ え ち な ば ら い そ か う と	い そ う 思 わ な	い ど え ち な い と も	無 回 答
H20	60.2	25.0	2.3	2.6	5.2	4.7
H26	54.6	34.6	3.4	0.9	4.8	1.7

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると平成20年（85.2%）よりも平成26年（89.2%）は4.0ポイント増加しており、『性別にかかわらず個性と能力を重視したほうがよい』という考え方に肯定的な人が増えました。

3. 性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である

	そう 思う	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	思 い ど わ え ち な ば ら い そ か う と	い そ う 思 わ な	い ど え ち な い と も	無 回 答
H20	55.5	28.5	3.5	4.4	3.2	4.9
H26	48.5	40.7	4.5	1.4	3.7	1.1

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると平成20年（84.0%）よりも平成26年（89.2%）は5.2ポイント増加しており、『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』という考え方に肯定的な人が増えました。

2-2 家庭における役割分担

問4-1 問4で「2」と回答した方のみお答えください。あなたの家庭では、次の項目について、どなたの役割になっていますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

【全体】

「主に妻」が行う割合は、『食事のしたく』（85.6%）が最も高く、次いで『洗濯』（83.7%）となっており、いずれも8割を超えています。『地域活動への参加』以外の10項目で「主に妻」が行う割合が「主に夫」が行う割合を上回っており、女性に家事の負担が偏っている傾向にあります。

「主に夫」が行う割合は、『地域活動への参加』（37.2%）が最も高く、次いで『ごみ出し』（30.5%）となっています。

「家族で分担」して行う割合は、『地域活動への参加』（37.2%）が最も高く、次いで『食料品・日用品の買い物』（29.6%）となっています。

「その他の人（男性）」が行う割合は、『ごみ出し』（3.6%）が最も高く、次いで『地域活動への参加』（3.4%）となっています。

「その他の人（女性）」が行う割合は、『食事のしたく』（4.0%）が最も高く、次いで『ごみ出し』（3.6%）となっています。

【性別】

「主に夫」と回答した割合は、『乳幼児の世話』以外の10項目で女性回答者よりも男性回答者のほうが高くなっています。

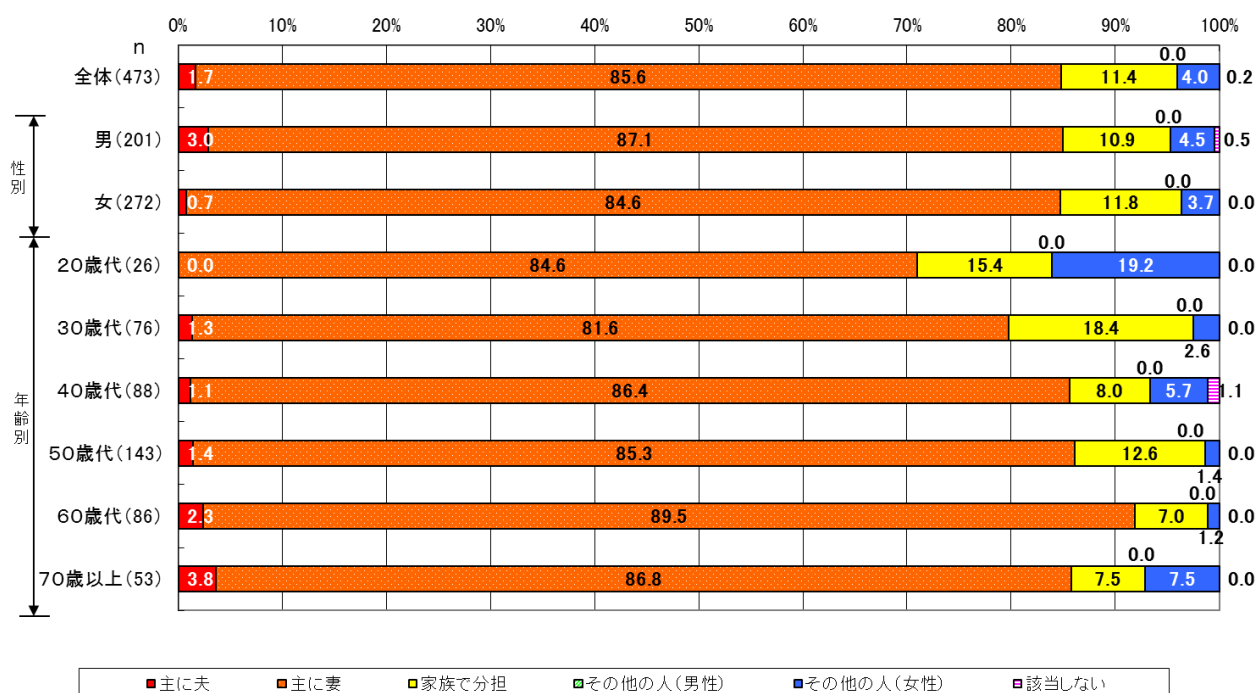
「主に妻」と回答した割合は、『食事のしたく』以外の10項目で男性回答者よりも女性回答者のほうが高くなっています。

【年齢別】

20歳代では、その他の年齢層と比べ「その他の人（女性）」が行うと回答した割合が高い傾向にあります。

20歳代では、「家族で分担」としていると回答した割合が『食事の後片付け』『掃除』『洗濯』『ごみ出し』『食料品・日用品の買い物』『乳幼児の世話』の6項目で、他の年齢層よりも高くなっています。

1. 食事のしたく



【全体】

「主に妻」と回答した割合が 85.6%と最も高く、次いで「家族で分担」と回答した割合が 11.4%となっています。

「主に妻」と回答した割合については、11項目の中で最も高くなっています。

【性別】

男女とも「主に妻」と回答した割合が最も高く、男性回答者が 87.1%、女性回答者が 84.6%となっています。

【年齢別】

いずれの年齢層でも「主に妻」が行うと回答した割合が 8 割以上を占めています。「その他の人(女性)」が行うと回答した割合は 20 歳代で 19.2%と他の年齢層よりも高くなっています。

「家族で分担」する割合は、30 歳代で最も高く 18.4%、次いで 20 歳代で 15.4%となっています。

2. 食事の後片付け



【全体】

「主に妻」と回答した割合が75.1%と最も高く、次いで「家族で分担」と回答した割合が22.2%となっています。『食事のしたく』に比べ、『食事の後片付け』は、「家族で分担」する割合が高くなっています。

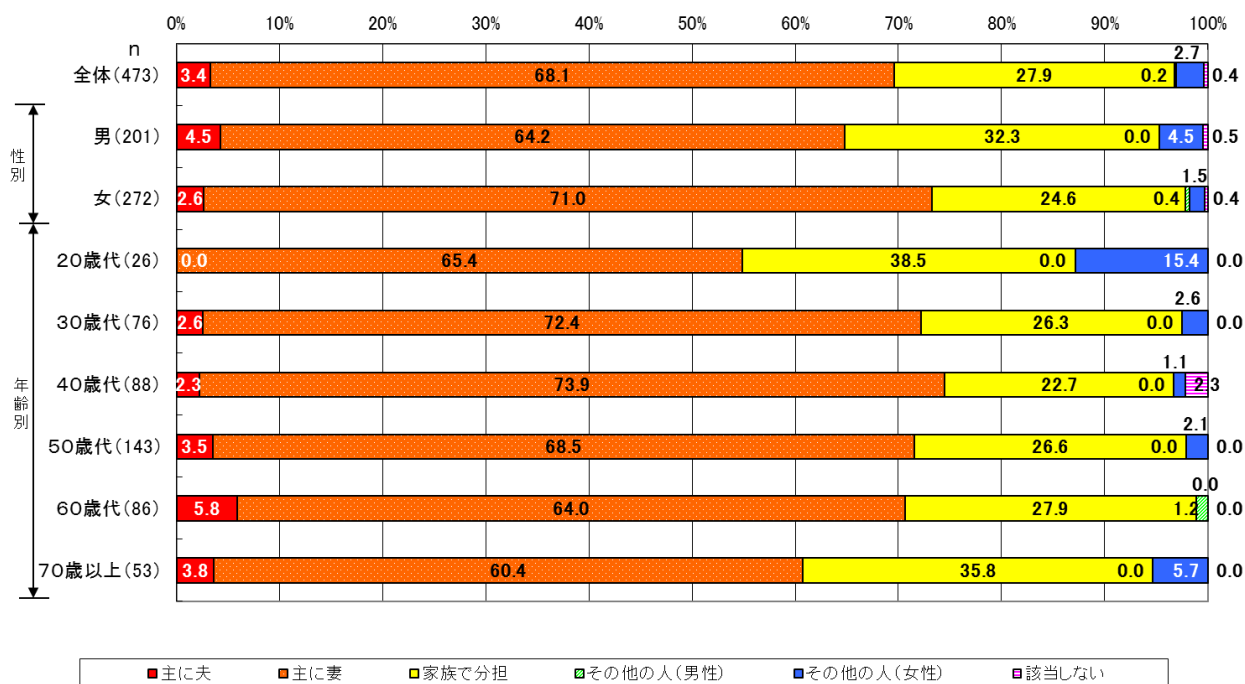
【性別】

男女とも「主に妻」と回答した割合が最も高く、男性回答者が69.7%、女性回答者が79.0%となっています。「主に夫」と回答した割合は、女性回答者が2.6%であるのに対し、男性回答者は4.5%で女性回答者よりも男性回答者のほうが高くなっています。

【年齢別】

「家族で分担」と回答した割合は20歳代で42.3%と最も高く、次いで30歳代で27.6%となっており、若い年齢層で家族で分担している割合が高い傾向にあります。

3. 掃除



【全体】

「主に妻」と回答した割合が 68.1%と最も高く、次いで「家族で分担」と回答した割合が 27.9%となっています。

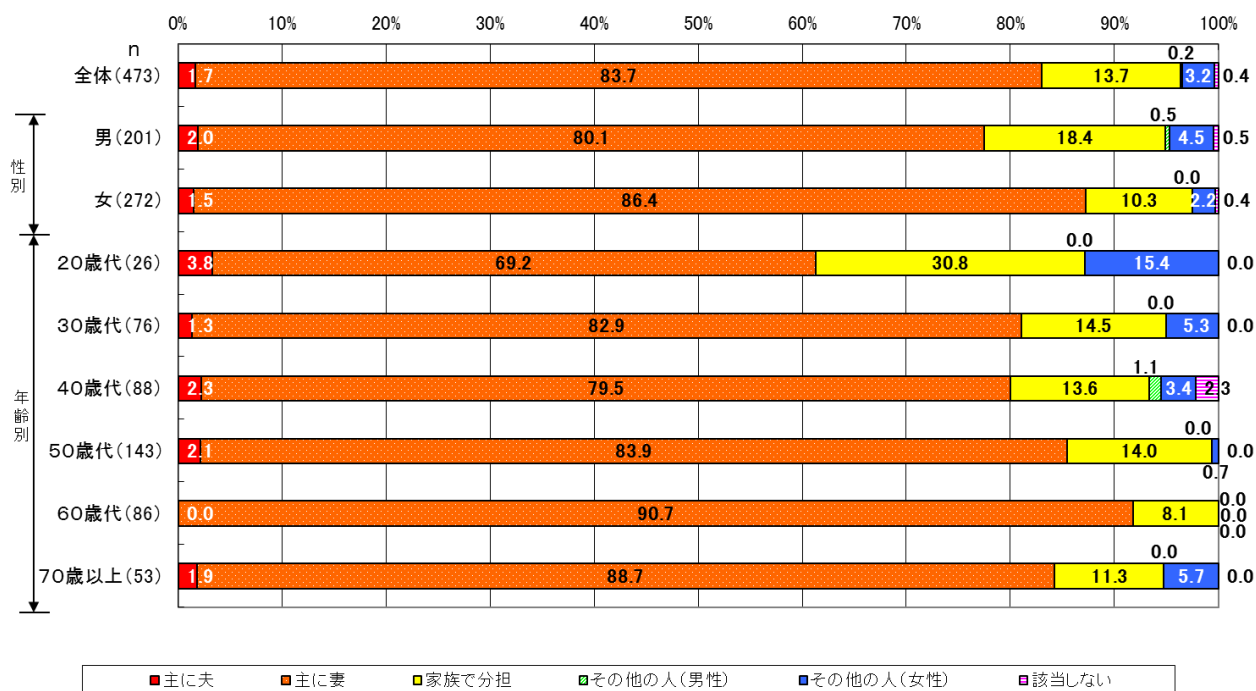
【性別】

男女とも「主に妻」が行うと回答した割合が最も高く、男性回答者が 64.2%、女性回答者が 71.0%となっています。

【年齢別】

いずれの年齢層でも「主に妻」が行うと回答した割合が最も高く、6割を超えています。次いで「家族で分担」と回答した割合が高く、いずれの年齢層でも2割以上を占めています。

4. 洗濯



【全体】

「主に妻」と回答した割合が 83.7%で最も高く、8 割を超えています。次いで「家族で分担」と回答した割合が 13.7%、「その他の人（女性）」と回答した割合が 3.2%となっています。

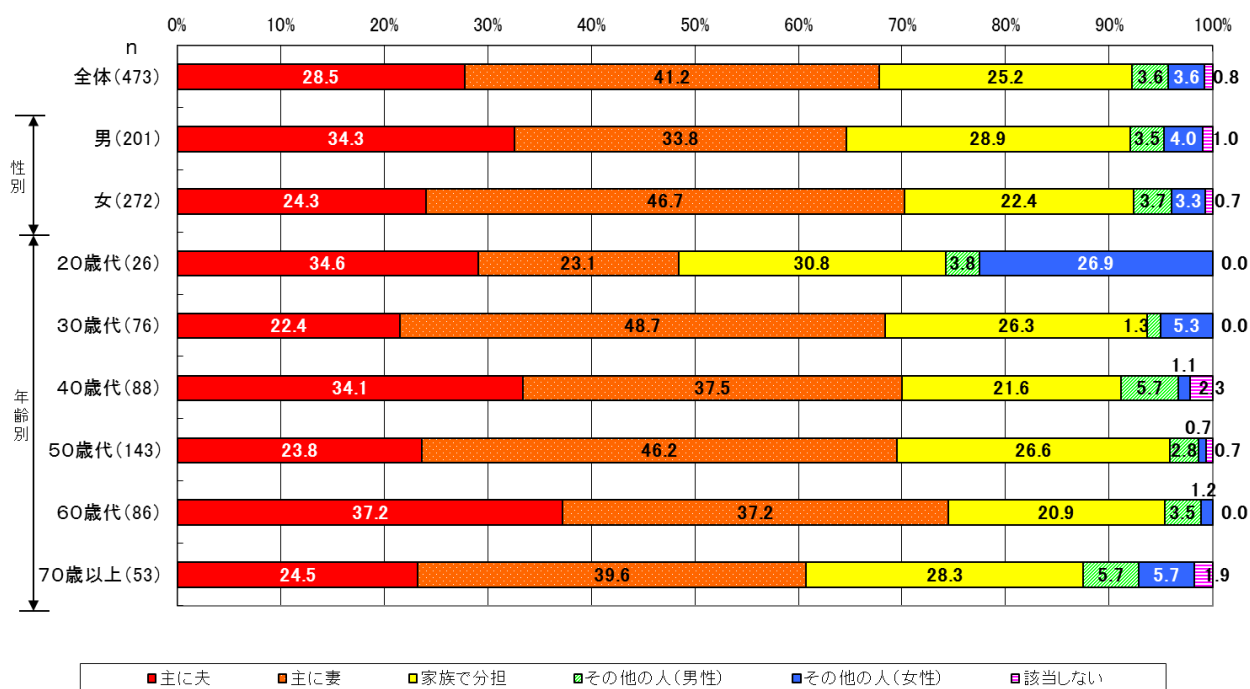
【性別】

男女とも「主に妻」が行うと回答した割合が最も高く、男性回答者が 80.1%、女性回答者が 86.4%となっています。「家族で分担」と回答した割合は、女性回答者が 10.3%であるのに対し、男性回答者は 18.4%で女性回答者よりも男性回答者のほうが高くなっています。

【年齢別】

いずれの年齢層でも「主に妻」が行うと回答した割合が最も高く、6 割を超えています。「家族で分担」と回答した割合は、20 歳代で 30.8%と他の年齢層よりも高くなっています。

5. ごみ出し



【全体】

「主に妻」と回答した割合が 41.2% で最も高く、次いで「主に夫」と回答した割合が 28.5%、「家族で分担」と回答した割合が 25.2% となっています。「主に夫」と回答した割合は、他の項目よりも高くなっています。

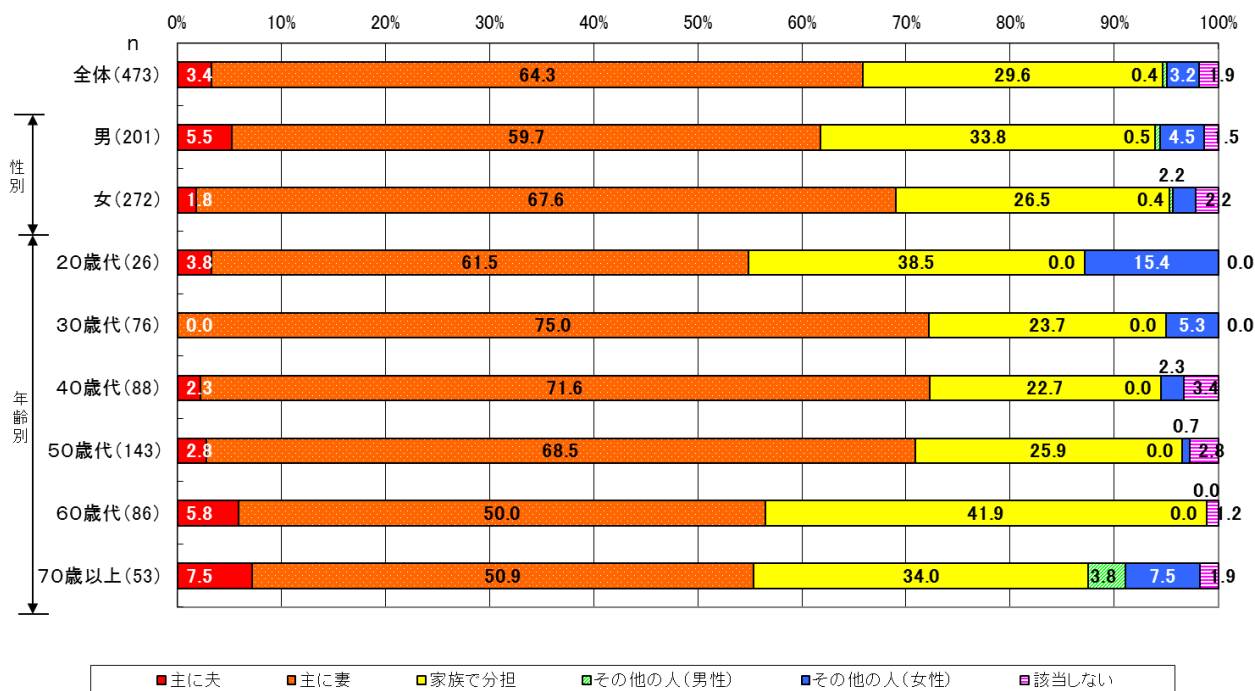
【性別】

男性回答者は、「主に夫」と回答した割合が最も高く 34.3%、次いで「主に妻」と回答した割合が 33.8% となっています。女性回答者は、「主に妻」と回答した割合が最も高く 46.7%、次いで「主に夫」と回答した割合が 24.3% となっています。

【年齢別】

30 歳代以上では「主に妻」と回答した割合が、「主に夫」と回答した割合と同数もしくはそれ以上であるのに対し、20 歳代では「主に夫」(34.6%) と回答した割合が、「主に妻」(23.1%) と回答した割合を上回っています。

6. 食料品・日用品の買い物



【全体】

「主に妻」と回答した割合が 64.3%で最も高く、次いで「家族で分担」と回答した割合が 29.6%となっています。

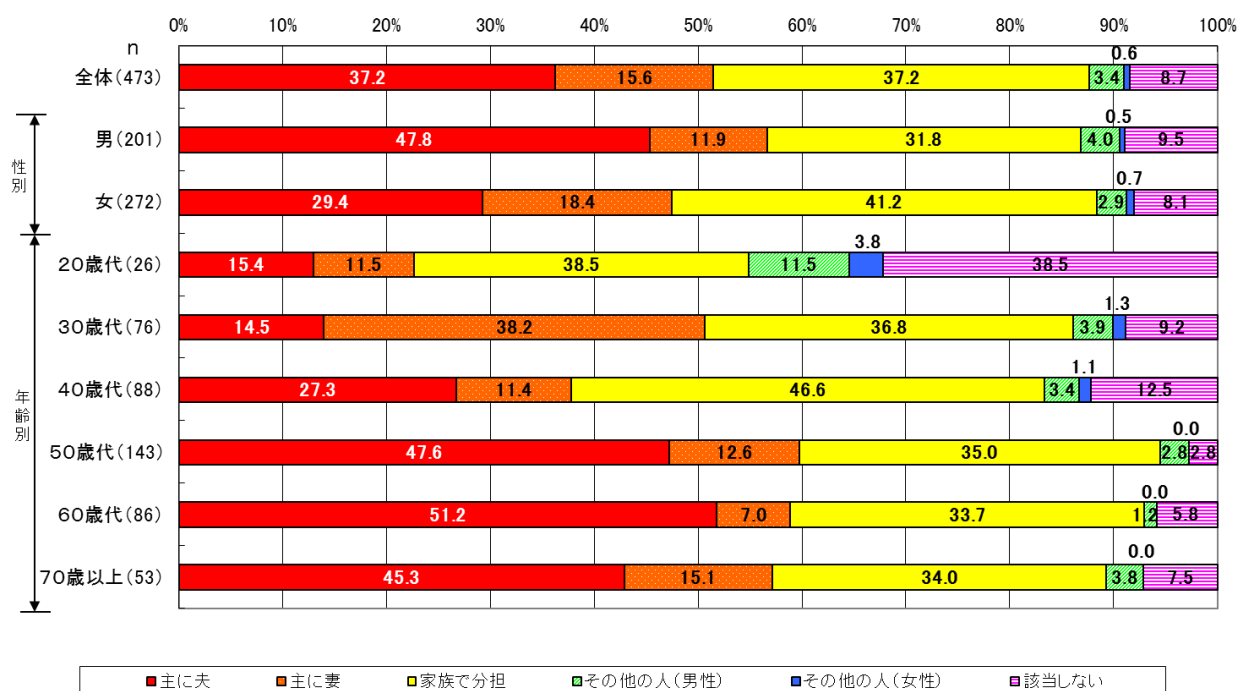
【性別】

男女とも「主に妻」が行うと回答した割合が最も高く、男性回答者が 59.7%、女性回答者が 67.6%となっています。「家族で分担」と回答した割合は、女性回答者が 26.5%であるのに対し、男性回答者は 33.8%で女性回答者よりも男性回答者のほうが高くなっています。

【年齢別】

いずれの年齢層でも「主に妻」が行うと回答した割合が最も高く、5割を超えています。「家族で分担」と回答した割合は、60歳代で最も高く 41.9%、次いで 20歳代で 38.5%となっています。

7. 地域活動への参加



【全体】

「主に夫」「家族で分担」と回答した割合が同数（37.2%）と4割弱で最も高くなっています。

「主に夫」と回答した割合は、11項目の中で最も高くなっています。

【性別】

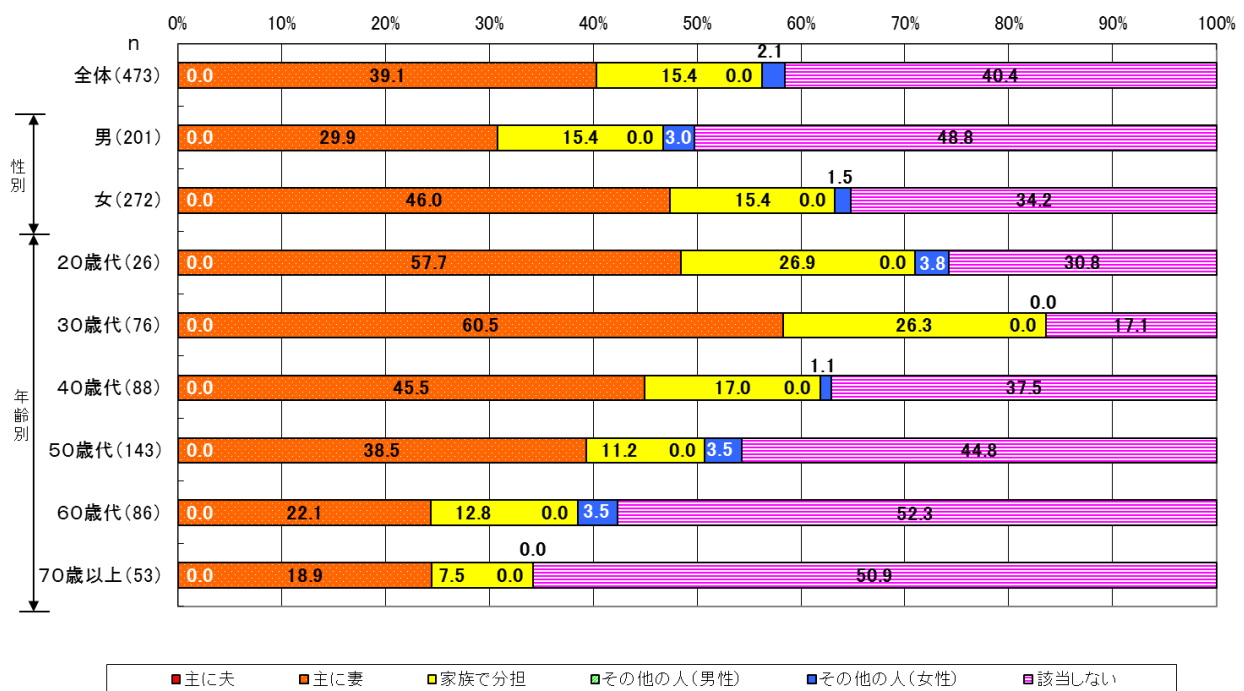
男性回答者では、「主に夫」と回答した割合が最も高く47.8%、次いで「家族で分担」と回答した割合が31.8%となっています。女性回答者では、「家族で分担」と回答した割合が最も高く41.2%、次いで「主に夫」と回答した割合が29.4%となっています。

【年齢別】

50歳以上では「主に夫」が行うと回答した割合が、4割を超えているのに対し、20歳代から40歳代にかけては1割から3割程度となっており、40歳代以下では年齢が高くなるにしたがって、「主に夫」が行うと回答した割合が高くなっています。

「家族で分担」と回答した割合が最も高いのは40歳代で46.6%、最も低いのは60歳代で33.7%となっており、いずれの年齢層でも3割を超えています。

8. 乳幼児の世話



【全体】

「該当しない」と回答した割合が 40.4%と約 5 割を占め、最も高くなっています。

「主に妻」と回答した割合は、39.1%であるのに対し、「主に夫」と回答した割合は、0.0%となっています。

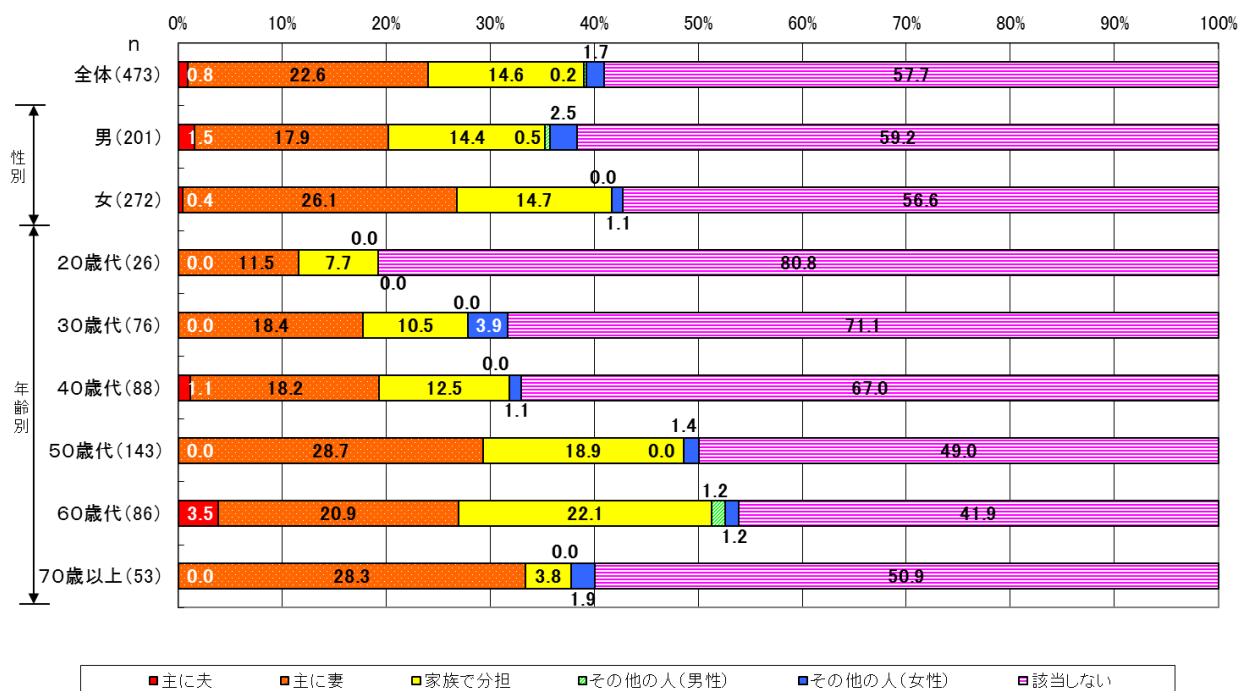
【性別】

「主に妻」が行うと回答した割合は、男性回答者が 29.9%と約 3 割、女性回答者が 46.0%と 4 割を超えているのに対し、「主に夫」が行うと回答した割合は、男女とも 0.0%で、女性に子育ての負担が偏っていると考えられます。

【年齢別】

「主に妻」が行うと回答した割合は、30 歳代で最も高く 60.5%、次いで 20 歳代で 57.7%となっています。「該当しない」と回答した割合は、30 歳代で最も低く 17.1%、次いで 20 歳代で 30.8%となっており、40 歳代以上では年齢が高くなるにしたがって、その割合が高くなっています。

9. 家族の介護



【全体】

「該当しない」と回答した割合が 57.7%と 6 割弱を占め最も高くなっており、次いで「主に妻」と回答した割合が 22.6%となっています。

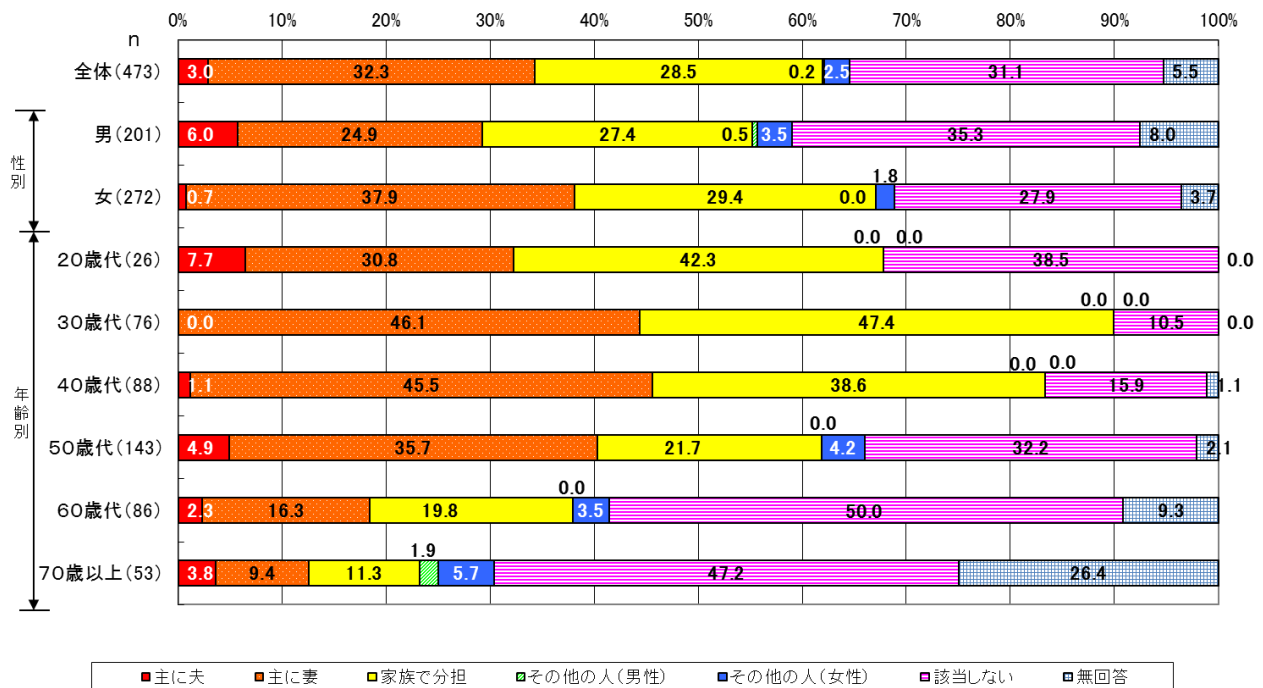
【性別】

男女とも「主に妻」が行うと回答した割合が最も高くなっており、女性に介護の負担が偏っていると考えられます。また、「主に妻」が行うと回答した割合は、男性回答者が 17.9%、女性回答者が 26.1%となっており、男性回答者よりも女性回答者のほうが高くなっています。

【年齢別】

いずれの年齢層でも「該当しない」と回答した割合が最も高くなっていますが、50 歳以上では「主に妻」が行うと回答した割合が、2 割を超えています。また、60 歳代では、「主に夫」と回答した割合が 3.5%で、家族を介護している高齢の男性がいることが推察されます。

10. 子どもの勉強やしつけ



【全体】

「主に妻」と回答した割合が最も高く 32.3%、次いで「該当しない」と回答した割合が 31.1%、「家族で分担」と回答した割合が 28.5%となっています。

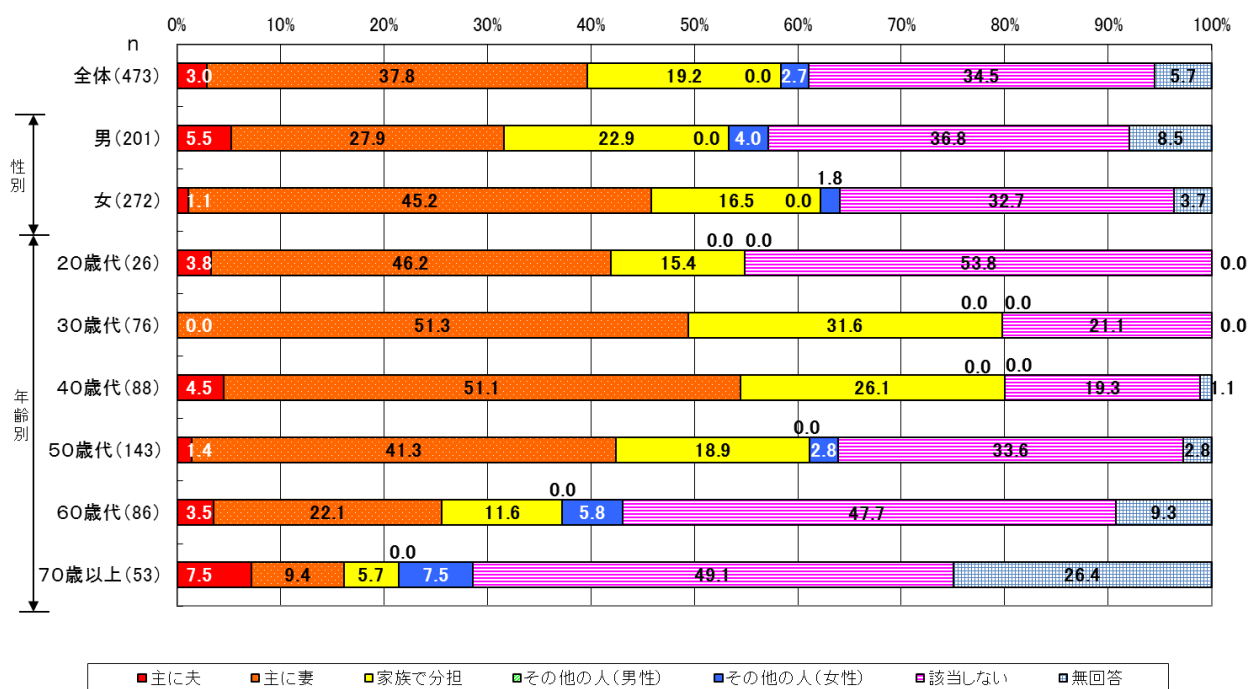
【性別】

「主に夫」と回答した割合は、男性回答者が 6.0%、女性回答者が 0.7%となっており、女性回答者よりも男性回答者のほうが高くなっています。それに対し、「主に妻」が行うと回答した割合は、男性回答者が 24.9%、女性回答者が 37.9%となっており、男性回答者よりも女性回答者のほうが高くなっています。

【年齢別】

「主に夫」が行うと回答した割合は、50歳代で最も高く 4.9%、次いで 70歳以上で 3.8%となっています。「家族で分担」と回答した割合は、30歳代で最も高く 47.4%、次いで 20歳代で 42.3%と若い年齢層で子育てを分担して行っていることが推察されます。

11. 学校行事への参加



【全体】

「主に妻」と回答した割合が最も多く 37.8%、次いで「該当しない」と回答した割合が 34.5% となっています。

【性別】

「主に夫」と回答した割合は、男性回答者が 5.5% であるのに対し、女性回答者が 1.1% となっています。「主に妻」と回答した割合は、男性回答者が 27.9% であるのに対し、女性回答者は 45.2% となっています。男女とも「主に妻」と回答した割合が、「主に夫」と回答した割合よりも高くなっています。

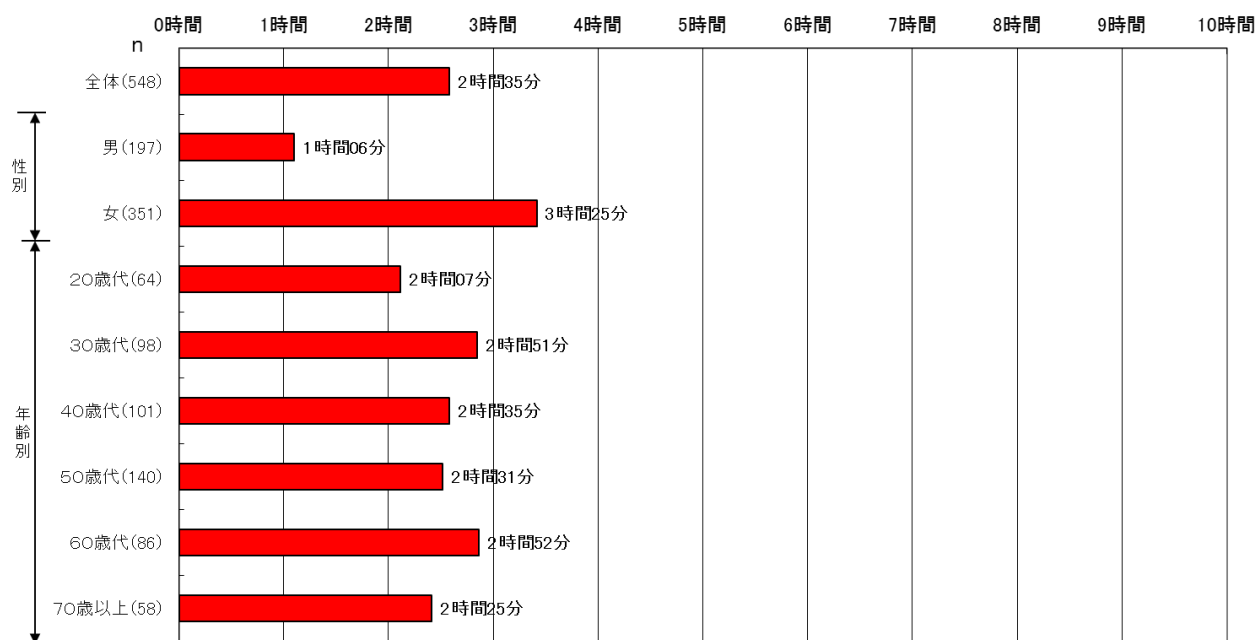
【年齢別】

「家族で分担」と回答した割合は、30 歳代で最も高く 31.6%、次いで 40 歳代で 26.1% となっています。30 歳代では、「主に妻」と回答した割合が 51.3% であるのに対し、「主に夫」と回答した割合が 0.0% となっています。

2-3 平日における家事・育児・介護・仕事・趣味の時間

問5 平日、次のことに使う時間はどれくらいですか。____に時間をご記入ください。

1. 家事の時間



【全体】

平日 1 日当たりの平均時間は 2 時間 35 分となっています。

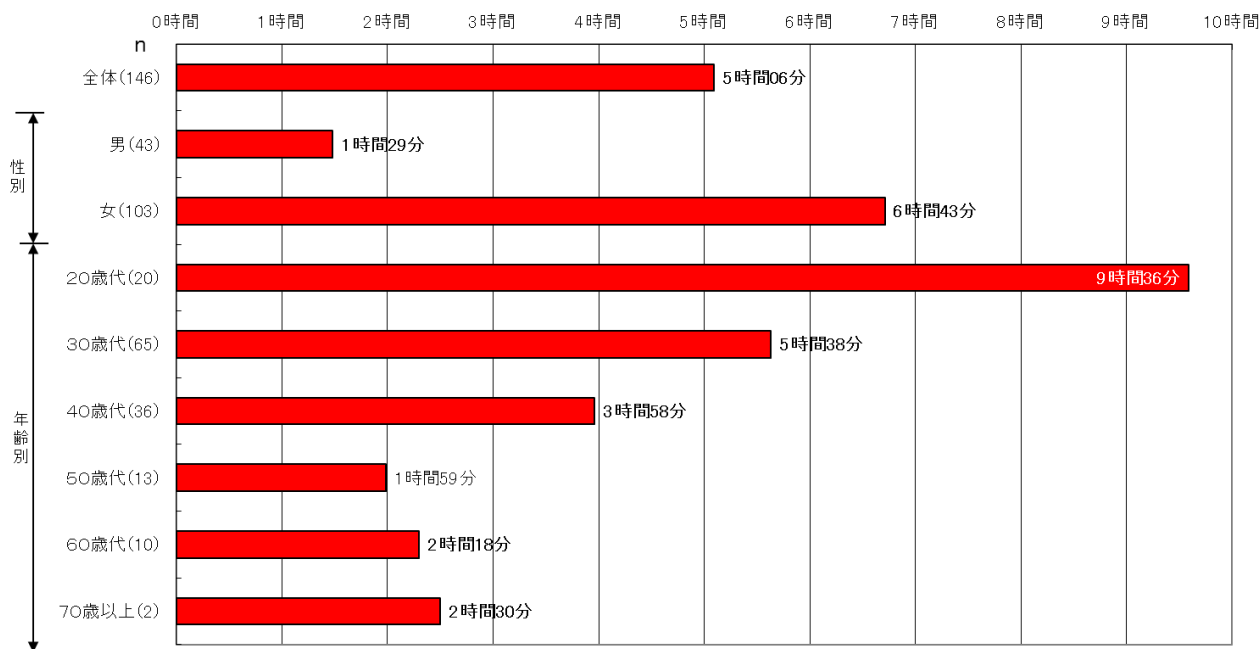
【性別】

女性回答者の平均時間が 3 時間 25 分であるのに対し、男性回答者の平均時間は 1 時間 6 分で、女性回答者の約 3 分の 1 の時間となっています。

【年齢別】

60 歳代が 2 時間 52 分と最も長く、次いで 30 歳代が 2 時間 51 分となっており、20 歳代が 2 時間 7 分と最も短くなっています。家事の時間は、いずれの年齢層でも 2 時間を超えています。

2. 育児の時間



【全体】

平日 1 日当たりの平均時間は 5 時間 6 分となっています。

【性別】

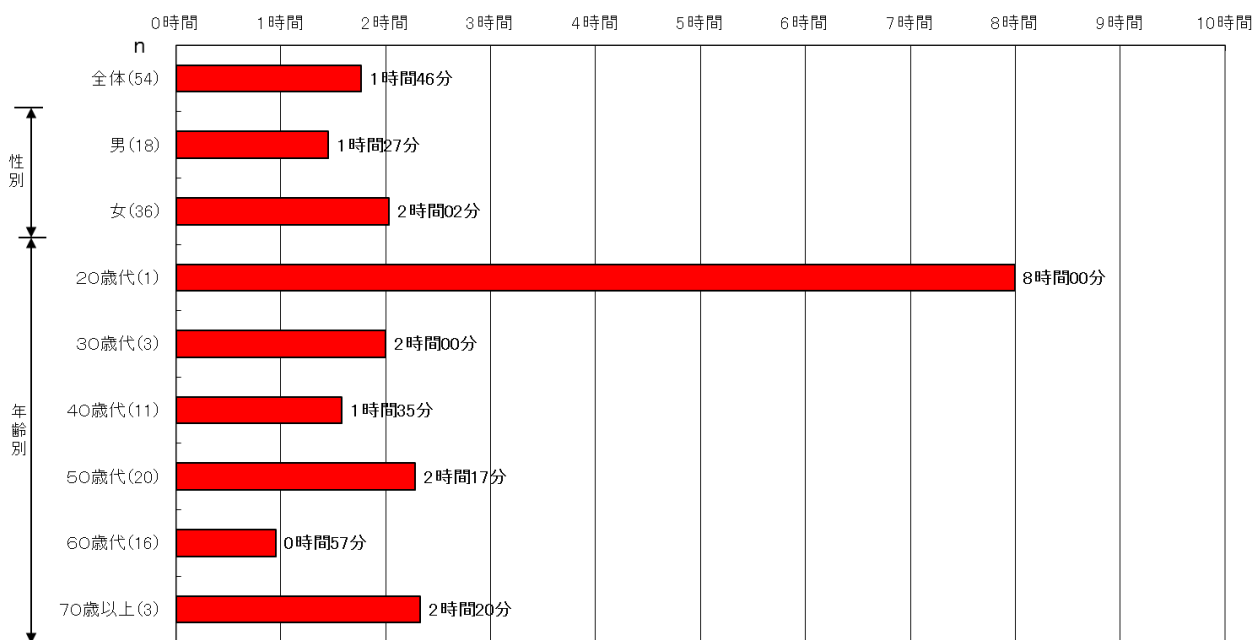
女性回答者の平均時間が 6 時間 43 分であるのに対し、男性回答者の平均時間は 1 時間 29 分で、女性回答者の 3 分の 1 以下の時間となっています。

したがって、女性に子育ての負担が偏っていると考えられます。

【年齢別】

20 歳代が 9 時間 36 分と最も長く、次いで 30 歳代が 5 時間 38 分となっており、50 歳代が 1 時間 59 分と最も短くなっています。

3. 介護の時間



【全体】

平日 1 日当たりの平均時間は 1 時間 46 分となっています。

【性別】

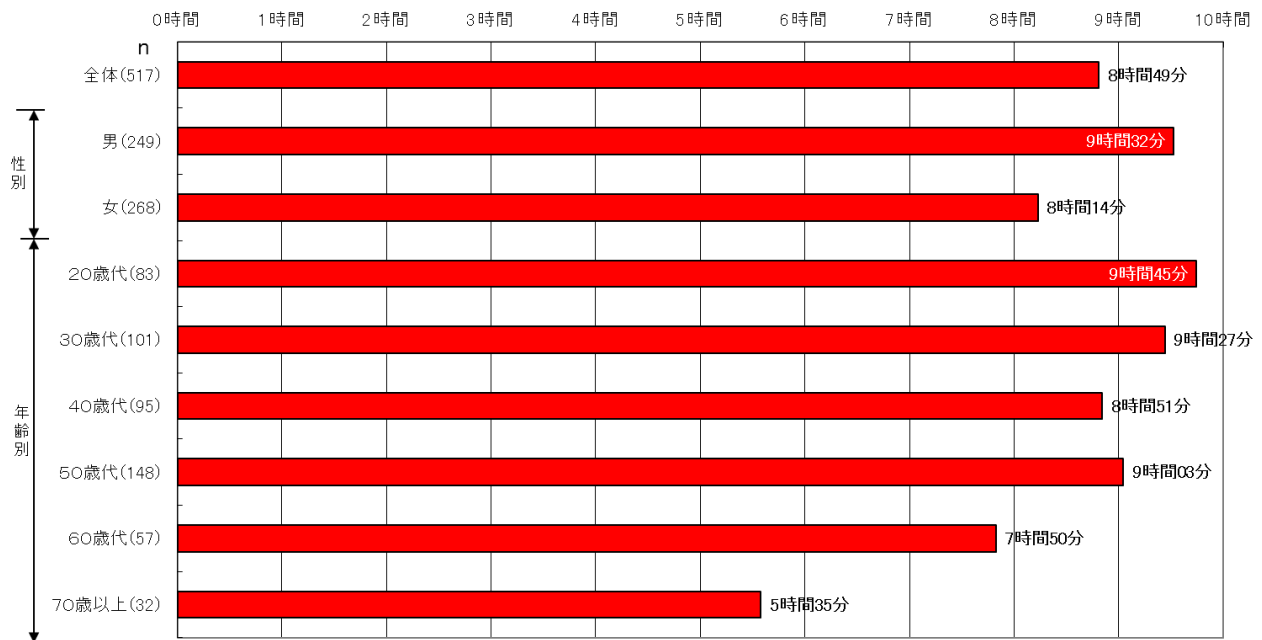
女性回答者の平均時間が 2 時間 2 分であるのに対し、男性回答者の平均時間は 1 時間 27 分で、女性回答者のほうが長くなっているものの、男性回答者も介護をする時間があると回答しており、男女に関わらず、介護の負担を負っています。

【年齢別】

60 歳代が 57 分と最も短く、約 1 時間となっており、その他の年齢層では介護をする時間が 1 時間以上あると回答しています。70 歳以上が 2 時間 20 分、50 歳代が 2 時間 17 分と、2 時間を超えています。

※20 歳代は 8 時間と最も長い時間ですが、回答者が 1 名でサンプル数が少ないため、表以外は除いて記載しています。

4. 仕事の時間（通勤時間を含む）



【全体】

平日 1 日当たりの平均時間は 8 時間 49 分となっています。

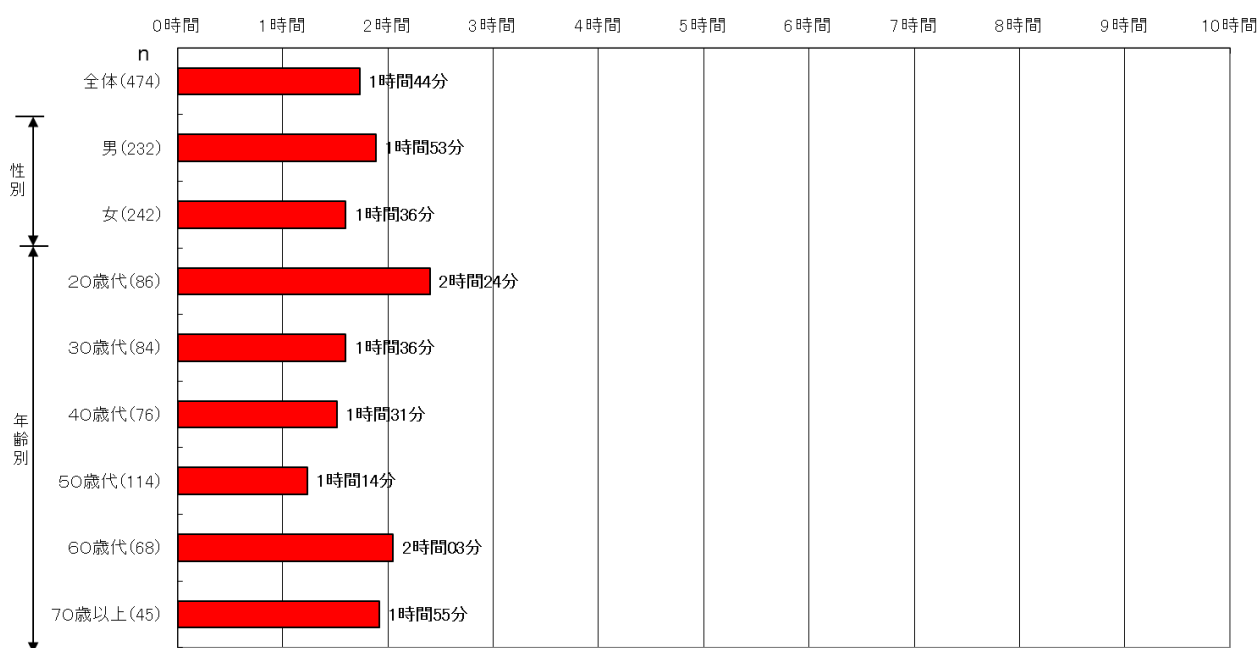
【性別】

男性回答者の平均時間が 9 時間 32 分、女性回答者の平均時間が 8 時間 14 分となっており、仕事の時間は女性回答者よりも男性回答者のほうが 1 時間 18 分長くなっています。

【年齢別】

20 歳代が 9 時間 45 分と最も長く、次いで 30 歳代が 9 時間 27 分となっています。なお、70 歳以上における仕事の時間も 5 時間 35 分ほどあり、年齢層を考慮すると長くなっていると思われます。

5. 趣味の時間



【全体】

平日 1 日当たりの平均時間は 1 時間 44 分となっています。

【性別】

男性回答者の平均時間が 1 時間 53 分、女性回答者の平均時間が 1 時間 36 分となっており、趣味の時間は女性回答者よりも男性回答者のうほうが 17 分長くなっています。

【年齢別】

20 歳代が 2 時間 24 分と最も長く、次いで 60 歳代が 2 時間 3 分となっており、50 歳代が 1 時間 14 分と最も短くなっています。

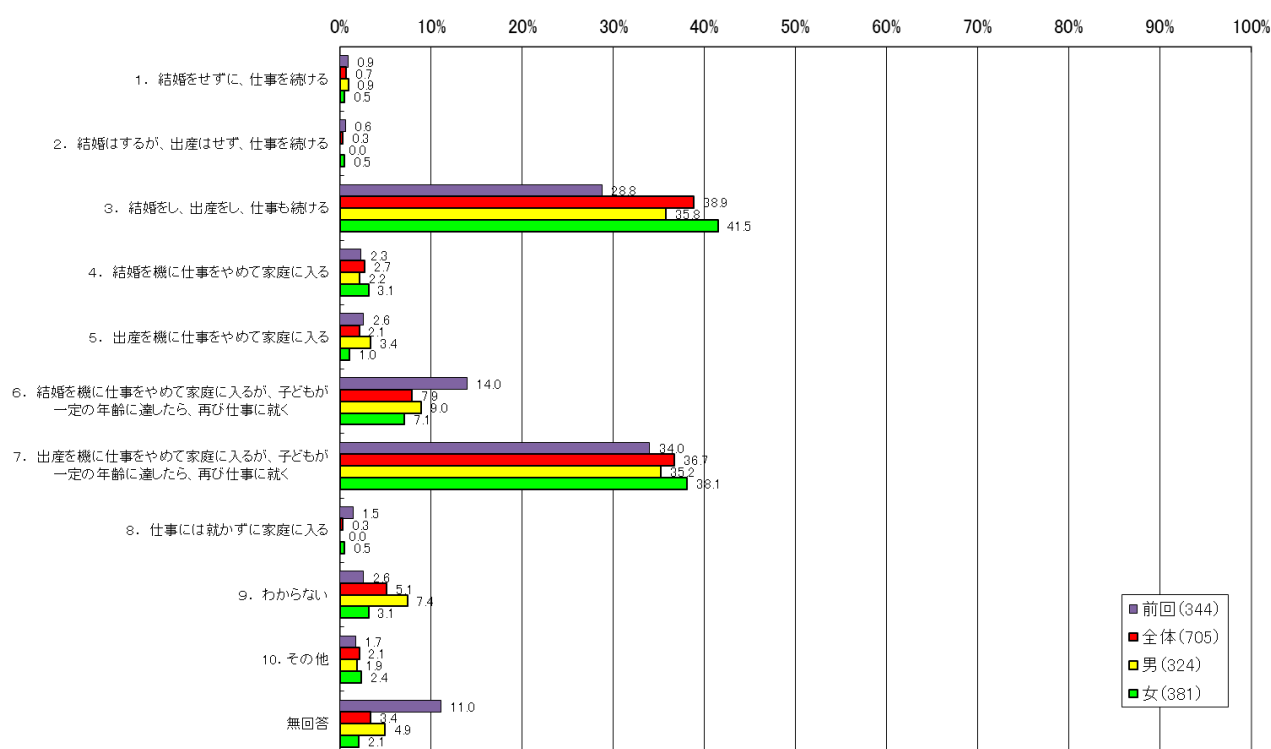
3 仕事について

3-1 女性の仕事や結婚についての理想像

問6 あなたがお考えになる「女性の仕事や結婚についての理想像」は次のどれに最も近い
ですか。(〇は1つ)

〔前回調査（平成20年）との比較〕

「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」と回答した人の割合は38.9%で、前回調査(28.8%)に比べ10.1ポイント増えています。一方、「結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」と回答した人の割合は7.9%で、前回調査(14.0%)に比べ6.1ポイント減少しています。したがって、女性がより長い期間仕事続けるのがよいと考えている人が増えたと考えられます。

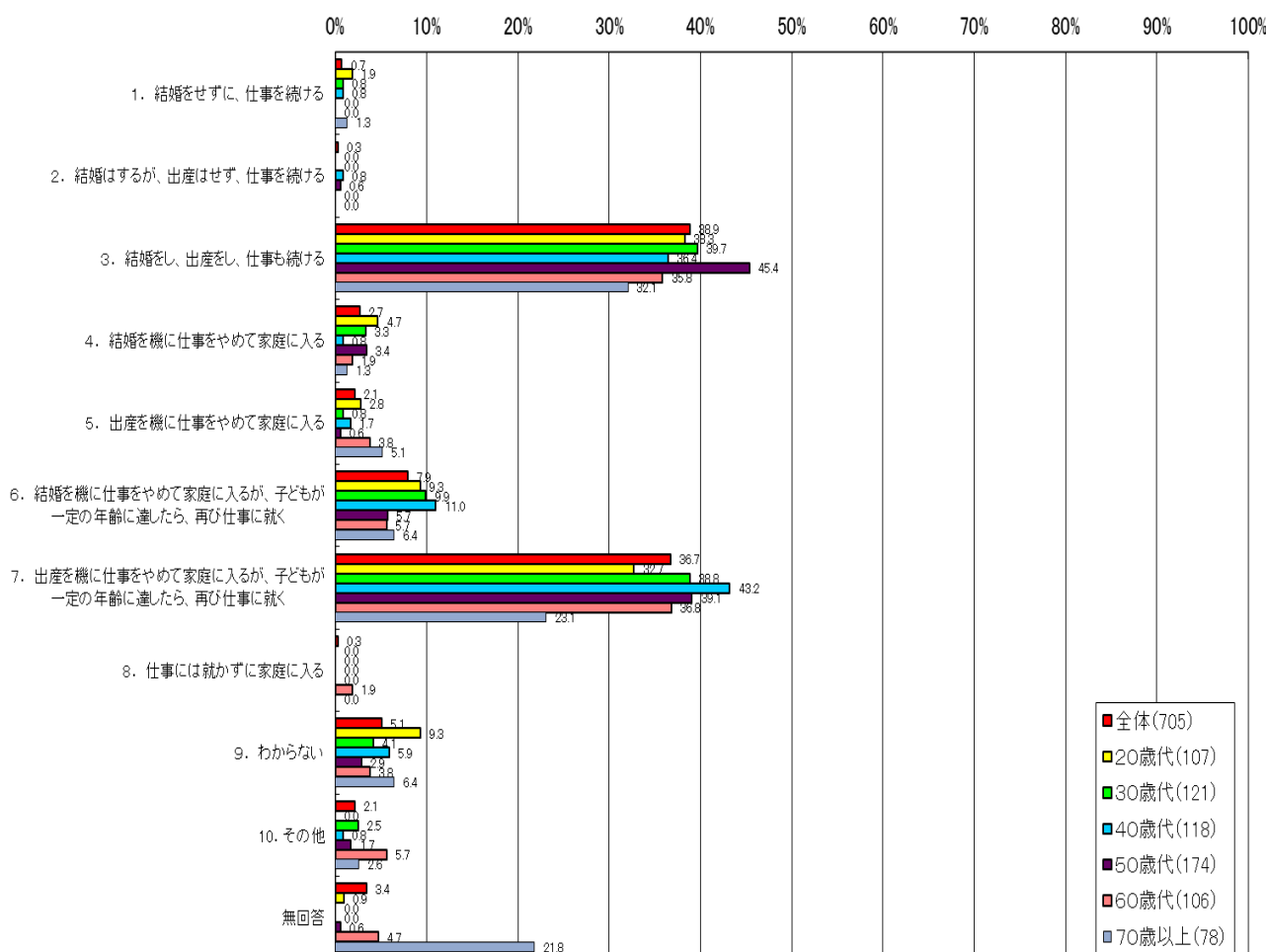


【全体】

「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」と回答した割合が38.9%と最も高く、次いで「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」と回答した割合が36.7%となっています。

【性別】

男女とも「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」と回答した割合（男性 35.8%、女性 41.5%）が最も高く、次いで「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」と回答した割合（男性 35.2%、女性 38.1%）となっています。



【年齢別】

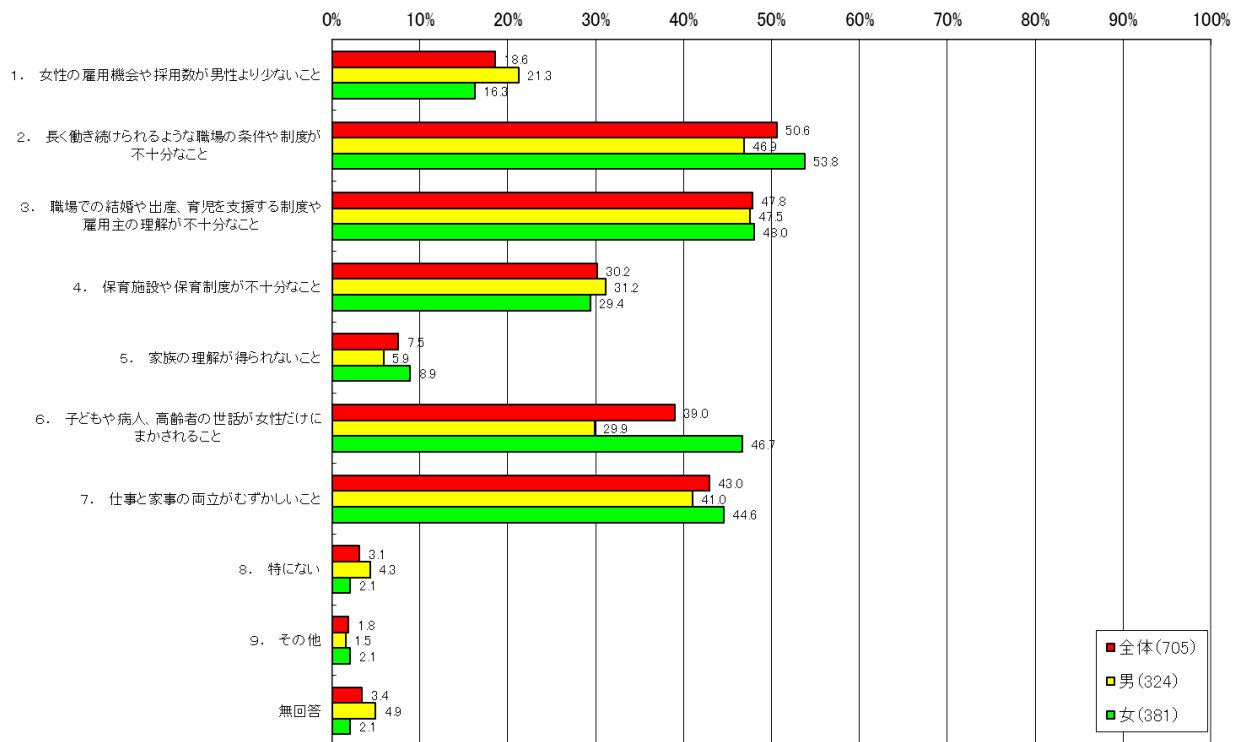
「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」と回答した割合は、50 歳代で 45.4%と最も高く、次いで 30 歳代で 39.7%となっています。

「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」と回答した割合は、40 歳代で 43.2%と 4 割強を占め最も高くなっています。

いずれの年齢層でも「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」、「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」が上位となっています。20 歳代、30 歳代、50 歳代、70 歳以上では「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」が最も多く、40 歳代、60 歳代では「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」が最も多くなっています。

3-2 女性が仕事をもち続けるうえでの障害

問7 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているものは何だと思いますか。（〇は3つまで）



【全体】

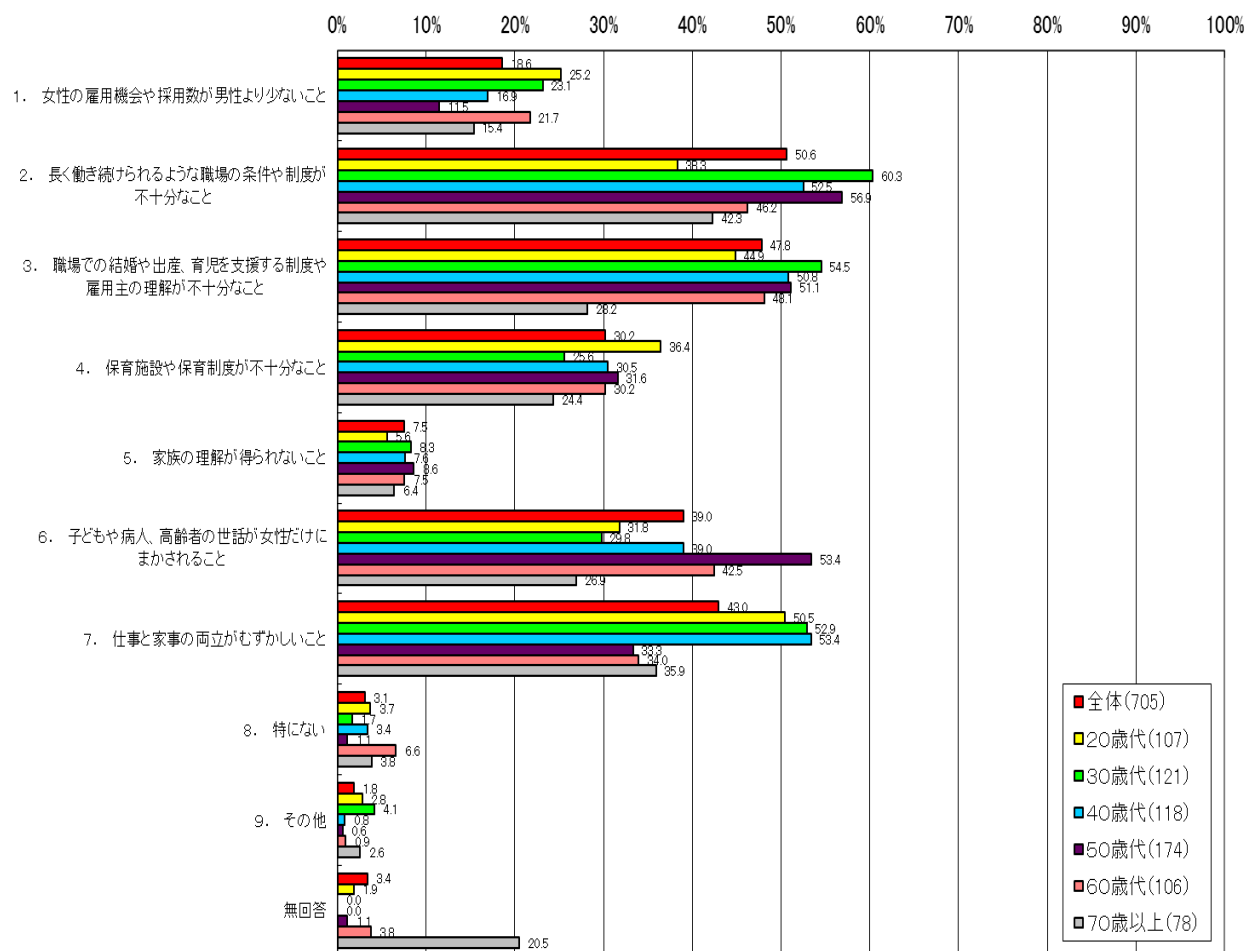
「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」と回答した割合が最も高く 50.6%、次いで「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」と回答した割合が 47.8%、「仕事と家事の両立がむずかしいこと」と回答した割合が 43.0% となっています。

【性別】

男女とも「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」と回答した割合（男性 46.9%、女性 53.8%）、「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」と回答した割合（男性 47.5%、女性 48.0%）が 4 割以上を占め、上位となっています。

「女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと」と回答した割合は、男性回答者が 21.3% であるのに対し、女性回答者が 16.3% で、男性回答者が女性回答者を 5.0 ポイント上回っています。

「子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされること」と回答した割合は、男性回答者が 29.9% と 3 割弱であるのに対し、女性回答者が 46.7% と 5 割弱となっており、女性回答者が男性回答者を 16.8 ポイント上回っています。



【年齢別】

「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」と回答した割合は、30歳代が最も高く60.3%、次いで50歳代が56.9%となっており、20歳代で38.3%と最も低くなっています。

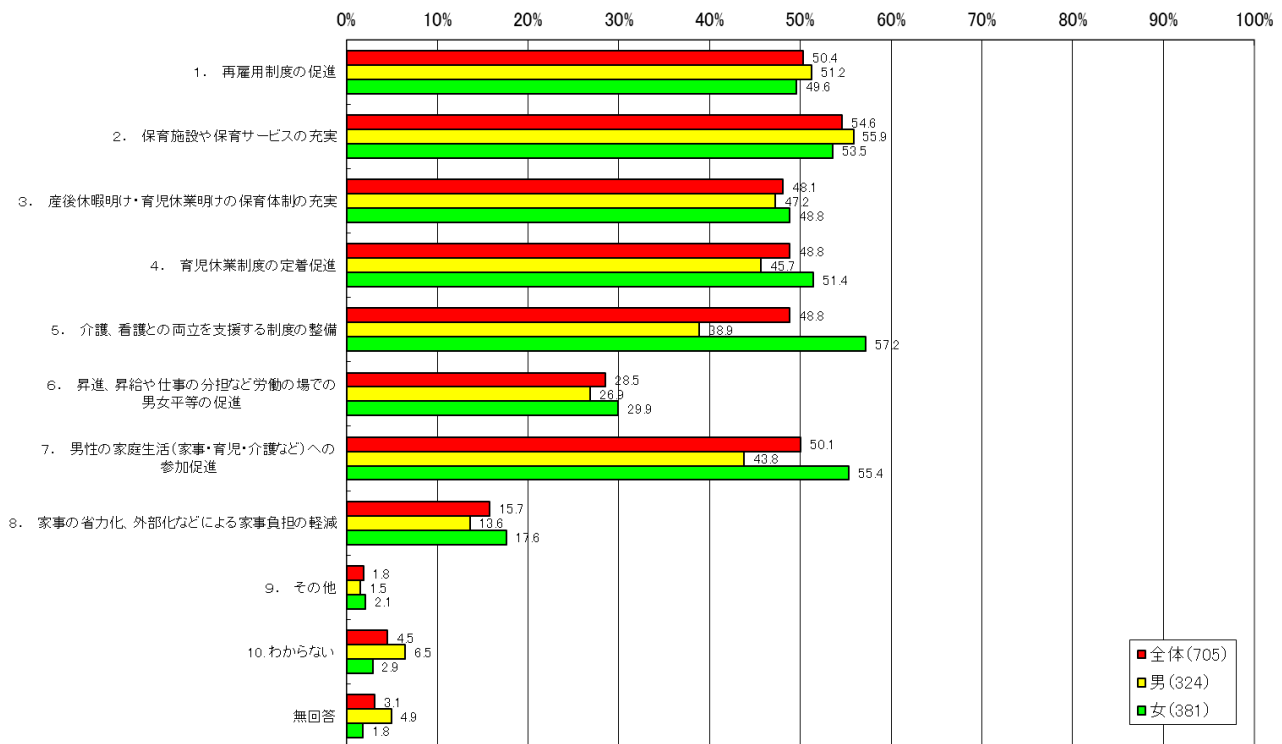
「保育施設や保育制度が不十分なこと」と回答した割合は20歳代で36.4%となっており、他の年齢層と比べて高くなっています。

「子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされること」と回答した割合は50歳代で53.4%となっており、他の年齢層と比べて高くなっています。

「仕事と家事の両立がむずかしいこと」と回答した割合は20歳代で50.5%、30歳代で52.9%、40歳代で53.4%と5割を超えているのに対し、50歳以上では3割程度となっており、年齢層が低いほうが仕事と家事の両立の難しさを感じている傾向にあります。

3-3 女性が働きやすい環境づくり

問8 雇用の場への女性の進出が進む中で、女性が働きやすい環境をつくるため、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



【全体】

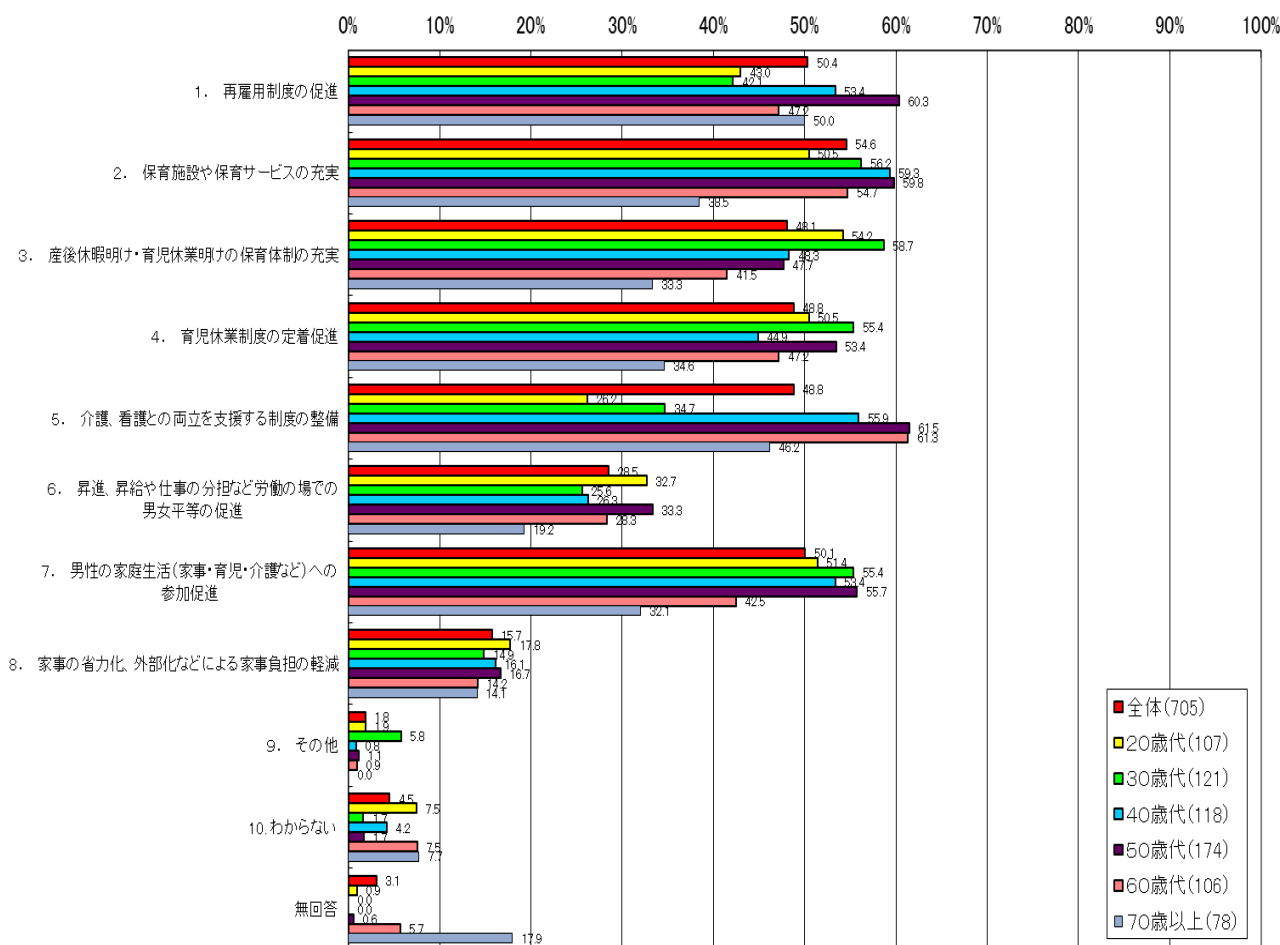
「保育施設や保育サービスの充実」と回答した割合が 54.6%で最も高く、次いで「再雇用制度の促進」と回答した割合が 50.4%、「男性の家庭生活（家事・育児・介護など）への参加促進」と回答した割合が 50.1%となっています。

【性別】

男性回答者は、「保育施設や保育サービスの充実」と回答した割合が 55.9%で最も高く、次いで「再雇用制度の促進」と回答した割合が 51.2%となっています。

女性回答者は、「介護、看護との両立を支援する制度の整備」と回答した割合が 57.2%で最も高く、次いで「男性の家庭生活（家事・育児・介護など）への参加促進」と回答した割合が 55.4%となっています。

「介護、看護との両立を支援する制度の整備」と回答した男性回答者の割合は 38.9%、「男性の家庭生活（家事・育児・介護など）への参加促進」と回答した男性回答者の割合は 43.8%で、いずれも女性の回答率を 10 ポイント以上下回っており、男性回答者と女性回答者のポイント差が顕著になっています。



【年齢別】

20 歳代、30 歳代では、「産後休暇明け・育児休業明けの保育体制の充実」と回答した割合（20 歳代 54.2%、30 歳代 58.7%）が最も高くなっています。

40 歳代では、「保育施設や保育サービスの充実」と回答した割合（59.3%）が最も高くなっています。

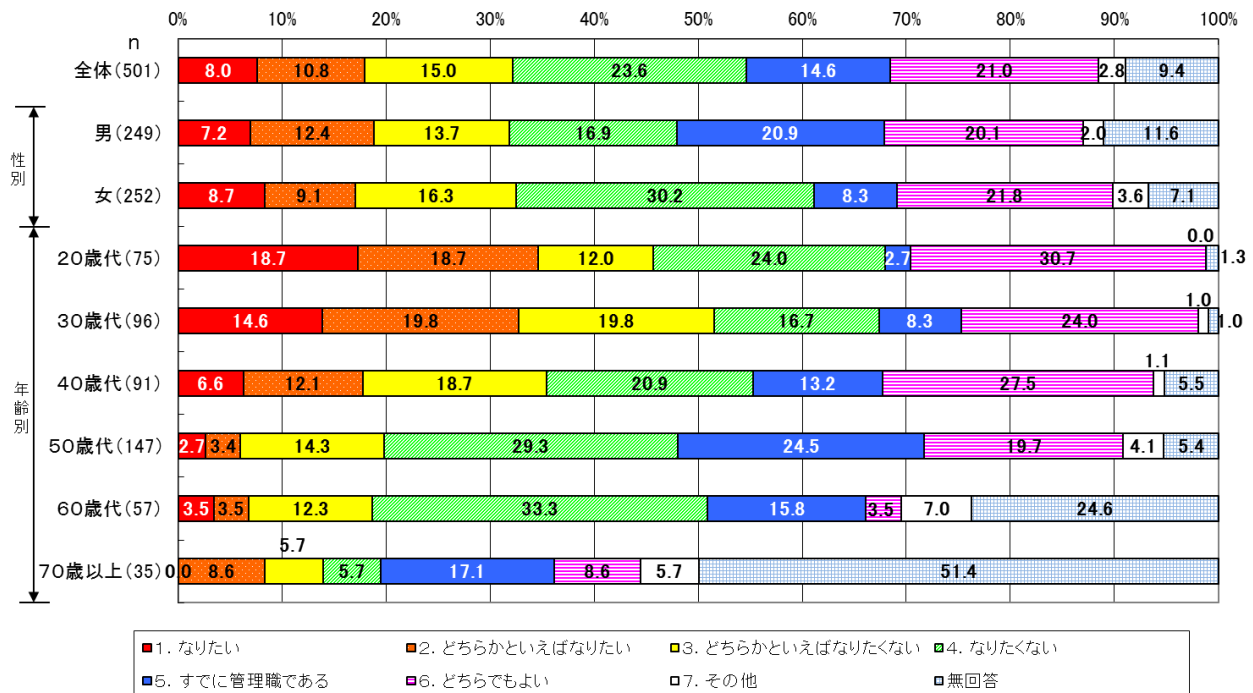
50 歳代、60 歳代では、「介護、看護との両立を支援する制度の整備」と回答した割合（50 歳代 61.5%、60 歳代 61.3%）が最も高くなっています。

70 歳以上では、「再雇用制度の促進」と回答した割合（50.0%）が最も高くなっています。

このことから、年齢層によって回答内容が異なることが考えられます。これは、回答者の生活環境・ライフステージの違いによるものと思われます。

3-4 管理職への就任願望

問9 現在、働いている方のみお答えください。あなたは機会があれば管理職になりたいと思いますか。(〇は1つ)



【全体】

「なりたい」「どちらかといえばなりたい」を合わせた割合は18.8%、「なりたくない」「どちらかといえばなりたくない」を合わせた割合は38.6%となっており、管理職になりたくないと思う人の割合が高くなっています。

【性別】

「なりたい」「どちらかといえばなりたい」を合わせた割合は、男性回答者が19.6%、女性回答者が17.8%となっています。

一方、「なりたくない」「どちらかといえばなりたくない」を合わせた割合は、男性回答者が30.6%、女性回答者が46.5%となっており、男女とも管理職になりたくないと思う人の割合が高くなっています。管理職になりたいと思う人となりたくないと思う人のポイント差は男性回答者よりも女性回答者のほうが大きくなっています。

また、「すでに管理職である」と回答した人は男性回答者が20.9%であるのに対し、女性回答者は8.3%と、男性回答者の半分以下となっています。

【年齢別】

「なりたい」「どちらかといえばなりたい」を合わせた割合は、20 歳代で 37.4%と最も高く、30 歳代で 34.4%、40 歳代で 18.7%、50 歳代以上は 1 割以下となっています。

一方、「なりたくない」「どちらかといえばなりたくない」を合わせた割合は、60 歳代で 45.6%と最も高く、50 歳代（43.6%）から 20 歳代（36.0%）まで年齢が低くなるにしたがって、少なくなっています。

20 歳代では管理職になりたいと思う人の割合が、なりたくないと思う人の割合を上回っていますが、30 歳代以上では管理職になりたくないと思う人の割合のほうが高くなっています。なお、50 歳代及び 60 歳代においては、管理職になりたいと思う人となりたくないと思う人のポイント差が顕著になっています。

3-5 職場における休暇取得環境

問10 現在、働いている方のみお答えください。あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

【全体】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせた割合は、『有給休暇』が38.8%と最も高く、次いで『育児休業』が26.2%、『介護休業』が16.2%となっています。

なお、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせた割合は、『有給休暇』が27.8%、『育児休業』が21.4%、『介護休業』が24.2%となっています。有給休暇及び育児休業は取りやすいと回答した人のほうが多くなっていますが、介護休業は取りにくいと回答した人のほうが多くなっています。

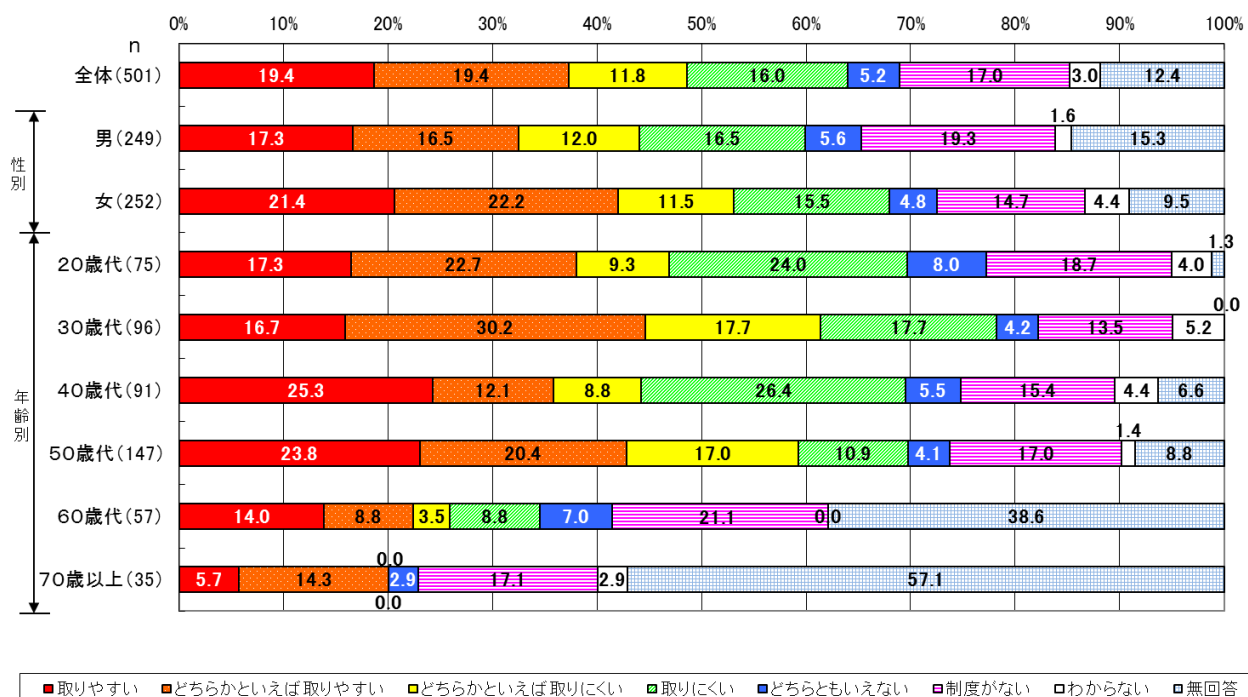
【性別】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせた割合は、『有給休暇』の項目で男性回答者が33.8%、女性回答者が43.6%、『育児休業』の項目で男性回答者が21.2%、女性回答者が31.0%となっており、有給休暇や育児休業について、男性回答者よりも女性回答者のほうが取りやすいと回答した人の割合が高くなっています。『介護休業』の項目では、男性回答者が15.2%、女性回答者が17.0%となっています。

【年齢別】

30歳代では、いずれの休暇種別においても「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」と回答した人の割合が他の年齢層より高くなっています。したがって、30歳代は育児や介護等で休暇を必要としている一方、仕事では休みが取りにくい状況にあることが推察されます。

1. 有給休暇



【全体】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせた割合は 38.8%、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせた割合は 27.8%となっており、有給休暇は取りやすいと回答した人のほうが多くなっています。

【性別】

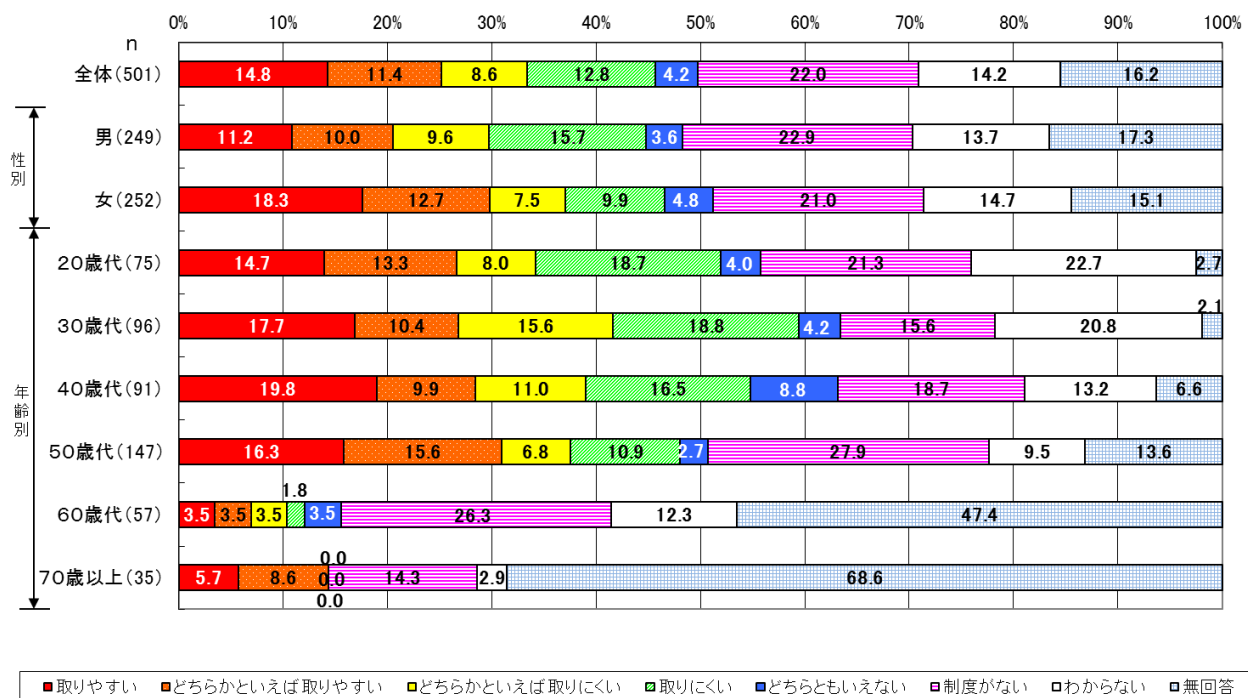
「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせた割合は、男性回答者が 33.8%、女性回答者が 43.6%となっています。一方、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせた割合は、男性回答者が 28.5%、女性回答者が 27.0%となっています。したがって、有給休暇は、男女とも取りやすいと回答した人のほうが多くなっています。

【年齢別】

すべての年齢層で取りやすいと回答した人が多くなっています。

取りやすいと回答した人の割合は、30歳代で 46.9%と最も高く、次いで 50歳代で 44.2%となっています。

2. 育児休業



【全体】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせた割合は 26.2%、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせた割合は 21.4%となっており、育児休業は取りやすいと回答した人のほうが多くなっています。

【性別】

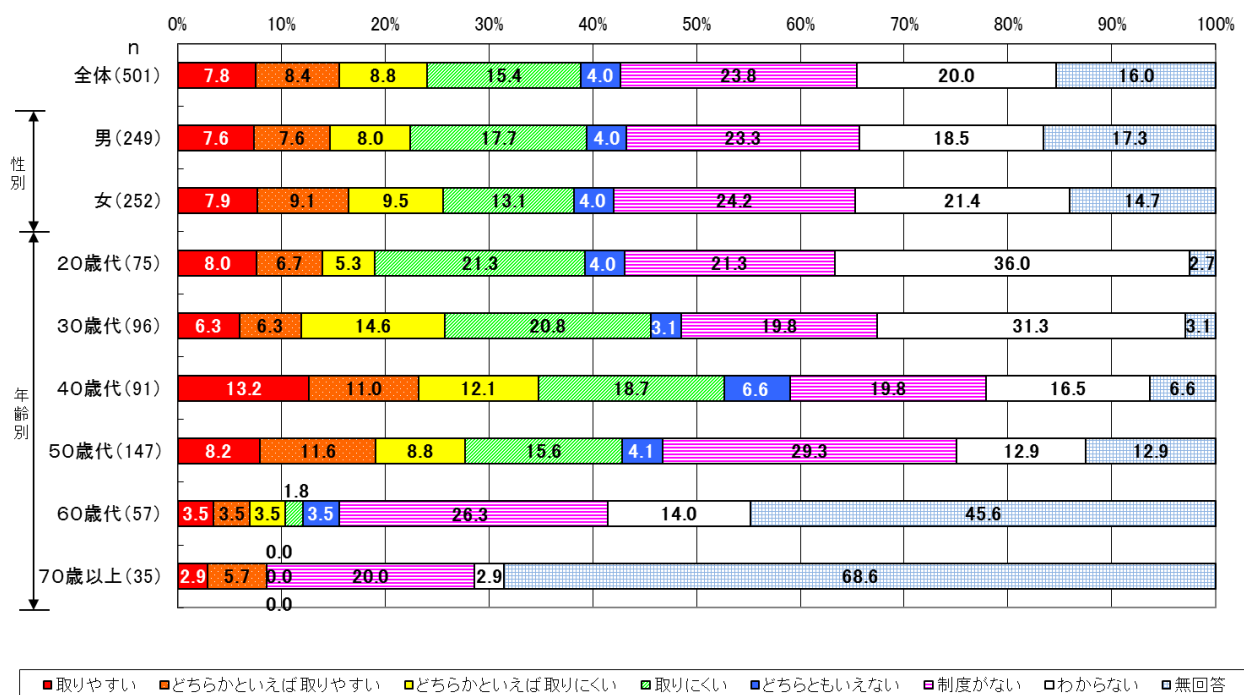
「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせた割合は、男性回答者が 21.2%、女性回答者が 31.0%となっています。一方、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせた割合は、男性回答者が 25.3%、女性回答者が 17.4%となっています。したがって、育児休業は、女性回答者は取りやすいと回答した人のほうが多くなっていますが、男性回答者は取りにくいと回答した人のほうがやや多くなっています。

【年齢別】

30 歳代では取りにくいと回答した人のほうが多くなっていますが、他の年齢層では取りやすいと回答した人のほうが多くなっています。

なお、取りやすいと回答した人と取りにくいと回答した人のポイント差は、50 歳代で最も大きく 14.2 ポイントとなっています。

3. 介護休業



【全体】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせた割合は 16.2%、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせた割合は 24.2%となっており、介護休業は取りにくいと回答した人のほうが多くなっています。

【性別】

「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」を合わせた割合は、男性回答者が 15.2%、女性回答者が 17.0%となっています。一方、「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」を合わせた割合は、男性回答者が 25.7%、女性回答者が 22.6%となっています。したがって、介護休業は、男女とも取りにくいと回答した人のほうが多くなっています。

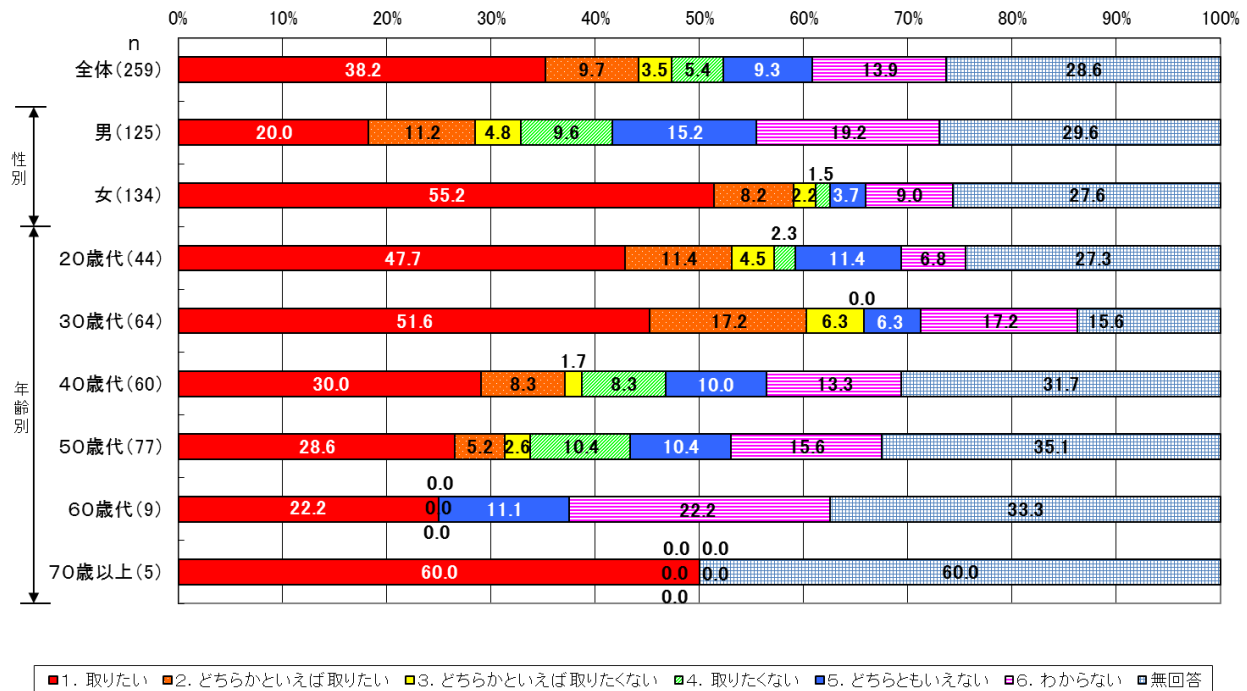
【年齢別】

20 歳代から 50 歳代までは取りやすいと回答した人よりも取りにくいと回答した人のほうが多くなっています。取りにくいと回答した人の割合は、30 歳代で 35.4%と最も高く、次いで 40 歳代で 30.8%となっています。

また、取りやすいと回答した人と取りにくいと回答した人のポイント差は 20 歳代で 11.9 ポイント、30 歳代で 22.8 ポイントと他の年齢層よりもポイント差が大きくなっています。

3-6 育児休業の取得

問 11 現在、働いている方で職場に育児休業制度がある方のみお答えください。あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(〇は1つ)



【全体】

「取りたい」「どちらかといえば取りたい」を合わせた割合は 47.9%、「取りたくない」「どちらかといえば取りたくない」を合わせた割合は 8.9%となっており、育児休業を取りたいと回答した人の割合が取りたくないと回答した人の割合を大きく上回っています。

【性別】

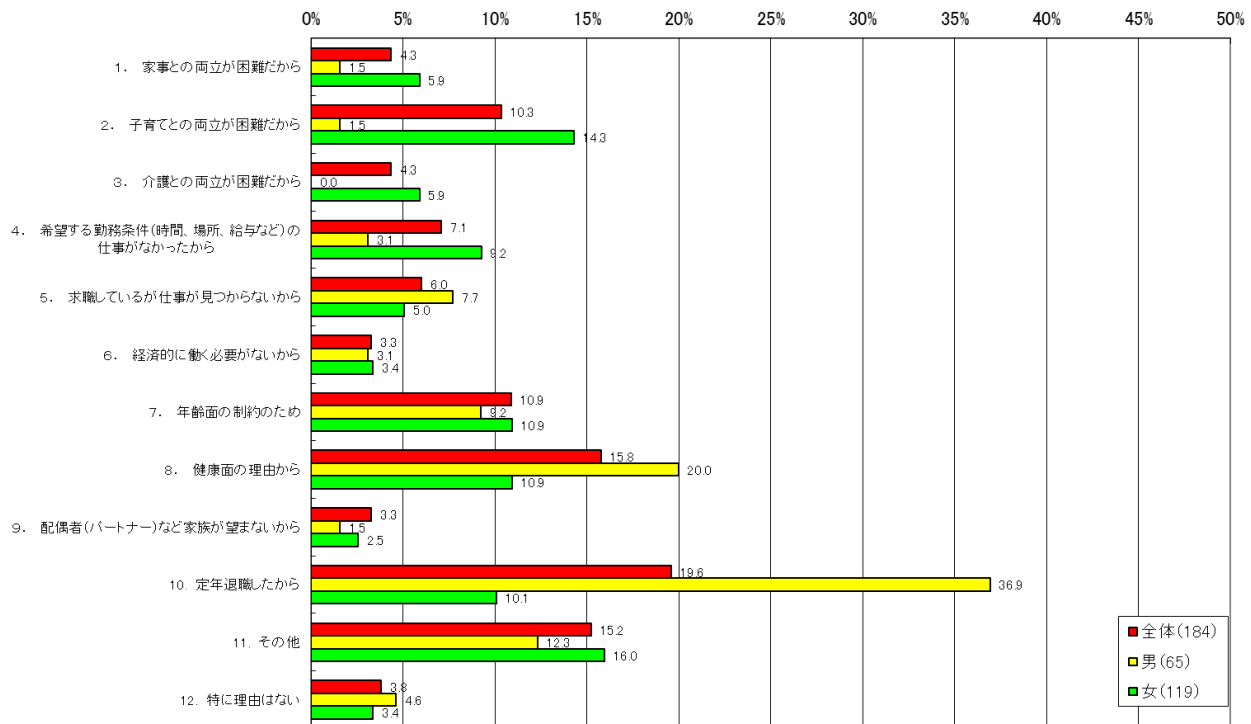
「取りたい」「どちらかといえば取りたい」を合わせた割合は、男性回答者が 31.2%で3割強、女性回答者が 63.4%で6割強となっています。一方、「取りたくない」「どちらかといえば取りたくない」を合わせた割合は、男性回答者が 14.4%、女性回答者が 3.7%となっており、男女とも取りたいと回答した人の割合のほうが高くなっています。取りたいと思う人と取りたくないと思う人のポイント差は、男性回答者より女性回答者のほうが大きくなっています。

【年齢別】

いずれの年齢層でも取りたいと思う人の割合が取りたくないと思う人の割合を上回っています。「取りたい」「どちらかといえば取りたい」と回答した人の割合は、30歳代で最も高く 68.8%、次いで 20歳代で 59.1%となっています。

3-7 働いていない理由

問 12 現在、働いていない方のみお答えください。あなたが働いていない理由は何ですか。
(〇は1つ)



【全体】

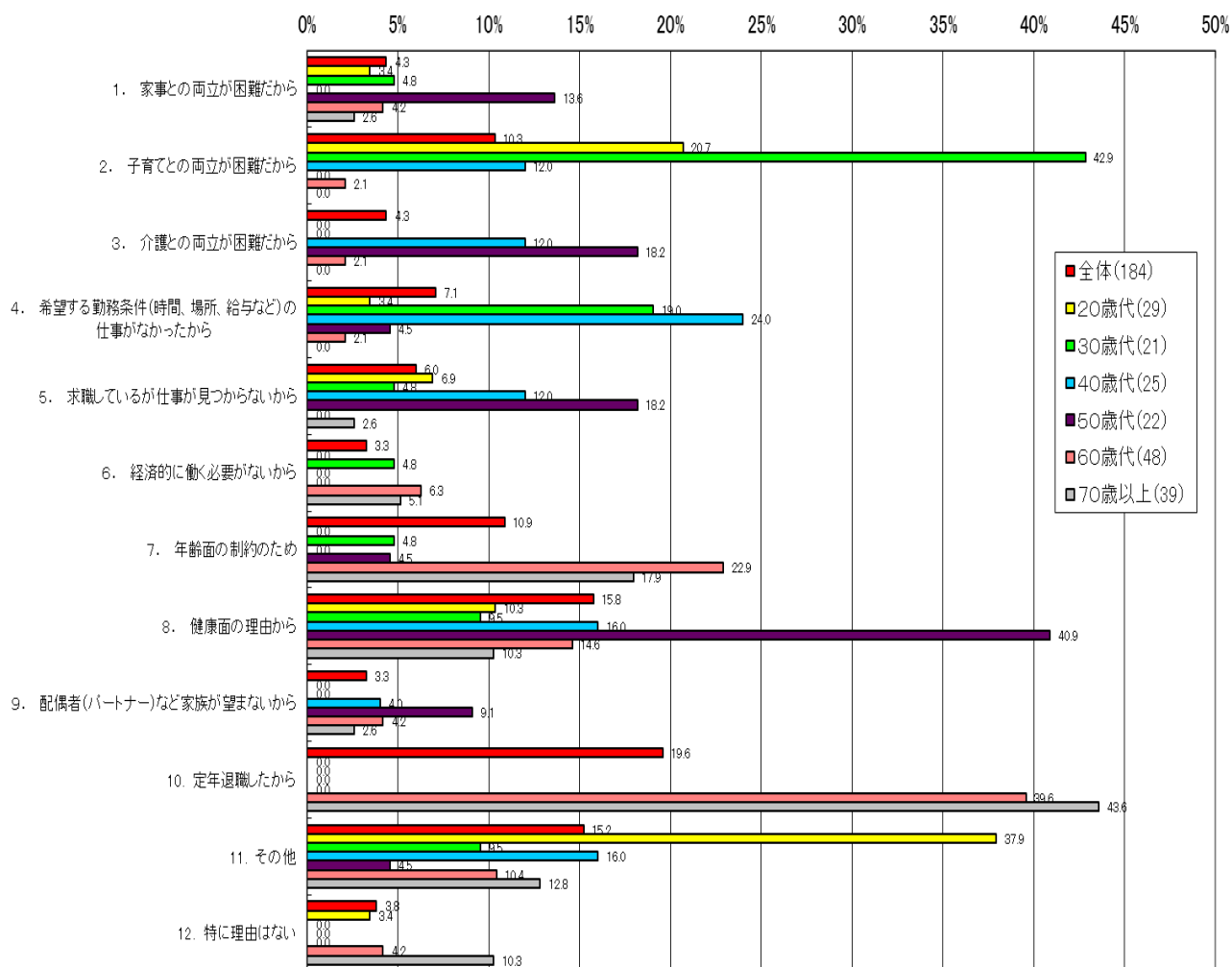
「定年退職したから」と回答した割合が最も高く 19.6%、次いで「健康面の理由から」と回答した割合 (15.8%) となっています。

【性別】

「定年退職したから」と回答した割合は、男性回答者が 36.9%と 4 割弱であるのに対し、女性回答者は 10.1%と低くなっており、男性回答者と女性回答者のポイント差が顕著になっています。

「健康面の理由から」と回答した割合は、男性回答者が 20.0%であるのに対し、女性回答者は 10.9%となっています。

「家事との両立が困難だから」と回答した割合 (男性 1.5%、女性 5.9%)、「子育てとの両立が困難だから」と回答した割合 (男性 1.5%、女性 14.3%)、「介護との両立が困難だから」と回答した割合 (男性 0.0%、女性 5.9%) は、男性回答者よりも女性回答者のほうが高くなっています。女性は仕事と家庭生活との両立に困難を抱えていることが推察されます。また、「希望する勤務条件 (時間、場所、給与など) の仕事なかったから」と回答した割合も、男性回答者に比べ女性回答者のほうが高くなっています。



【年齢別】

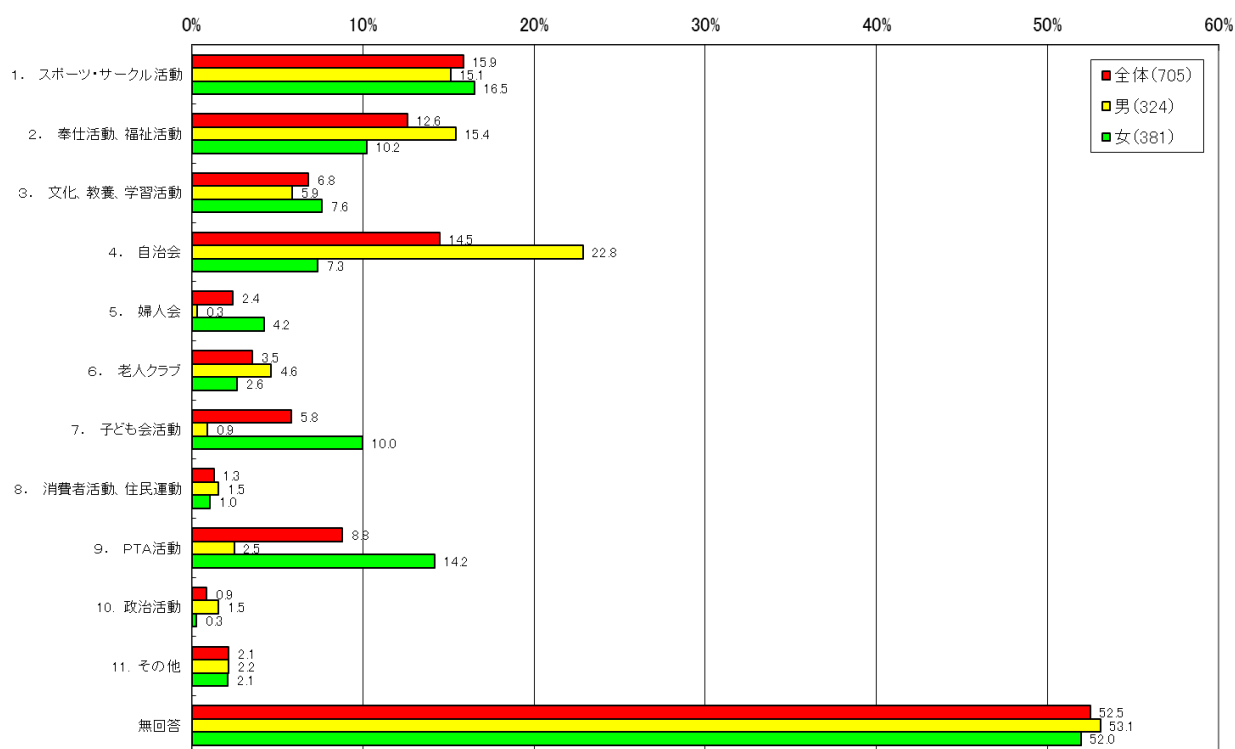
30 歳代では、「子育てとの両立が困難だから」と回答した割合が 42.9%で最も高くなっています。40 歳代では「希望する勤務条件（時間、場所、給与など）の仕事がなかったから」と回答した割合が 24.0%で最も高くなっています。50 歳代では、「健康面の理由から」と回答した割合が 40.9%で最も高くなっています。60 歳代、70 歳以上では「定年退職したから」と回答した割合（60 歳代 39.6%、70 歳以上 43.6%）が最も高くなっています。

4 社会への参画について

4-1 地域活動の参加状況・参加希望

問 13 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」「今後参加したいもの」についてそれぞれ選んでください。（あてはまるものすべてに○）

問 13-1 現在参加している地域活動



【全体】

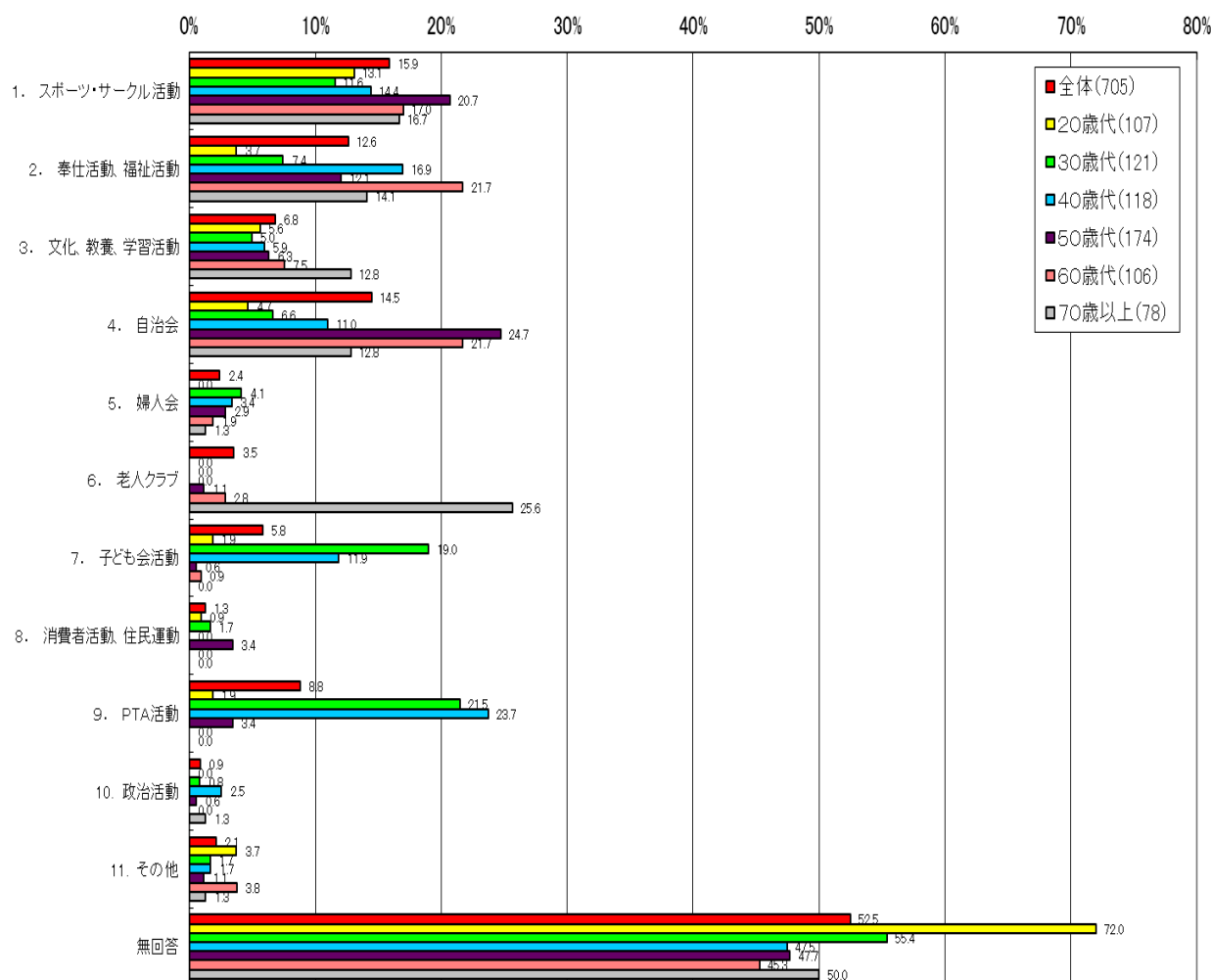
「無回答」の割合が 52.5% で最も高くなっており、半数以上の人々が、現在いずれの地域活動にも参加していないことが推察されます。

参加している地域活動の中では、「スポーツ・サークル活動」の割合が 15.9% で最も高く、次いで「自治会」の割合が 14.5% となっています。

【性別】

男女とも「無回答」の割合（男性 53.1%、女性 52.0%）が最も高くなっています。

「自治会」の割合は、男性回答者が 22.8% と 2 割強であるのに対し、女性回答者は 7.3% と 1 割に満たず、女性回答者よりも男性回答者のほうが多く参加しています。一方、「子ども会活動」（男性 0.9%、女性 10.0%）、「PTA 活動」（男性 2.5%、女性 14.2%）は、男性回答者より女性回答者のほうが現在参加していると回答した人の割合が高くなっています。



【年齢別】

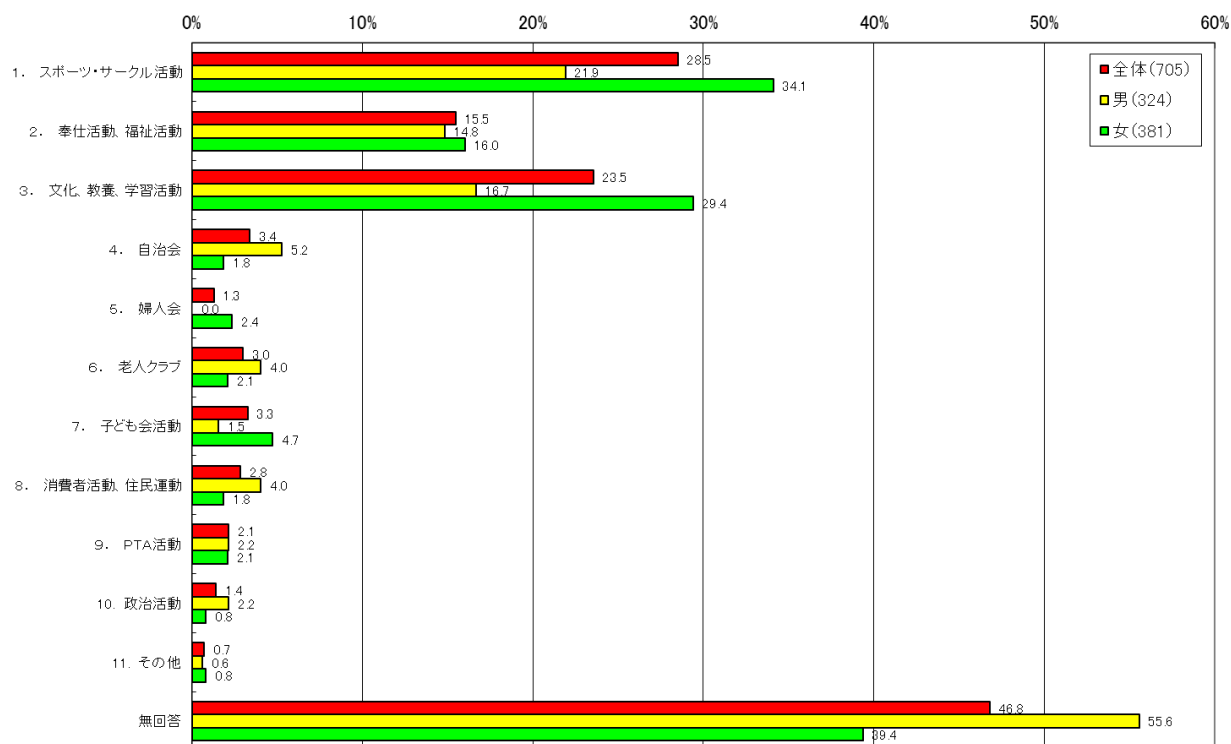
「無回答」の割合は、いずれの年齢層でも4割を超えており、地域活動に参加していない人が多くなっています。特に20歳代では「無回答」の割合が72.0%と最も高く、7割を超えています。

「スポーツ・サークル活動」の割合は、50歳代で20.7%と最も高く、次いで60歳代で17.0%、70歳以上で16.7%となっています。

「自治会」の割合は、50歳代で24.7%と最も高く、次いで60歳代で21.7%となっています。

「子ども会活動」の割合は、30歳代で19.0%と最も高く、次いで40歳代で11.9%となっています。「PTA活動」の割合は、40歳代で23.7%と最も高く、次いで30歳代で21.5%となっています。「子ども会活動」の割合と「PTA活動」の割合は、30歳代、40歳代で他の年齢層に比べて高く、参加している人が多くなっています。

問 13-2 今後参加したい地域活動



【全体】

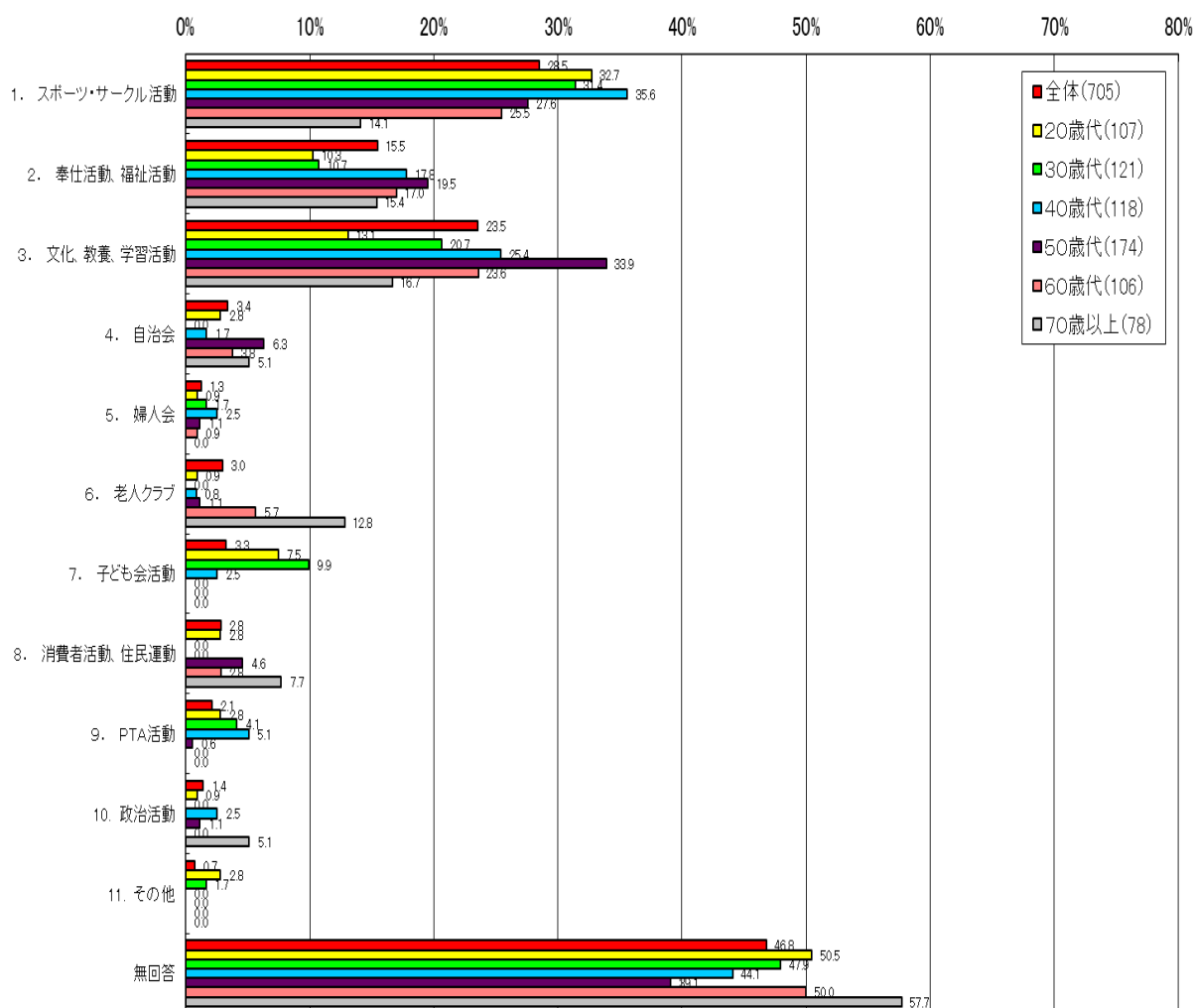
「無回答」の割合が46.8%で最も高くなっており、今後参加したい地域活動がない人が多いことがうかがえます。

参加したい地域活動の中では、「スポーツ・サークル活動」の割合が28.5%で最も高く、次いで「文化、教養、学習活動」の割合が23.5%となっています。

【性別】

男女とも「無回答」の割合が最も高くなっていますが、男性回答者が55.6%と5割を超えているのに対し、女性回答者は39.4%と4割弱で、男性回答者よりも女性回答者のほうが地域活動への参加意欲が高い傾向にあります。

「スポーツ・サークル活動」（男性21.9%、女性34.1%）、「文化、教養、学習活動」（男性16.7%、女性29.4%）は、男性回答者よりも女性回答者のほうが参加したいと回答した人の割合が高くなっています。一方「自治会」は、男性回答者が5.2%であるのに対し、女性回答者が1.8%で、女性回答者よりも男性回答者のほうが参加したいと回答した人の割合が高くなっています。



【年齢別】

いずれの年齢層でも「無回答」の割合が最も高くなっていますが、50歳代は39.1%で他の年齢層よりも低くなっており、地域活動への参加意欲が高いことがうかがえます。

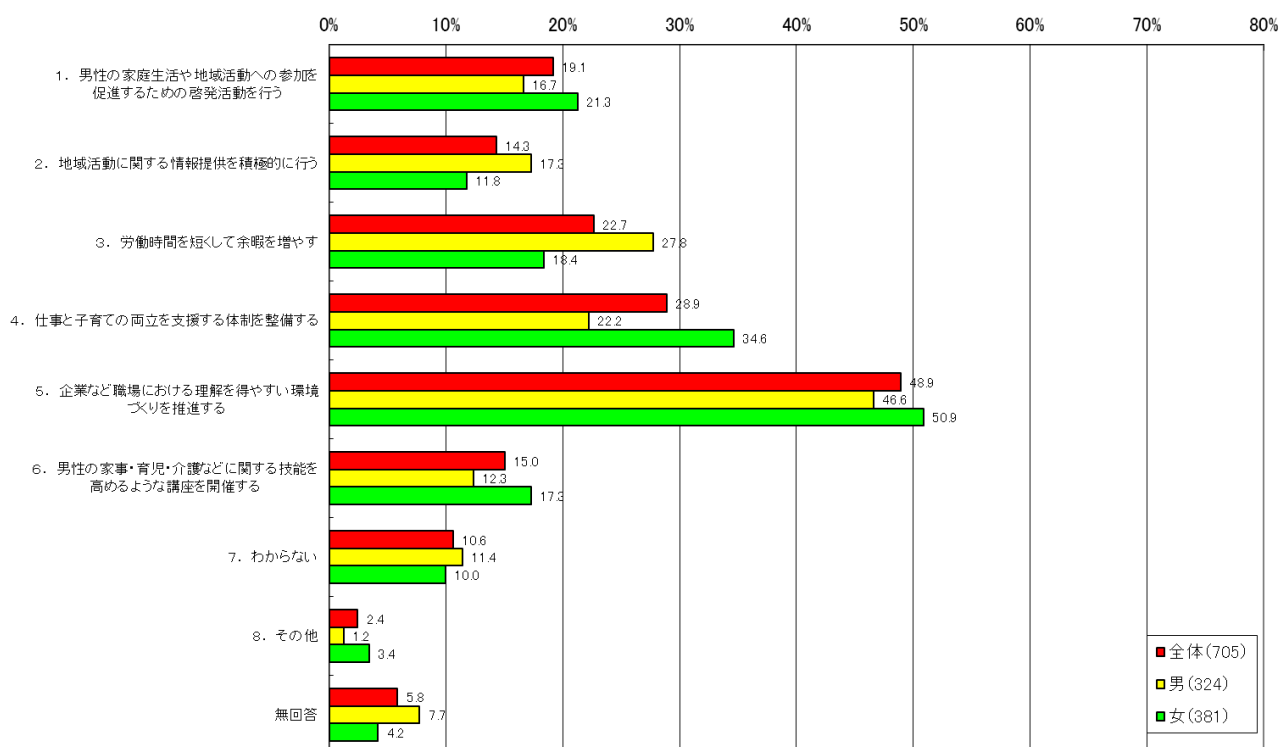
「スポーツ・サークル活動」の割合は20歳代(32.7%)、30歳代(31.4%)、40歳代(35.6%)で3割を超えており、若い年齢層で高くなっています。

「奉仕活動、福祉活動」の割合は40歳代(17.8%)、50歳代(19.5%)、60歳代(17.0%)で約2割となっており、高い年齢層で高くなっています。

「文化、教養、学習活動」の割合は、50歳代で33.9%と他の年齢層よりも高くなっています。

4-2 男性の家庭生活や地域活動への参加

問14 これまで男性は、比較的家庭生活（家事・育児・介護など）や地域活動への参加が少なかったと言われていますが、男性の参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は2つまで）

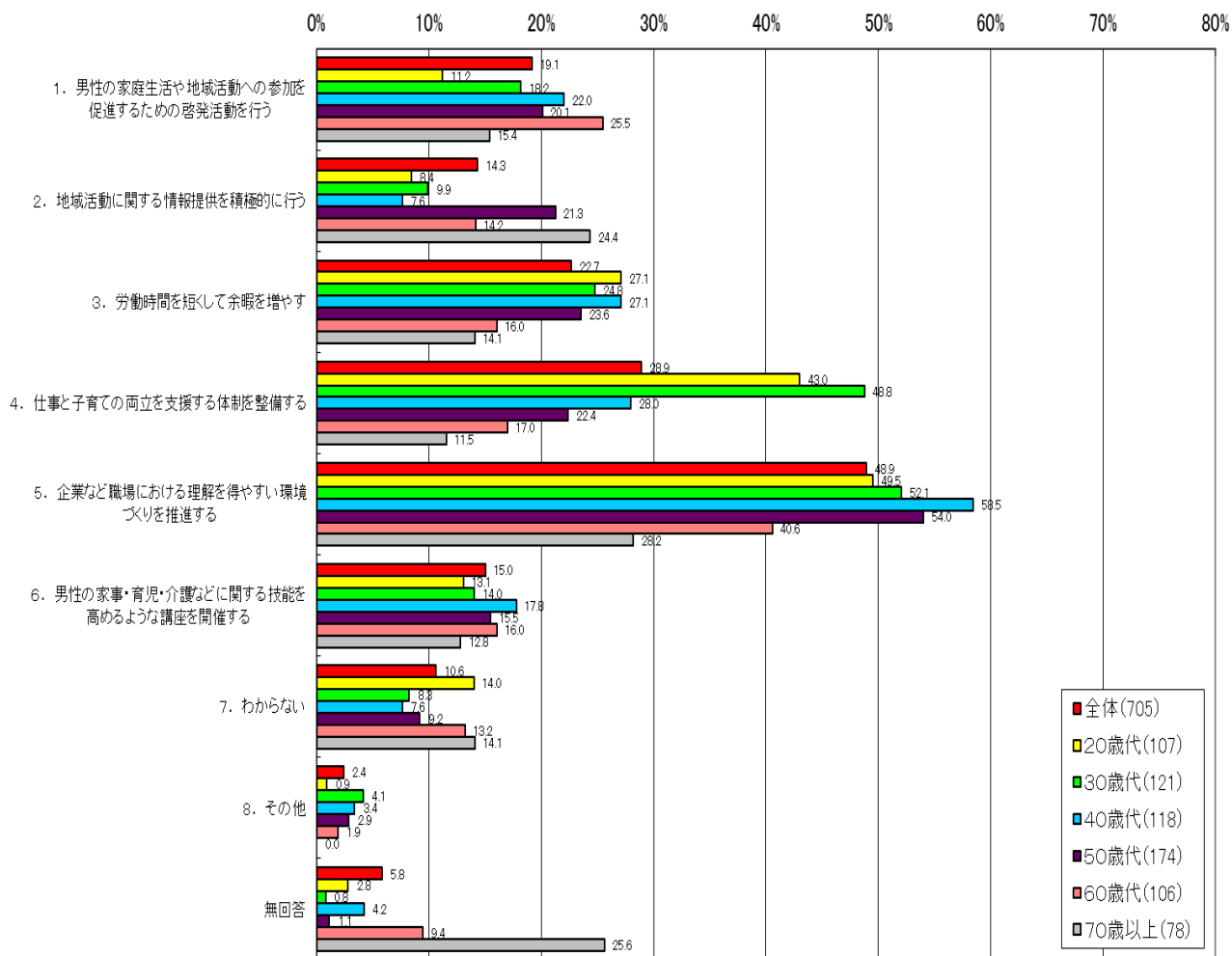


【全体】

「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」と回答した割合が48.9%と最も高く、次いで「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」と回答した割合が28.9%、「労働時間を短くして余暇を増やす」と回答した割合が22.7%となっています。

【性別】

「労働時間を短くして余暇を増やす」と回答した割合は、男性回答者が27.8%であるのに対して、女性回答者は18.4%で男性回答者のほうが女性回答者よりも9.4ポイント高くなっています。一方、「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」と回答した割合は、男性回答者が22.2%であるのに対して、女性回答者は34.6%で女性回答者のほうが男性回答者よりも12.4ポイント高くなっています。



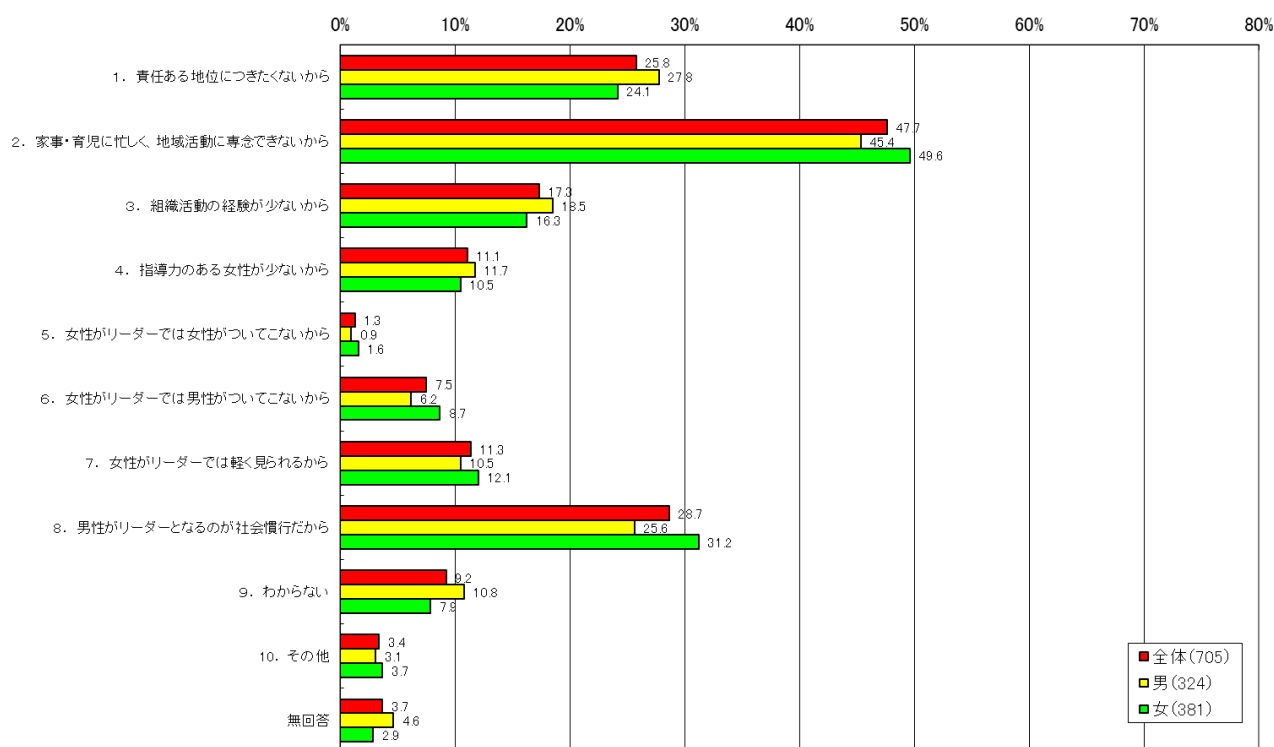
【年齢別】

「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」と回答した割合は、40歳代で58.5%と最も高く、次いで50歳代で54.0%となっています。

「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」と回答した割合は30歳代で48.8%と最も高く、次いで20歳代で43.0%と4割を超え、他の年齢層よりも高くなっています。

4-3 女性リーダーが少ない原因

問 15 自治会やPTAなどの活動で、女性のリーダーが少ないようですが、その原因は何だと思いますか。（〇は2つまで）



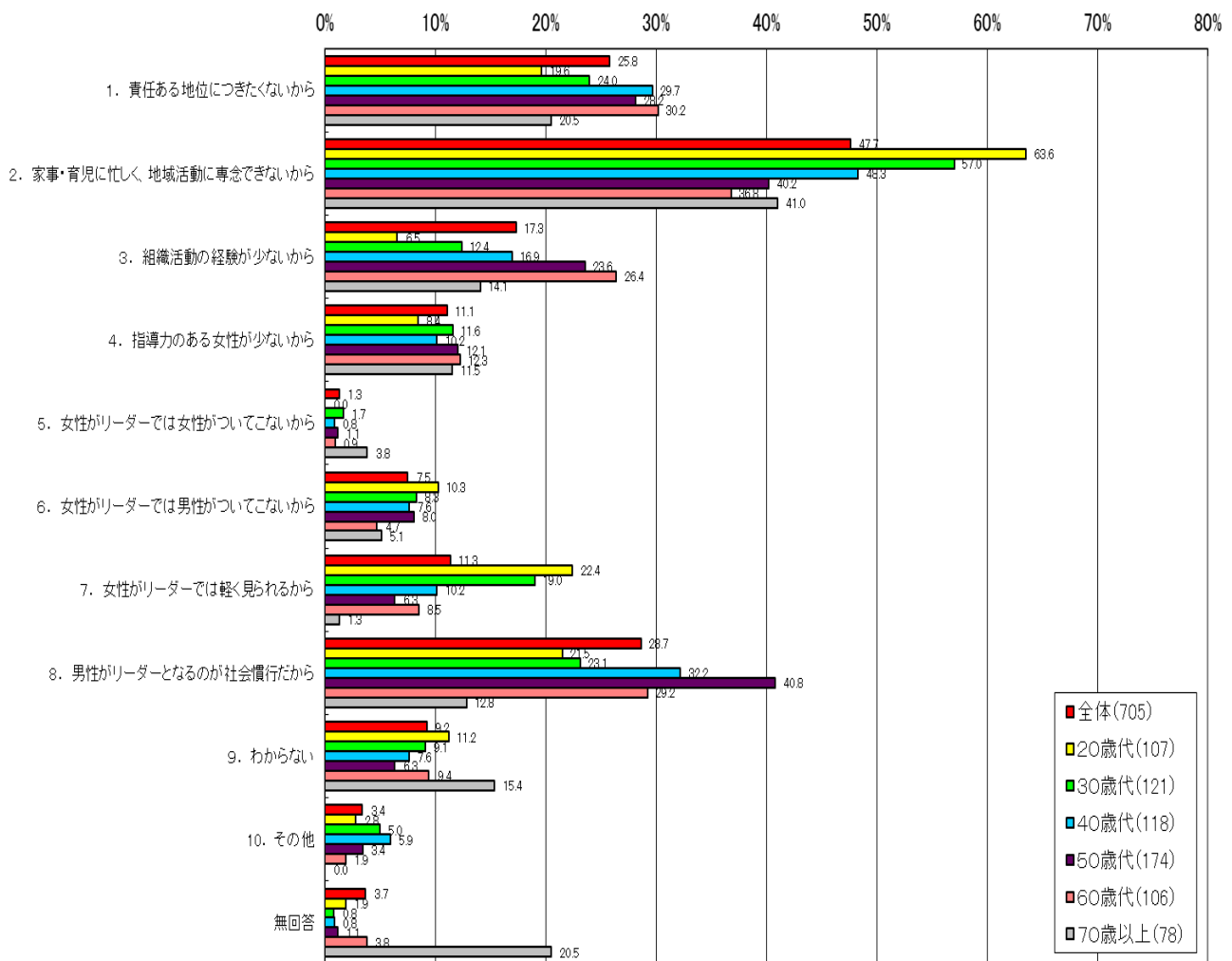
【全体】

「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」と回答した割合が47.7%と約5割で最も高く、次いで「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」と回答した割合が28.7%となっています。

一方、「女性がリーダーでは女性がついてこないから」と回答した割合が1.3%と最も低くなっています。

【性別】

「責任ある地位につきたくないから」（男性27.8%、女性24.1%）、「組織活動の経験が少ないから」（男性18.5%、女性16.3%）は、女性回答者よりも男性回答者のほうが回答した割合が高いのに対し、「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」（男性45.4%、女性49.6%）、「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」（男性25.6%、女性31.2%）は、男性回答者よりも女性回答者のほうが回答した割合が高くなっています。



【年齢別】

「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」と回答した割合は、20歳代で63.6%と最も高く、次いで30歳代で57.0%となっており、若い年齢層で高くなっています。

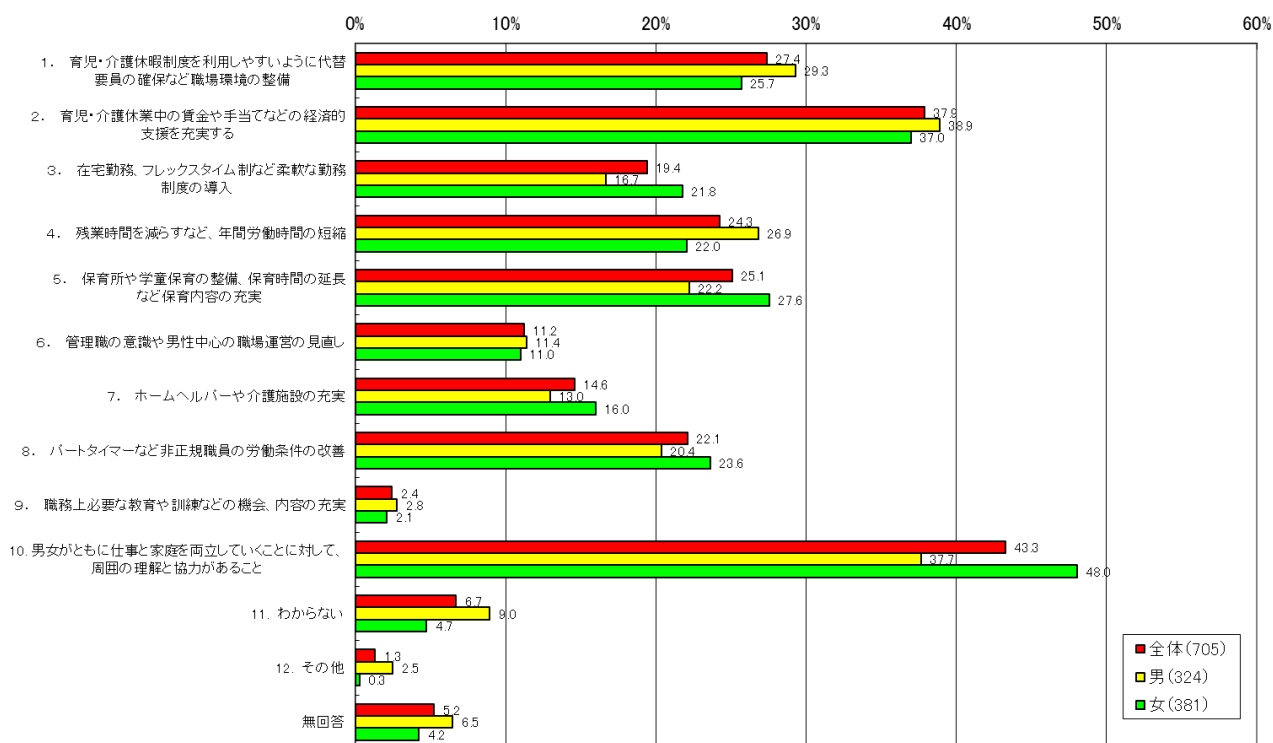
「組織活動の経験が少ないから」と回答した割合は、50歳代で23.6%、60歳代で26.4%と高い年齢層で高くなっています。

「女性がリーダーでは軽く見られるから」と回答した割合は、20歳代で22.4%と最も高く、次いで30歳代で9.0%となっており、若い年齢層で高くなっています。

「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」と回答した割合は、50歳代で最も高く40.8%と4割を超えており、他の年齢層よりも高くなっています。

4-4 仕事と仕事以外の生活の調和

問 16 あなたは、男女ともに「仕事と仕事以外の生活の調和」をはかり、充実した生活を送るために、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）



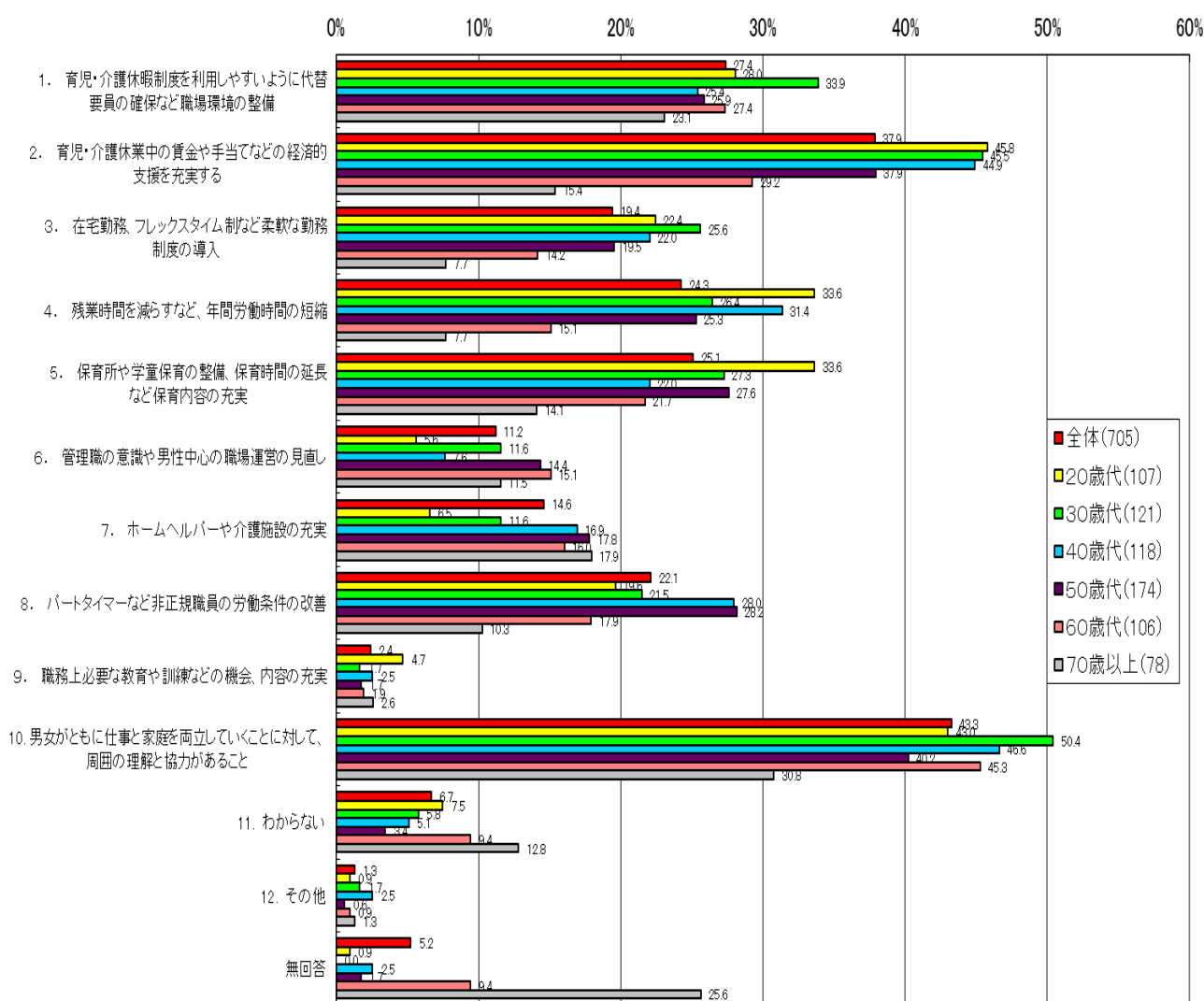
【全体】

「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」と回答した割合が最も高く 43.3%、次いで「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」と回答した割合が 37.9%、「育児・介護休暇制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備」と回答した割合が 27.4%となっています。

【性別】

男性回答者では、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」と回答した割合が 38.9%で最も高く、次いで「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」と回答した割合が 37.7%、「育児・介護休暇制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備」と回答した割合が 29.3%となっています。

女性回答者では、「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」と回答した割合が 48.0%で最も高く、次いで「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」と回答した割合が 37.0%、「保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実」と回答した割合が 27.6%となっています。



【年齢別】

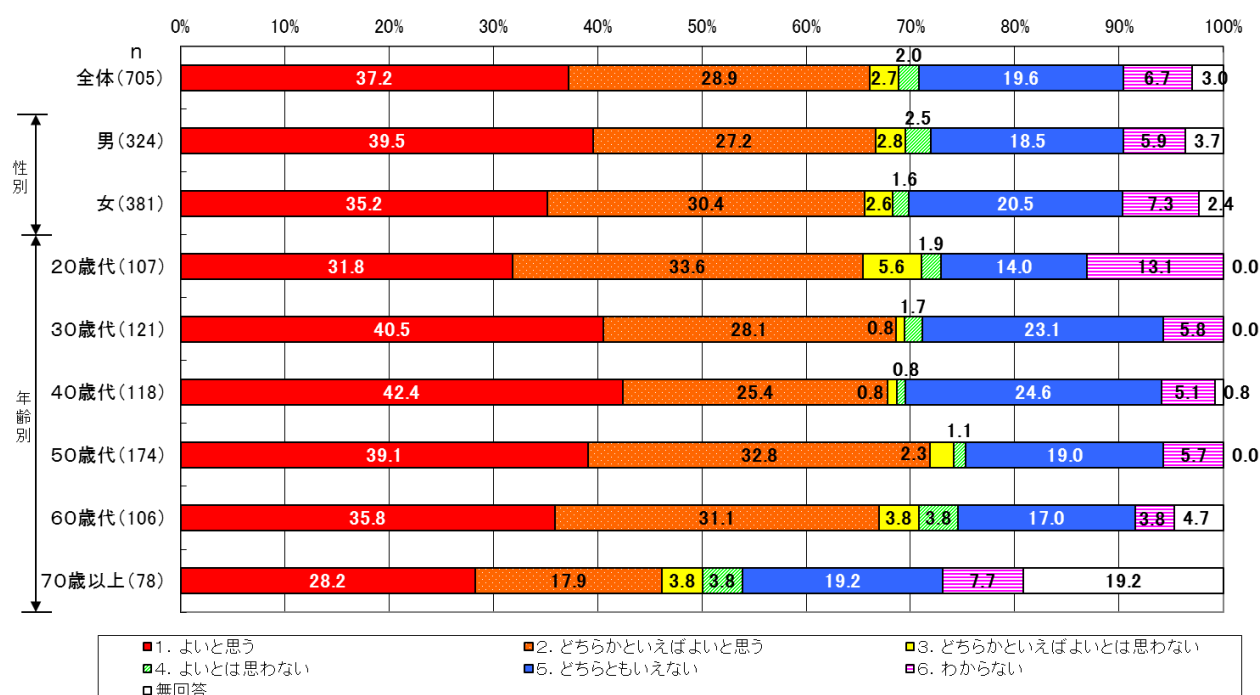
「育児・介護休暇制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備」と回答した割合は、30歳代で33.9%と他の年齢層よりも高くなっています。

「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」と回答した割合は、20歳代で45.8%と他の年齢層よりも高くなっており、20歳代(45.8%)、30歳代(45.5%)、40歳代(44.9%)で4割を超えています。

「保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実」と回答した割合は、20歳代で33.6%と他の年齢層よりも高くなっています。

4-5 指導的地位に占める女性の割合

問 17 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えたほうがよいと思いますか。(〇は1つ)



【全体】

「よいと思う」(37.2%)、「どちらかといえばよいと思う」(28.9%)を合わせた割合は66.1%と6割以上の方が様々な職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えるほうがよいと回答しています。

一方、「よいとは思わない」(2.0%)、「どちらかといえばよいとは思わない」(2.7%)を合わせた割合は4.7%と1割に満たない状況となっています。

なお、「どちらともいえない」と回答した割合は19.6%となっています。

【性別】

男女とも、「よいと思う」(男性39.5%、女性35.2%)と回答した割合が最も高く、次いで「どちらかといえばよいと思う」(男性27.2%、女性30.4%)、「どちらともいえない」(男性18.5%、女性20.5%)の順に割合が高くなっています。

なお、「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合は、女性回答者(65.6%)より男性回答者(66.7%)のほうが1.1ポイント高くなっていますが、どちらも6割を超えています。

【年齢別】

「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合は、50 歳代が 71.9%と最も高く、次いで 30 歳代が 68.6%となっています。

「よいとは思わない」「どちらかといえばよいとは思わない」を合わせた割合は、60 歳代と 70 歳以上が同数で 7.6%と最も高く、次いで 20 歳代が 7.5%となっています。

〔前回調査（平成 20 年）との比較〕

	よい と思う	う えど ばち よら いか と 思い	思 えど わば ちな よら いか と はい	な よ い と は 思 わ	え ど な い ら と も い	わ か ら な い	無 回 答
H20	38.7	24.4	4.4	5.5	16.9	4.1	6.1
H26	37.2	28.9	2.7	2.0	19.6	6.7	3.0

「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合は、平成 20 年（63.1%）よりも平成 26 年（66.1%）のほうが多くなっています。

一方、「よいとは思わない」「どちらかといえばよいとは思わない」を合わせた割合は、平成 20 年（9.9%）よりも平成 26 年（4.7%）のほうが低くなっています。

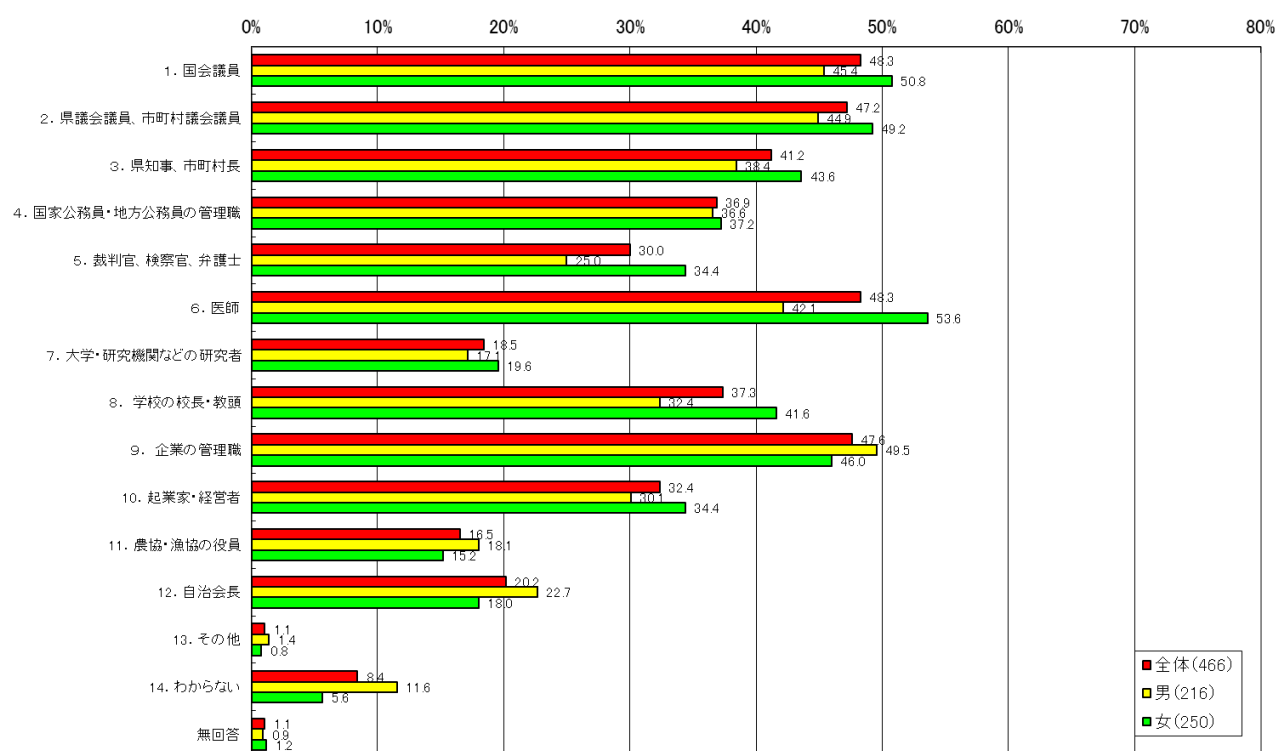
したがって、指導的地位に占める女性の割合が増えることがよいという考え方が強まったことが推察されます。

4-6 女性の割合が増えるほうがよいと思う職業

問 17-1 問 17 で「1」または「2」と回答した方のみお答えください。次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

【全体】

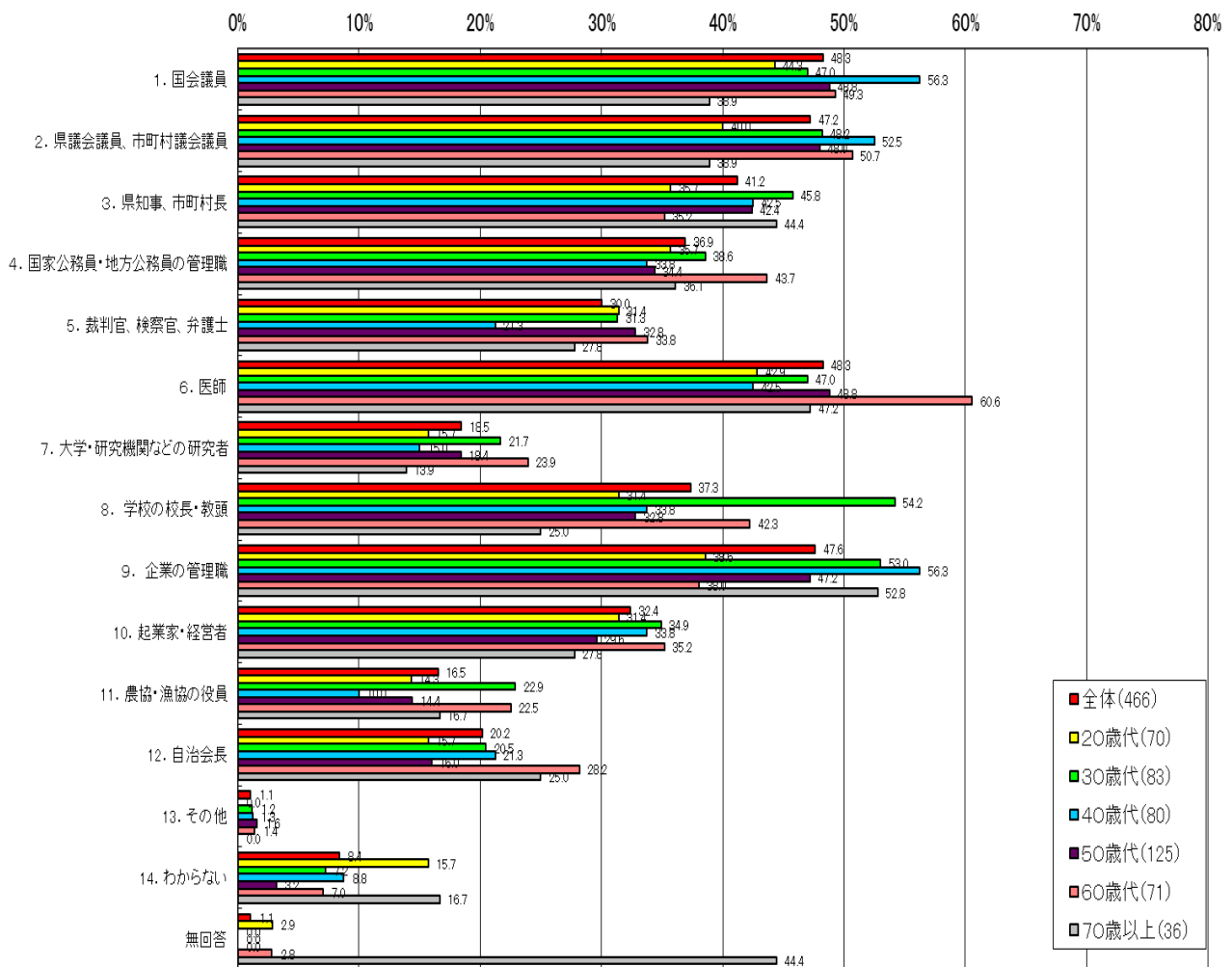
「医師」、「国会議員」の回答が同数で 48.3% と最も高く、次いで「企業の管理職」の回答が 47.6%、「県議会議員、市町村議会議員」の回答が 47.2%、「県知事、市町村長」の回答が 41.2% となっています。



【性別】

男性回答者では「企業の管理職」と回答した人の割合が 49.5% で最も高くなっているのに対し、女性回答者では「医師」と回答した人の割合が 53.6% で最も高くなっています。

なお、「裁判官、検察官、弁護士」（男性 25.0%、女性 34.4%）、「医師」（男性 42.1%、女性 53.6%）、「学校の校長・教頭」（男性 32.4%、女性 41.6%）の回答は男性回答者と女性回答者のポイント差が大きくなっています。



【年齢別】

20 歳代では、「国会議員」と回答した人の割合が 44.3%で最も高くなっています。

30 歳代では、「学校の校長・教頭」と回答した人の割合が 54.2%で最も高く、他の年齢層より高くなっています。

40 歳代では、「国会議員」「企業の管理職」と回答した人の割合が同数の 56.3%で最も高くなっています。

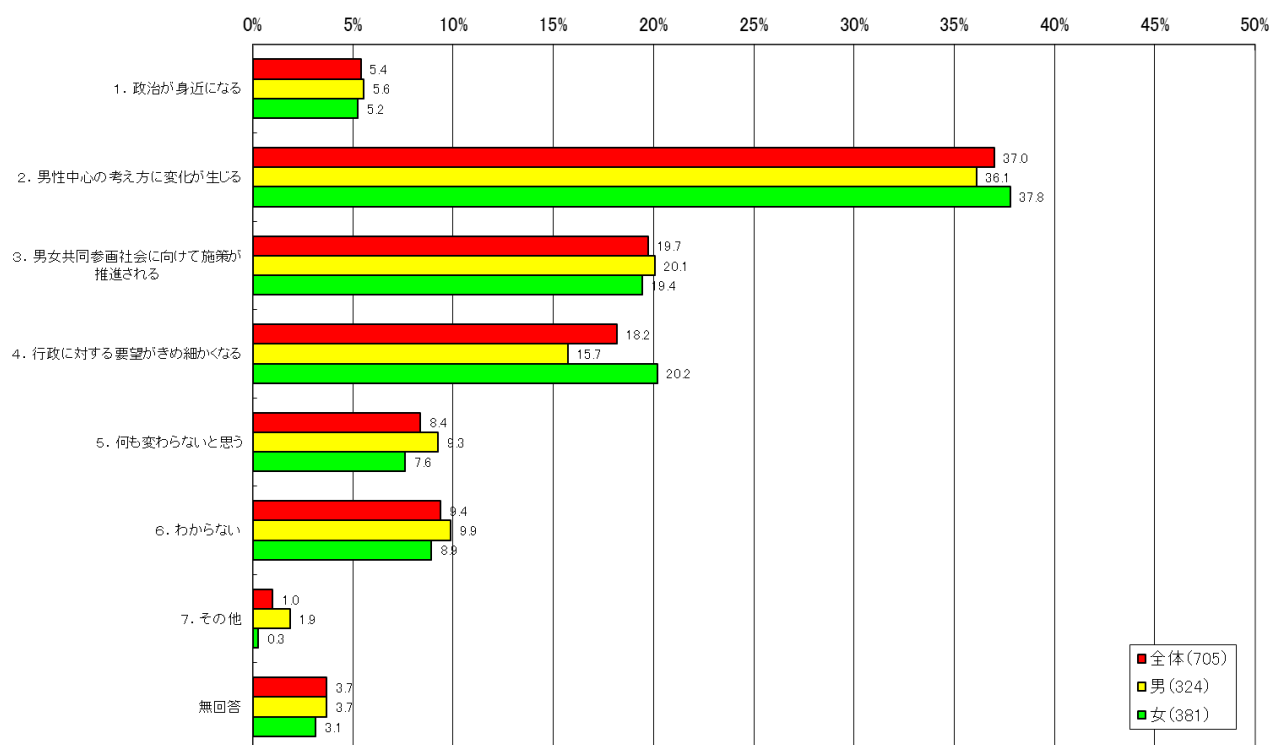
50 歳代では、「国会議員」「医師」と回答した人の割合が同数の 48.8%で最も高くなっています。

60 歳代では、「医師」と回答した人の割合が 60.6%で最も高く、他の年齢層より高くなっています。

70 歳以上では、「企業の管理職」と回答した人の割合が 52.8%で最も高くなっています。

4-7 女性の参画による社会の変化

問18 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどう変化したいと思いますか。
(〇は1つ)



【全体】

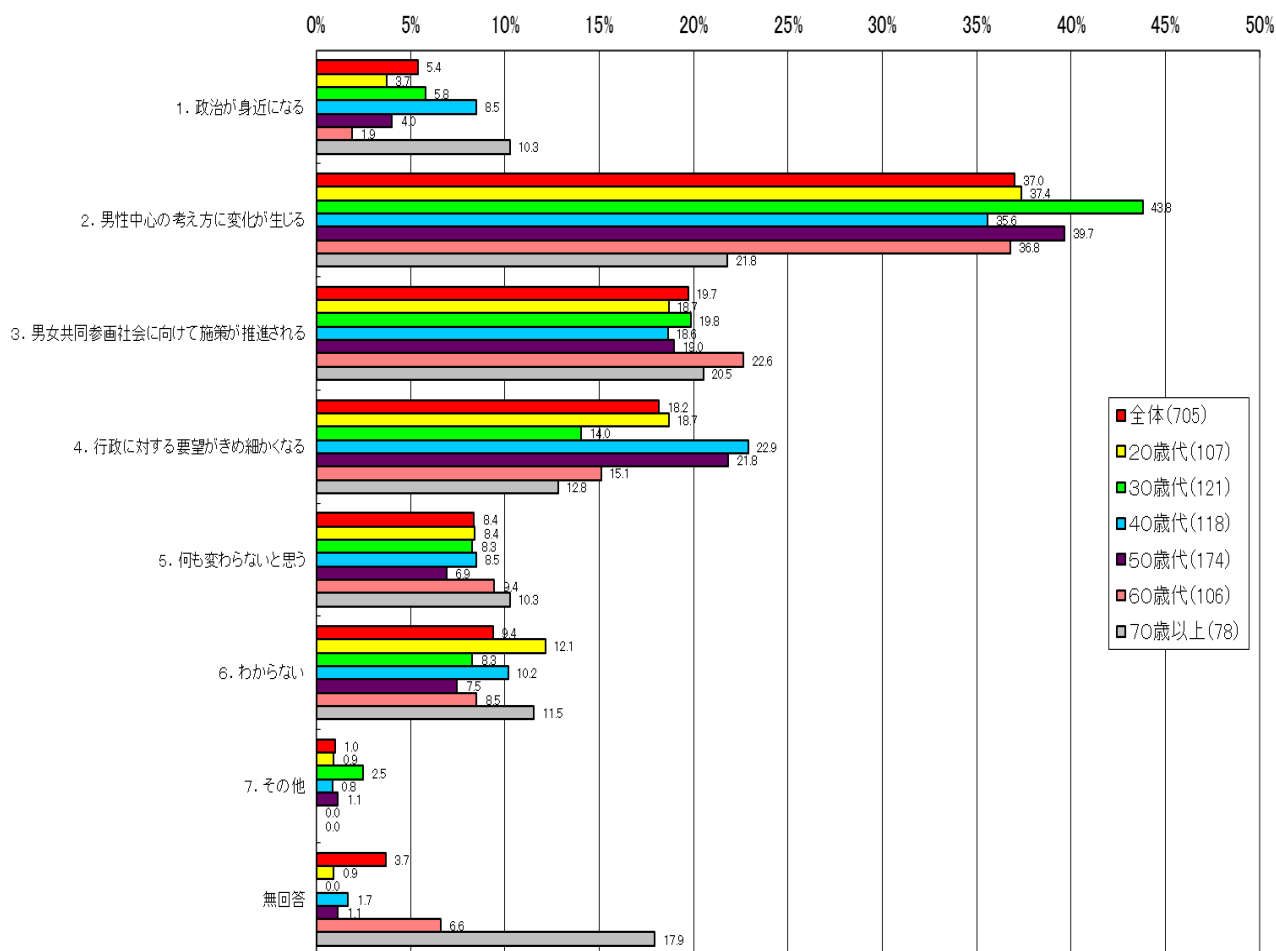
「男性中心の考え方に変化が生じる」と回答した割合が37.0%と最も高くなっており、次いで「男女共同参画社会に向けて施策が推進される」と回答した割合が19.7%、「行政に対する要望がきめ細かくなる」と回答した割合が18.2%となっています。

一方、「何も変わらないと思う」と回答した割合は8.4%となっており、社会に変化が生じると回答した人の割合のほうが高くなっています。

【性別】

男女とも「男性中心の考え方に変化が生じる」と回答した割合（男性36.1%、女性37.8%）が最も高く、3割を超えています。

「行政に対する要望がきめ細かくなる」と回答した割合は、男性回答者が15.7%であるのに対して、女性回答者は20.2%と、女性回答者のほうが男性回答者よりも4.5ポイント高くなっています。



【年齢別】

「男性中心の考え方に変化が生じる」と回答した人の割合は、30歳代が43.8%で最も高く、次いで50歳代で39.7%、最も低い40歳代でも35.6%と3割を超えており、いずれの年齢層でも最も高くなっています。

「行政に対する要望がきめ細くなる」と回答した人の割合は、40歳代が22.9%で最も高く、次いで50歳代が21.8%と2割を超えているのに対し、他の年齢層では2割に満たず、年齢層によってポイント差が見られます。

5 人権について

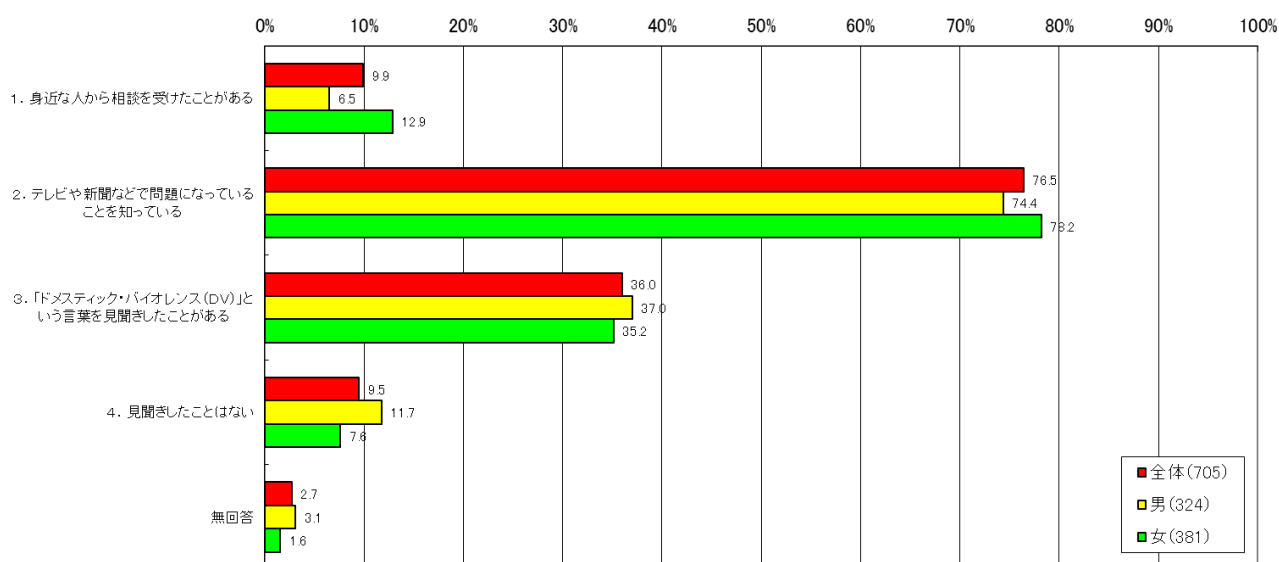
5-1 ドメスティック・バイオレンス（DV）の認知度

問19 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について身近で見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

【全体】

「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」と回答した割合が76.5%で最も高く、次いで「ドメスティック・バイオレンス（DV）」という言葉を見聞きしたことがある」と回答した割合が36.0%となっており、多くの人がドメスティック・バイオレンス（DV）という言葉を見聞きしたことがあると回答しています。

一方、「見聞きしたことはない」と回答した割合は、9.5%となっており、約1割の人がドメスティック・バイオレンス（DV）という言葉を見聞きしたことがないと回答しています。

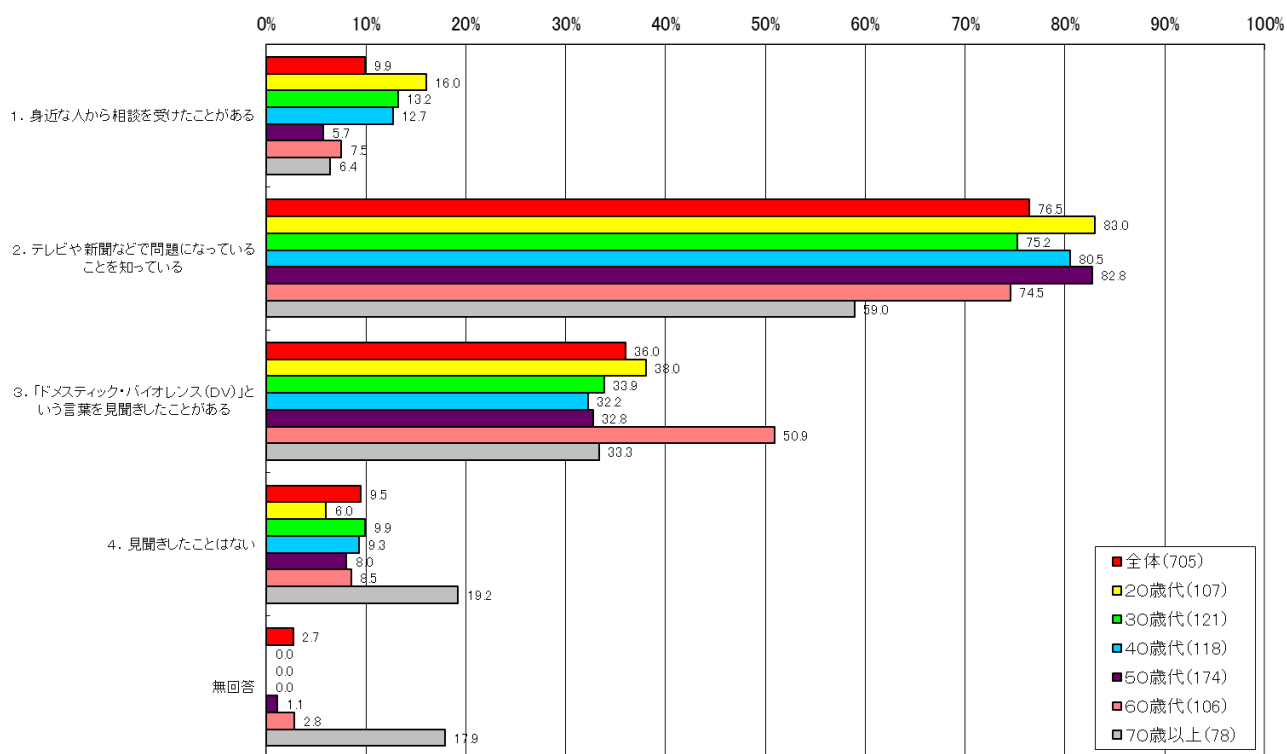


【性別】

男女とも「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」と回答した割合（男性74.4%、女性78.2%）が最も高くなっています。

「身近な人から相談を受けたことがある」と回答した割合は、男性回答者が6.5%であるのに対して、女性回答者が12.9%と1割を超えており、男性回答者よりも女性回答者のほうが相談を受けることが多いことが推察されます。

「見聞きしたことはない」と回答した割合は、男性回答者が11.7%であるのに対して、女性回答者が7.6%と、女性回答者よりも男性回答者のほうが高くなっています。



【年齢別】

「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」と回答した割合は、20 歳代で 83.0%と最も高く、次いで 50 歳代で 82.8%、最も低い 70 歳以上でも 59.0%と約 6 割を占めており、いずれの年齢層でも最も高くなっています。

「身近な人から相談を受けたことがある」と回答した割合は、20 歳代で 16.0%で最も高く、次いで 30 歳代で 13.2%、40 歳代で 12.7%の順で高くなっているのに対し、50 歳以上では 1 割に満たず、若い年齢層の人のほうが相談を受けた経験が多いことが推察されます。

「見聞きしたことがない」と回答した割合は、20 歳代から 60 歳代までいずれの年齢層でも 1 割に満たないのに対し、70 歳以上では 19.2%と約 2 割で、他の年齢層よりもドメスティック・バイオレンス（DV）という言葉を見聞きしたことがない人が多くなっています。

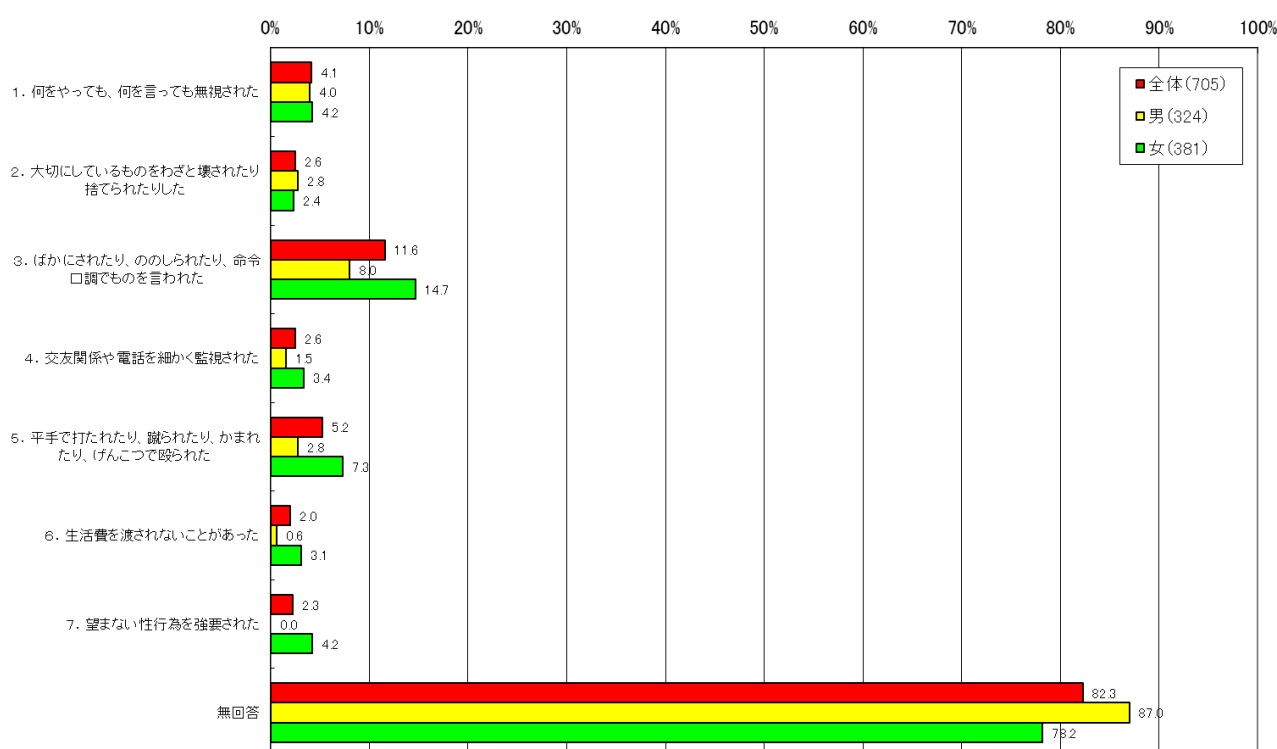
5-2 配偶者等の暴力の経験

問20 あなたは、次のような行為をパートナーから受けたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「無回答」が82.3%と最も多く、8割以上の方についてはパートナーから暴力を受けたことはないという結果になっています。

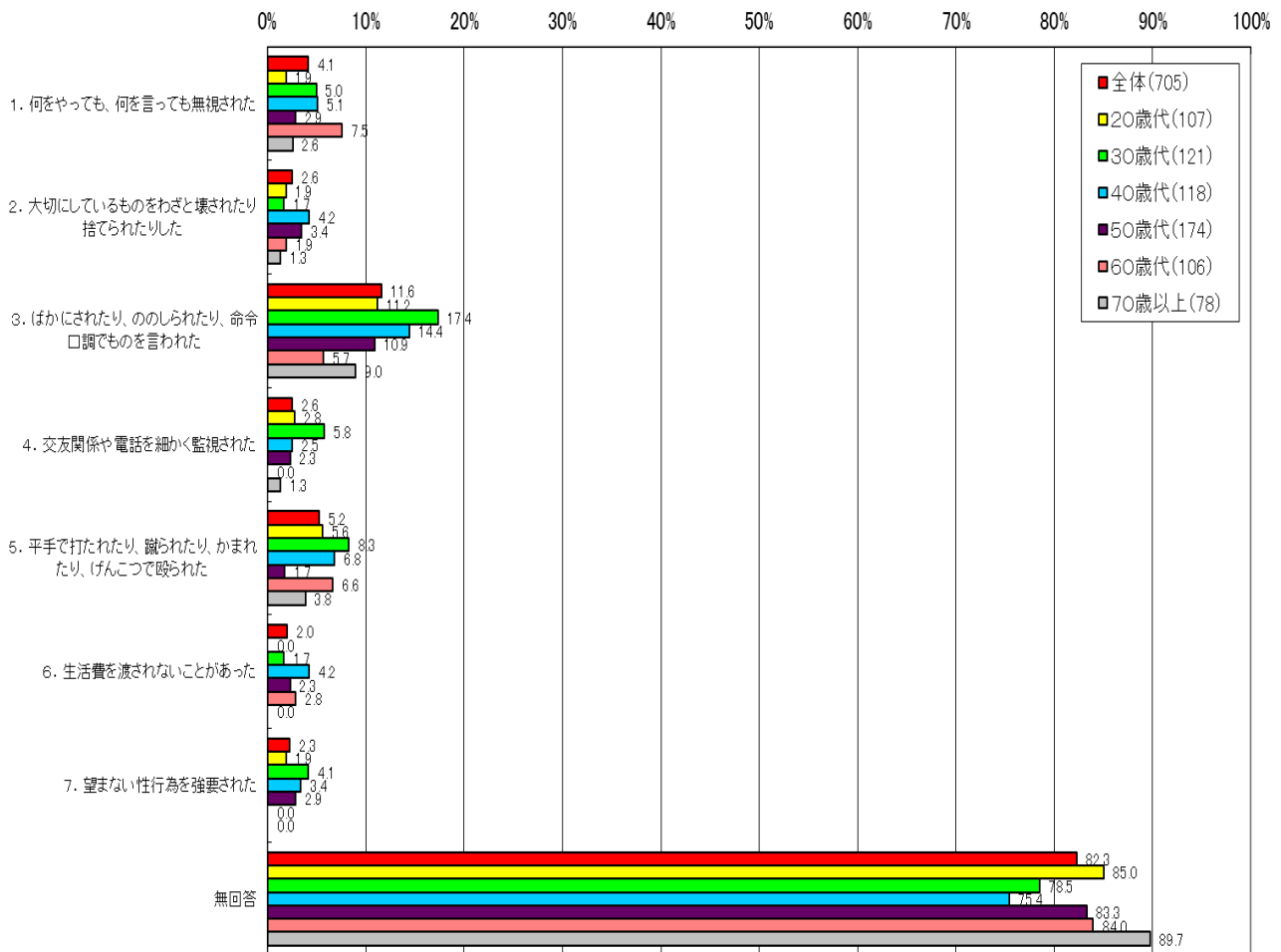
受けた暴力の中では、「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた」が11.6%で最も多く、1割を超えています。



【性別】

男女とも「無回答」の割合が最も多くなっており、多くの人がパートナーから暴力を受けた経験がないと考えられます。「無回答」の割合は男性回答者が87.0%であるのに対し、女性回答者は78.2%と男性回答者よりも低くなっています。このことから、男性回答者よりも女性回答者のほうが暴力を受けた経験があるという結果になっています。

受けた暴力の中では、「大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりした」以外のすべての項目でその暴力を経験したと回答した女性回答者の割合が、男性回答者の割合を上回っています。



【年齢別】

いずれの年齢層でも「無回答」の割合が最も高く、多くの人がパートナーから暴力を受けた経験がないという結果になっています。

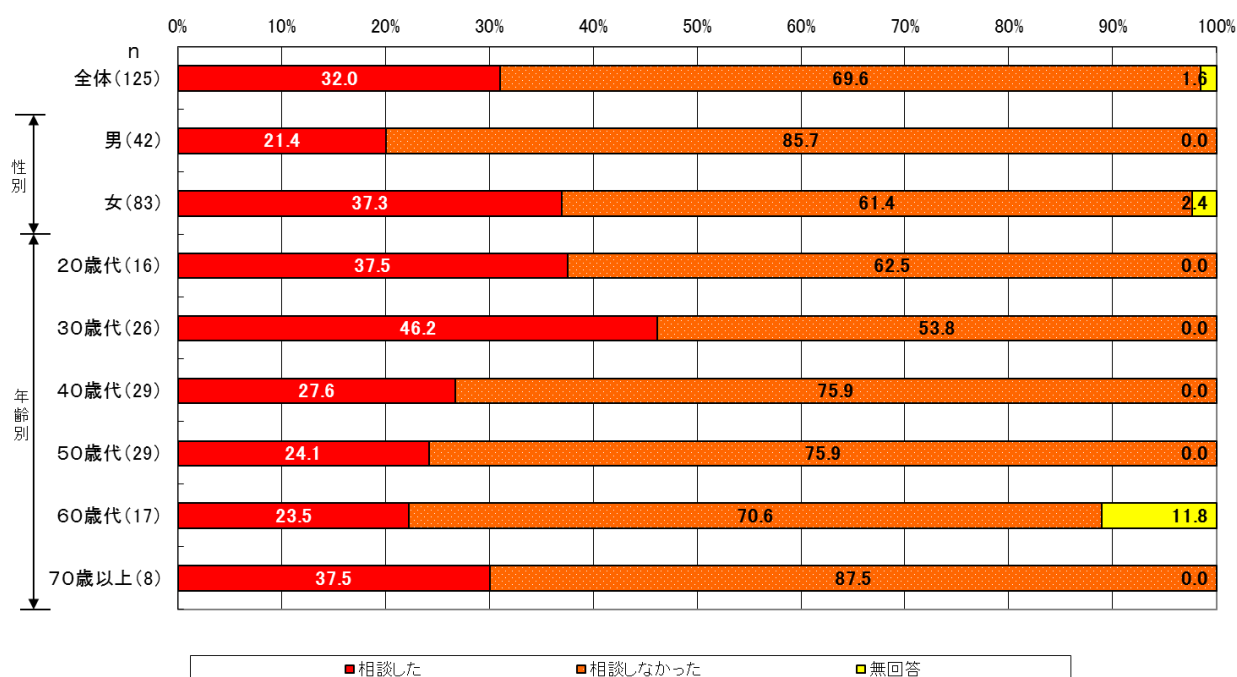
「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた」と回答した人の割合は、30歳代で17.4%と最も高く、次いで40歳代で14.4%となっています。

「平手で打たれたり、蹴られたり、かまれたり、げんこつで殴られた」と回答した人の割合は、30歳代で8.3%と最も多く、次いで40歳代で6.8%となっています。

したがって、30歳代、40歳代では他の年齢層に比べ、パートナーから何らかの暴力を受けた人が多くなっている傾向にあります。

5-3 配偶者等の暴力にかかる相談

問20-1 問20で○が1つ以上あった方のみお答えください。問20で挙げたような行為について誰か（どこか）に相談しましたか。（○は1つ）



【全体】

「相談しなかった」と回答した割合が69.6%と約7割を占めています。

【性別】

男女とも「相談しなかった」と回答した割合が高く、男性回答者は85.7%と8割強、女性回答者は61.4%と6割強を占めています。

【年齢別】

いずれの年齢層でも「相談しなかった」と回答した割合が高くなっています。しかし、30歳代では「相談した」と回答した割合が46.2%と5割弱で、他の年齢層よりも高くなっています。

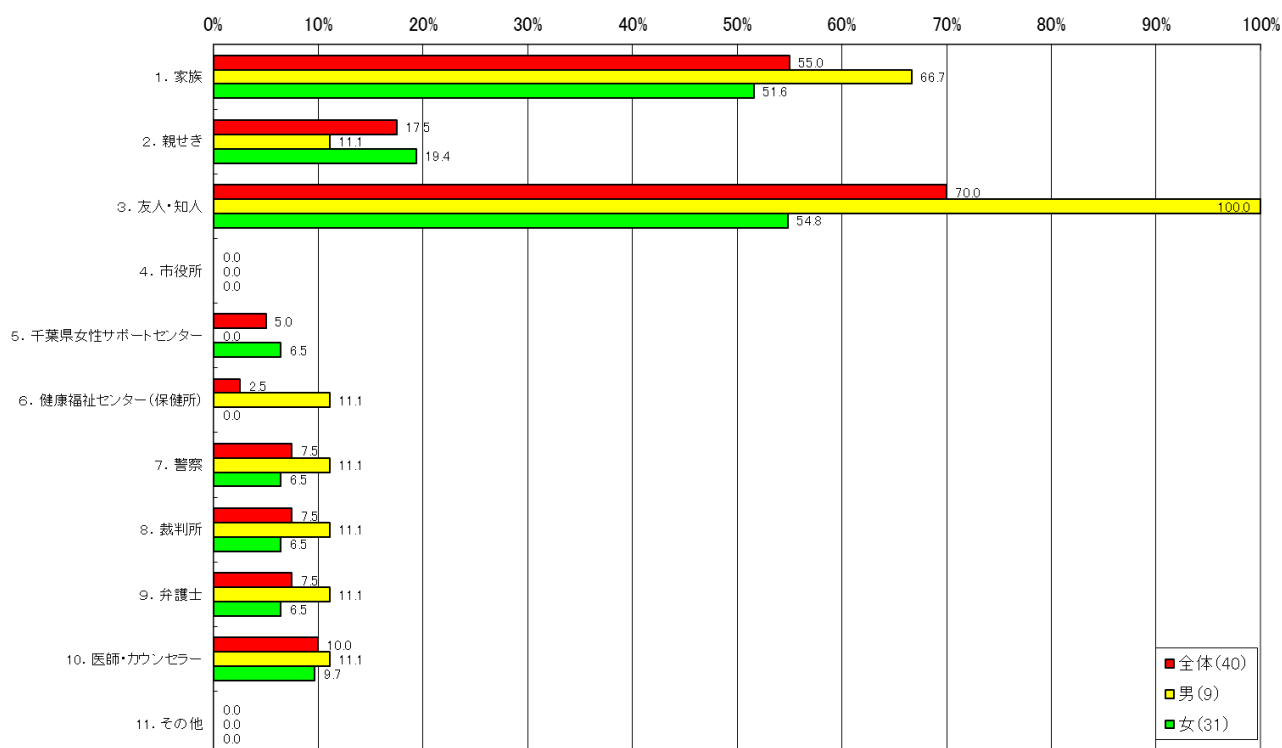
5-4 配偶者等の暴力にかかる相談先

問20-2 問20-1で「1」と回答した方のみお答えください。実際に誰（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

【全体】

「友人・知人」の割合が70.0%と7割を占め最も高く、次いで「家族」（55.0%）、「親戚」（17.5%）の順で割合が高くなっています。

「医師・カウンセラー」に相談した人の割合が10.0%で1割となっています。

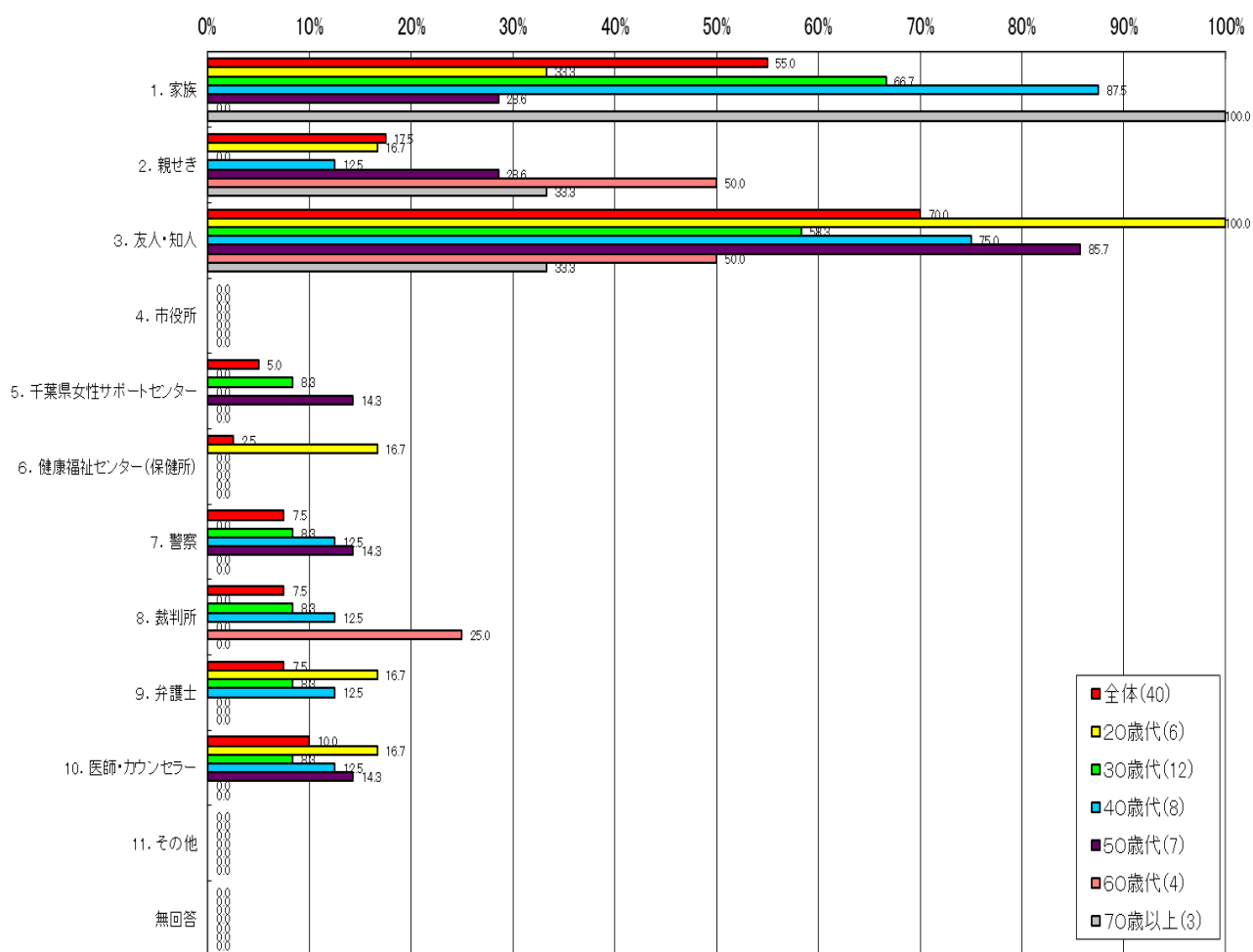


【性別】

男女とも「友人・知人」に相談したと回答した割合（男性 100.0%、女性 54.8%）が最も高く、次いで「家族」と回答した割合（男性 66.7%、女性 51.6%）となっています。

男性においては「親せき」「健康福祉センター（保健所）」「警察」「裁判所」「弁護士」「医師・カウンセラー」に相談したと回答した割合が、それぞれ11.1%（1人）となっています。

「千葉県女性サポートセンター」は、男性回答者には該当がありませんが、女性回答者では6.5%（2人）となっています。



【年齢別】

「家族」に相談したと回答した人の割合は、70歳以上で100.0%、40歳代で87.5%と高くなっている一方、60歳代では、0.0%となっています。

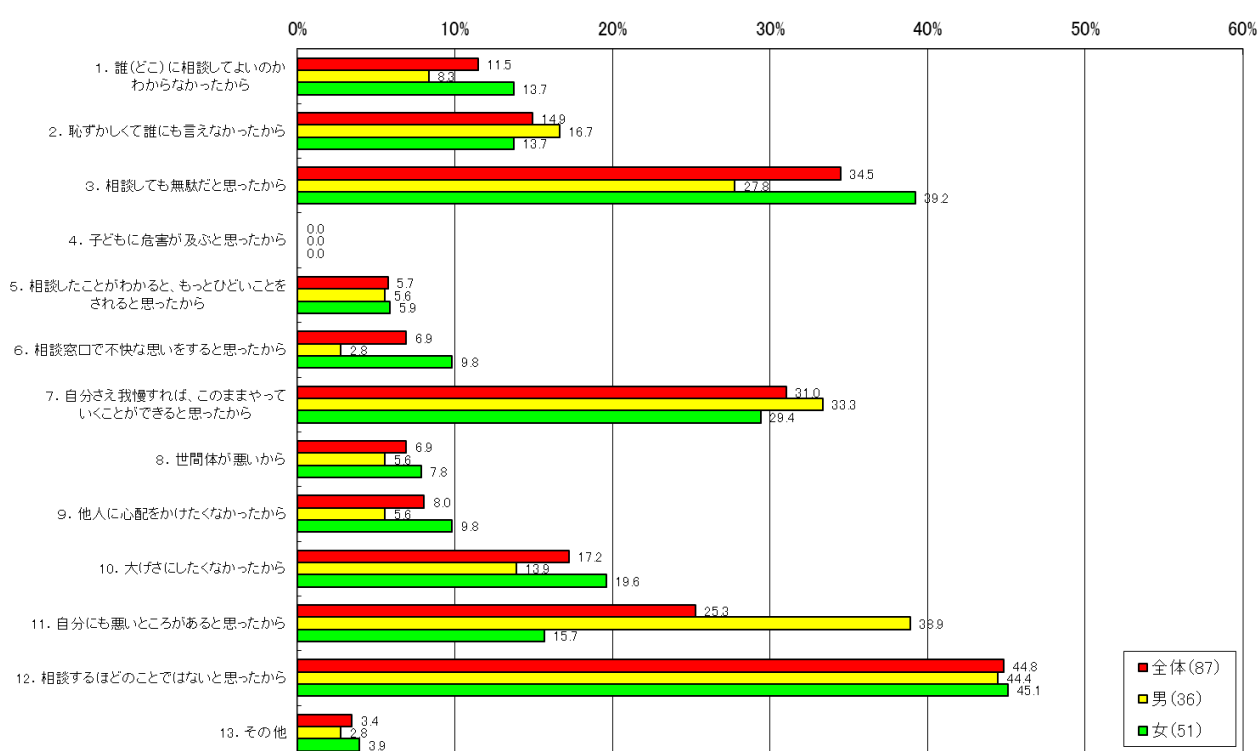
「友人・知人」に相談したと回答した人の割合は、20歳代で100.0%、50歳代で85.7%と高くなっています。

5-5 配偶者等の暴力にかかる相談をしなかった理由

問20-3 問20-1で「2」と回答した方のみお答えください。誰（どこ）にも相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

【全体】

「相談するほどのことではないと思ったから」という理由が44.8%と最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が34.5%、「自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができると思ったから」が31.0%という順で多くなっています。

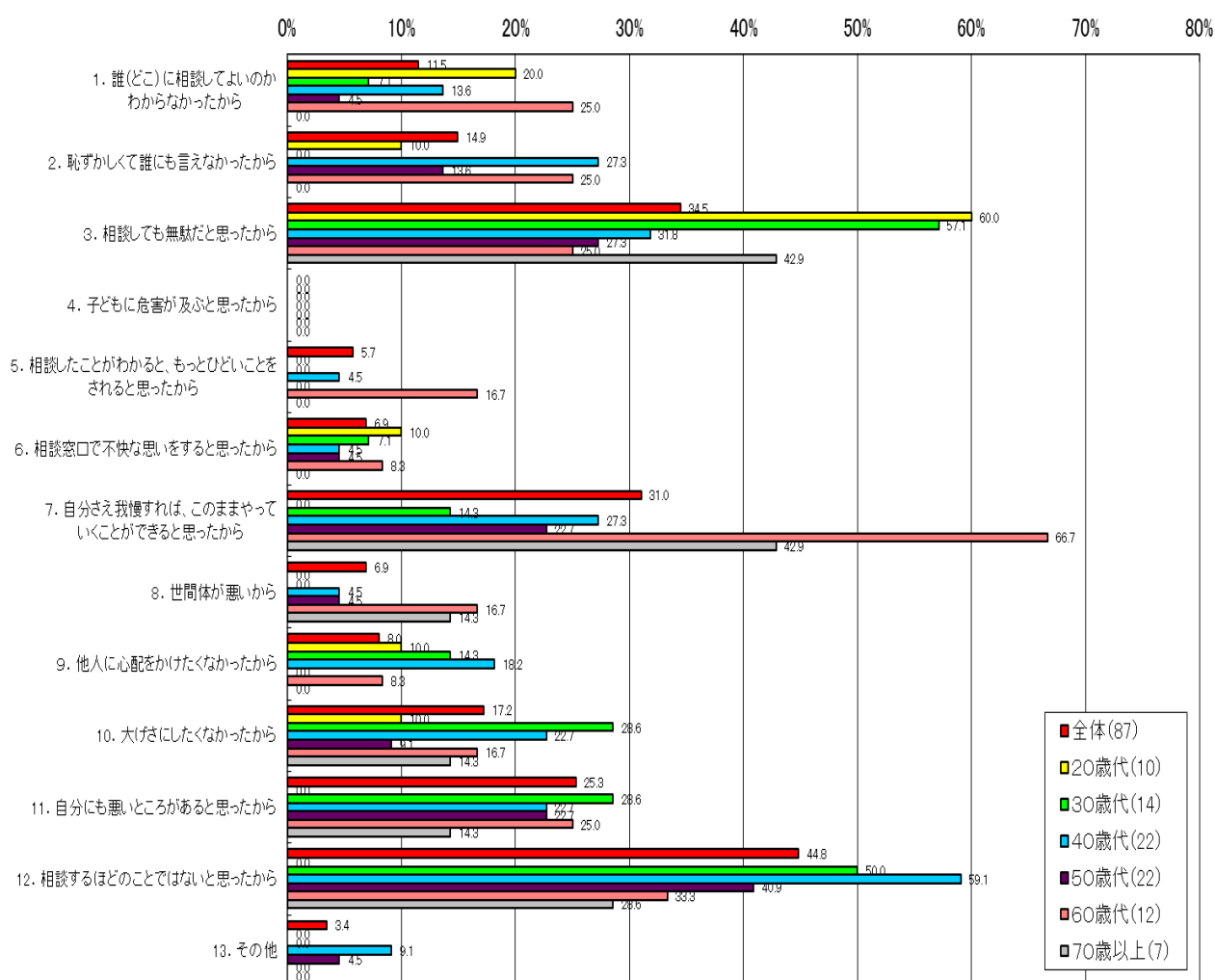


【性別】

男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」（男性 44.4%、女性 45.1%）という理由が最も多くなっています。

「相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合は、男性回答者が27.8%であるのに対して、女性回答者は39.2%で、男性回答者よりも女性回答者のほうが高くなっています。

「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した割合は、男性回答者が38.9%であるのに対して、女性回答者は15.7%で、男性回答者と女性回答者のポイント差が顕著になっています。



【年齢別】

各年齢層において、誰（どこ）にも相談しなかった理由は多岐に及んでいます。

「相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合は、20歳代（60.0%）、30歳代（57.1%）で他の年齢層よりも高くなっています。

「自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができと思ったから」と回答した割合は、60歳代で66.7%と最も高くなっています。

「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合は、40歳代で59.1%と最も高くなっています。

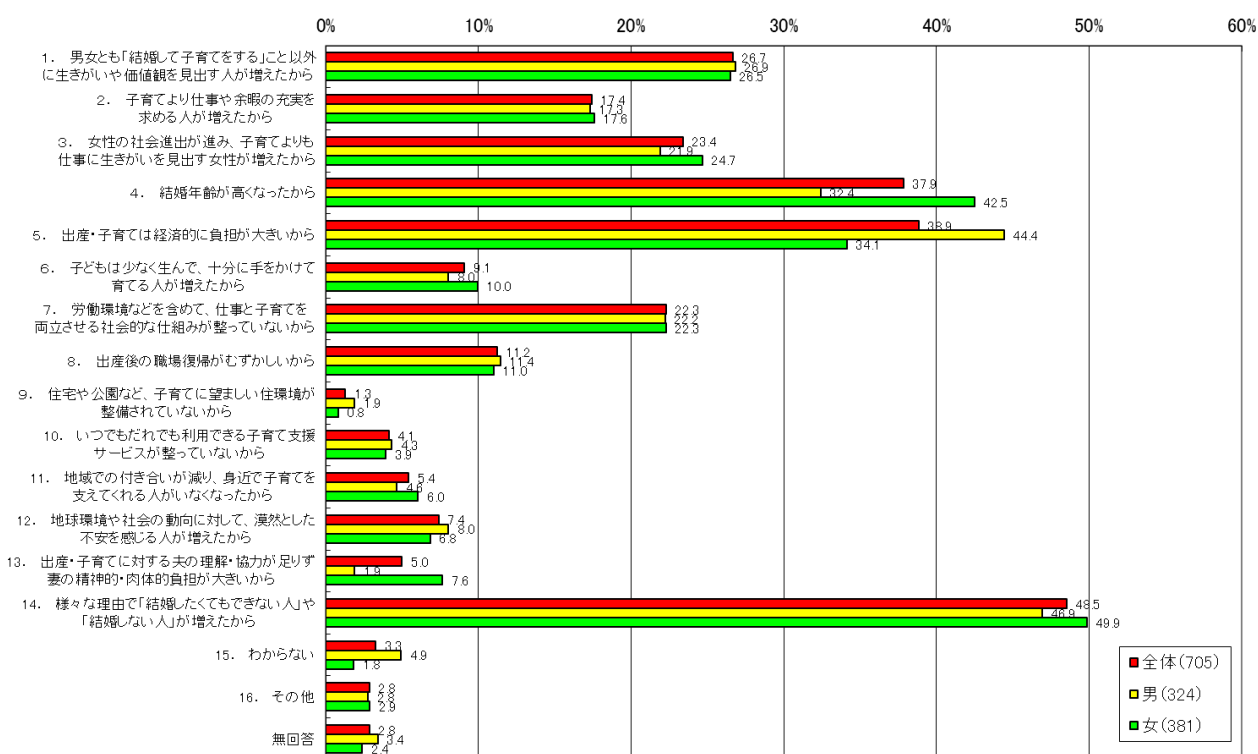
6 少子化対策について

6-1 出生率が低くなった原因

問21 出生率が低くなった主な原因として何が考えられると思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

「様々な理由で「結婚したくてもできない人」や「結婚しない人」が増えたから」と回答した割合が48.5%と最も高く、次いで「出産・子育ては経済的に負担が大きいから」と回答した割合が38.9%、「結婚年齢が高くなったから」と回答した割合が37.9%となっています。

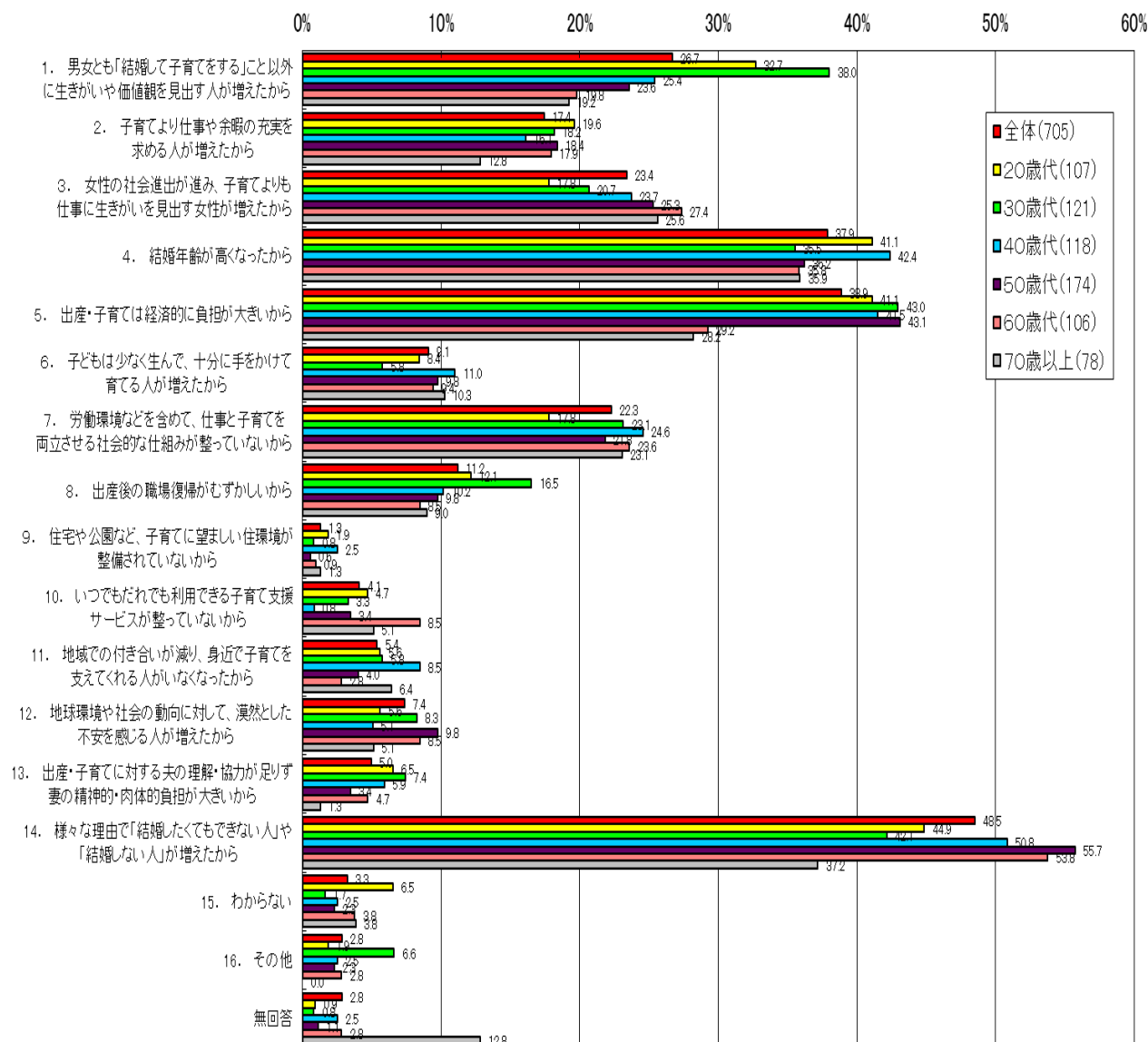


【性別】

「様々な理由で「結婚したくてもできない人」や「結婚しない人」が増えたから」と回答した人の割合（男性46.9%、女性49.9%）が男女とも最も高くなっています。

「結婚年齢が高くなったから」と回答した人の割合は、男性回答者が32.4%と3割強であるのに対して、女性回答者が42.5%と4割を超えており、男性回答者よりも女性回答者のほうが高くなっています。

「出産・子育ては経済的に負担が大きいから」と回答した人の割合は、男性回答者が44.4%と4割を超えているのに対して、女性回答者は34.1%で、男性回答者が女性回答者を上回っています。



【年齢別】

「様々な理由で「結婚したくてもできない人」や「結婚しない人」が増えたから」と回答した人の割合は、50歳代で55.7%と最も高く、次いで60歳代で53.8%となっています。

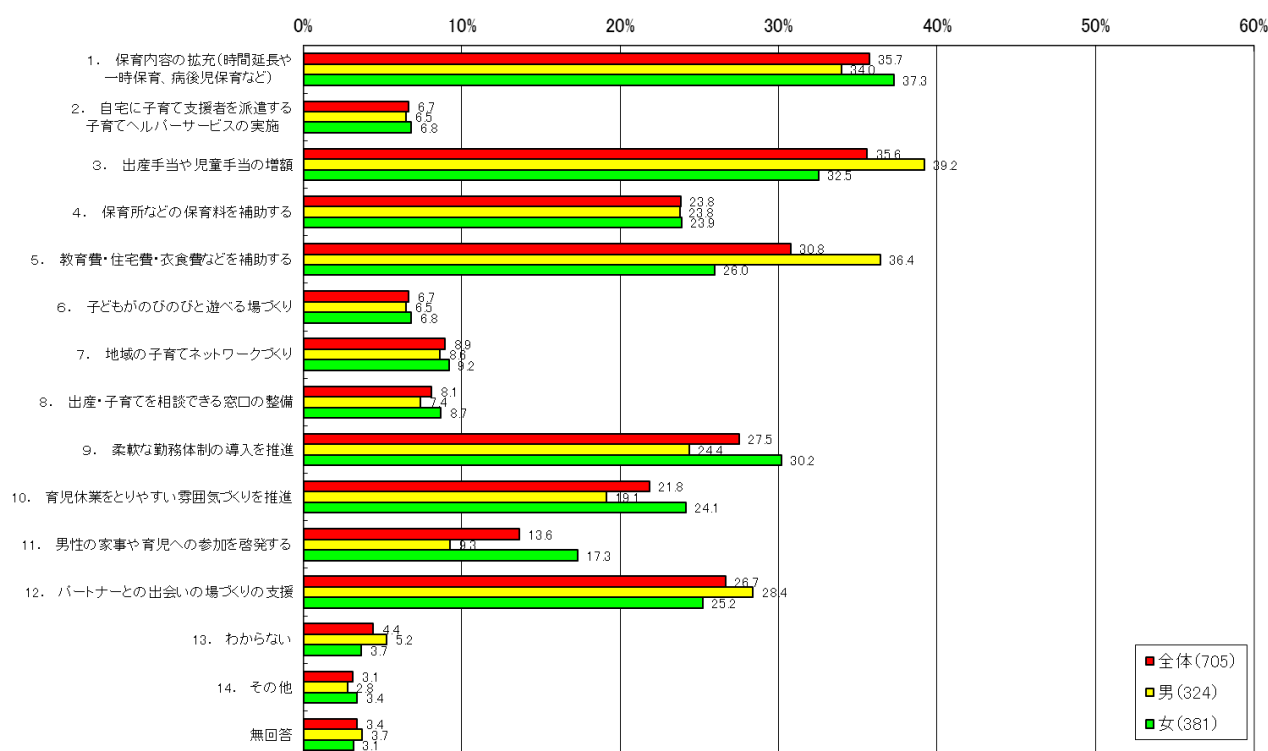
「男女とも「結婚して子育てをする」こと以外に生きがいや価値観を見出す人が増えたから」と回答した人の割合は、30歳代で38.0%と最も高く、次いで20歳代で32.7%となっており、若い年齢層で高くなっています。

6-2 出生率を上げるための施策

問 22 出生率を上げるために行政が推進すべき施策として何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

「保育内容の拡充（時間延長や一時保育、病後児保育など）」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「出産手当や児童手当の増額」の割合が 35.6%、「教育費・住宅費・衣食費などを補助する」の割合が 30.8%となっています。

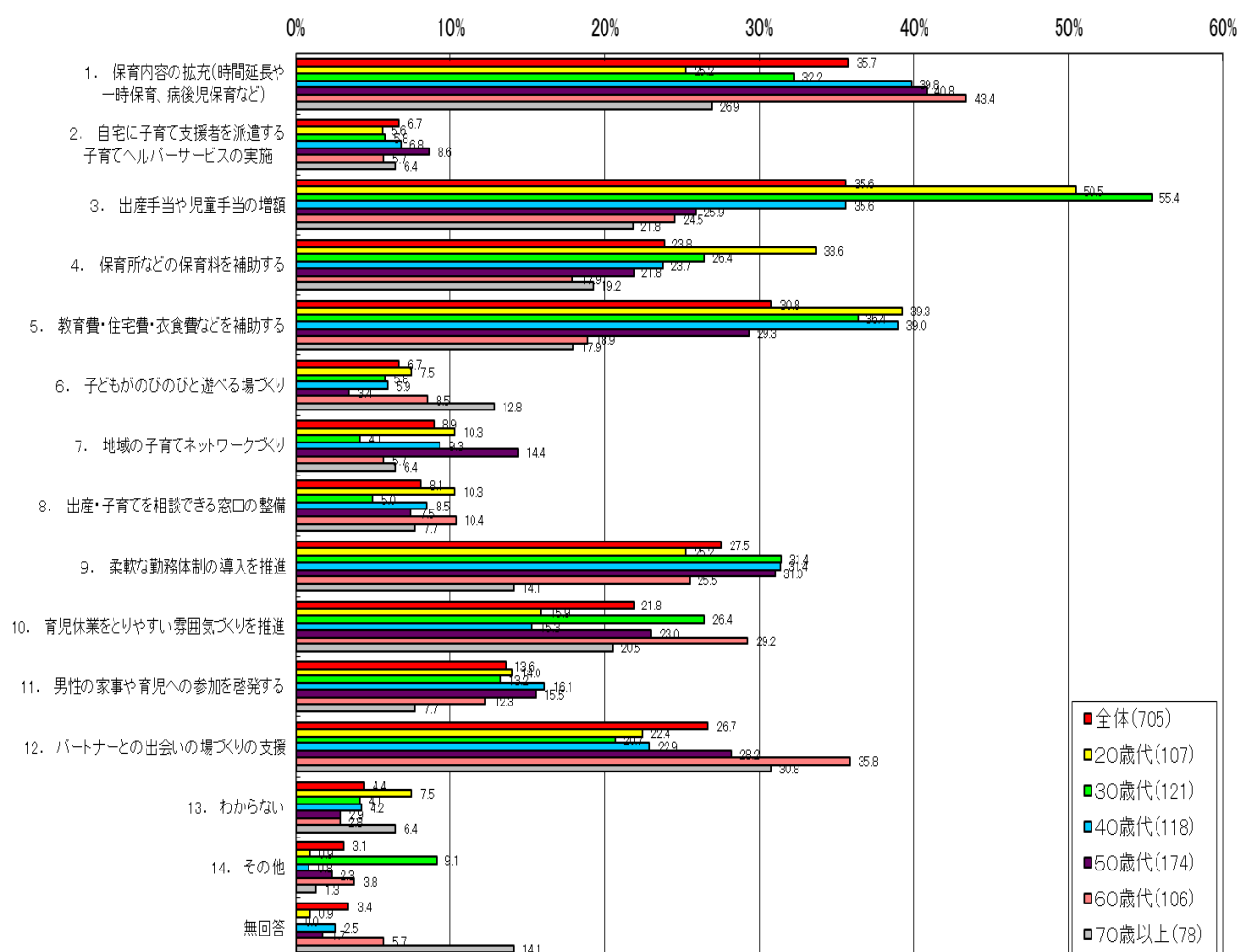


【性別】

男性回答者は、「出産手当や児童手当の増額」の割合が 39.2%と最も高くなっています。

女性回答者は、「保育内容の拡充（時間延長や一時保育、病後児保育など）」の割合が 37.3%と最も高くなっています。

「出産手当や児童手当の増額」、「教育費・住宅費・衣食費などを補助する」などの経済的な支援が重要だと回答した割合は、女性回答者よりも男性回答者のほうが高いのに対し、「保育内容の拡充（時間延長や一時保育、病後児保育など）」「柔軟な勤務体制の導入を推進」「育児休業をとりやすい雰囲気づくりを推進」「男性の家事や育児への参加を啓発する」などの女性が働きやすい環境整備が重要だと回答した割合は、男性回答者よりも女性回答者のほうが高くなっています。



【年齢別】

「出産手当や児童手当の増額」の割合は、30歳代で55.4%と最も高く、次いで20歳代で50.5%となっています。

「教育費・住宅費・衣食費などを補助する」の割合は、20歳代で39.3%と最も高く、次いで40歳代で39.0%、30歳代で35.4%の順で割合が高くなっています。

したがって、若い年齢層では、「出産手当や児童手当の増額」や「教育費・住宅費・衣食費などを補助する」などの経済的な支援が重要と考えていることが推察されます。

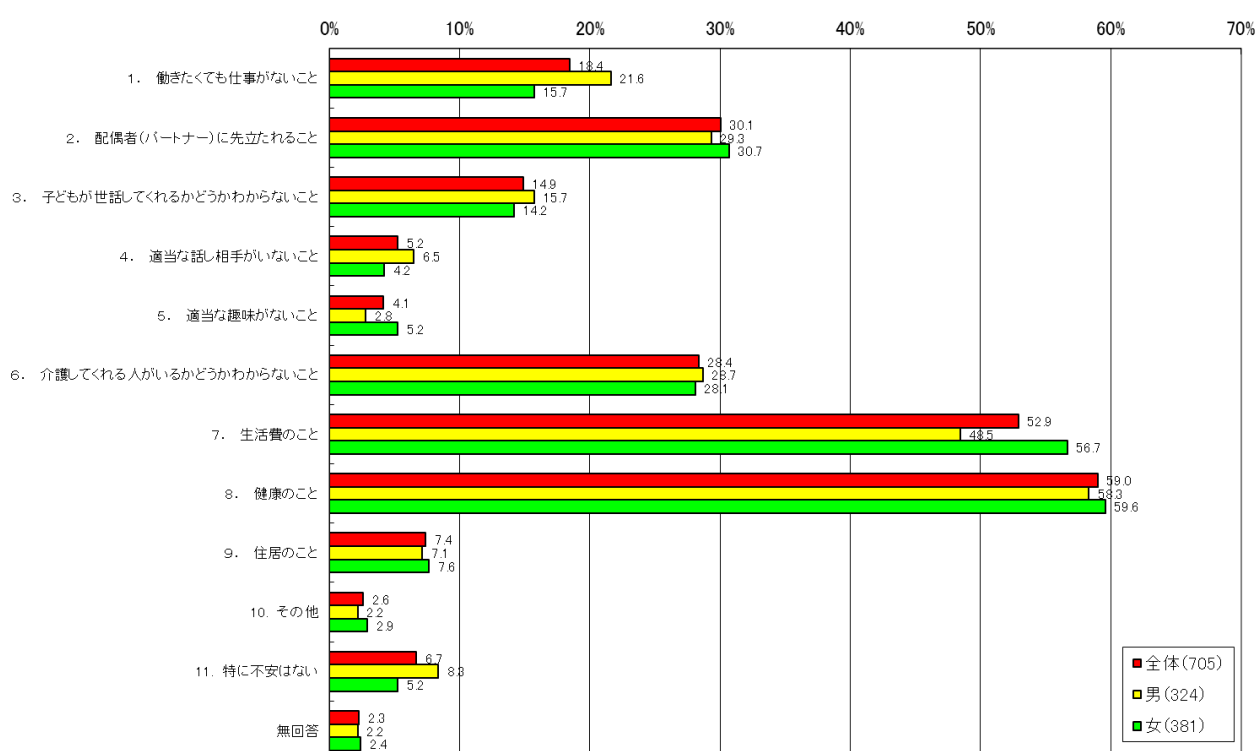
7 高齢者介護について

7-1 老後の不安

問23 あなたはご自分の老後について、不安に思うことは何ですか。(〇は3つまで)

【全体】

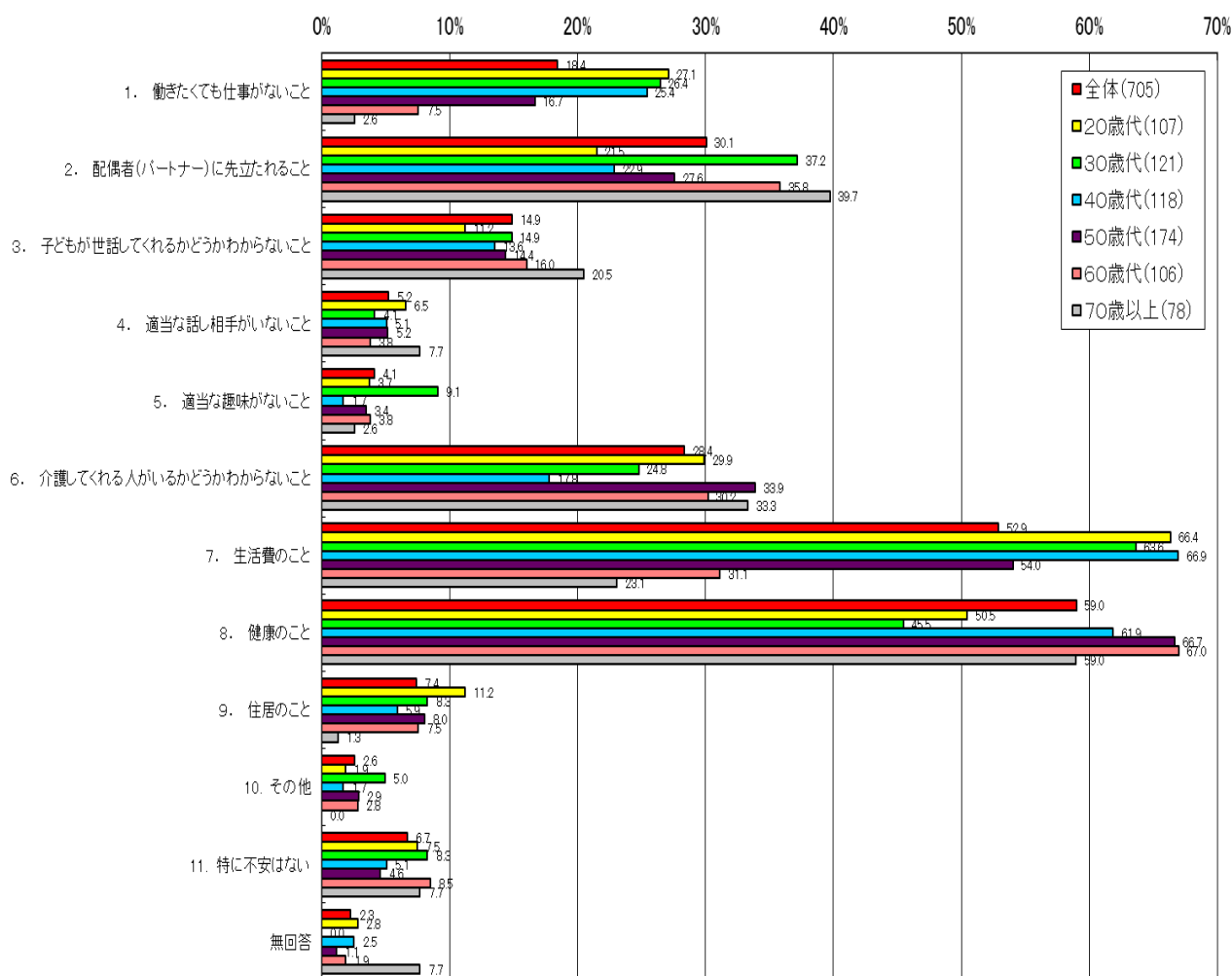
「健康のこと」の割合が59.0%と最も多く、次いで「生活費のこと」の割合が52.9%となっています。



【性別】

男女とも「健康のこと」と回答した割合（男性58.3%、女性59.6%）が最も高く約6割を占めています。

「生活費のこと」と回答した割合は、男性回答者が48.5%であるのに対して、女性回答者が56.7%で、女性回答者が男性回答者を8.2ポイント上回っています。



【年齢別】

「健康のこと」と回答した人の割合は、60歳代で67.0%と最も高く、次いで50歳代で66.7%となっており、高い年齢層で高くなっています。

「生活費のこと」と回答した人の割合は、40歳代で66.9%と最も高く、次いで20歳代で66.4%、30歳代で63.6%の順で多くなっており、若い年齢層で高くなっています。

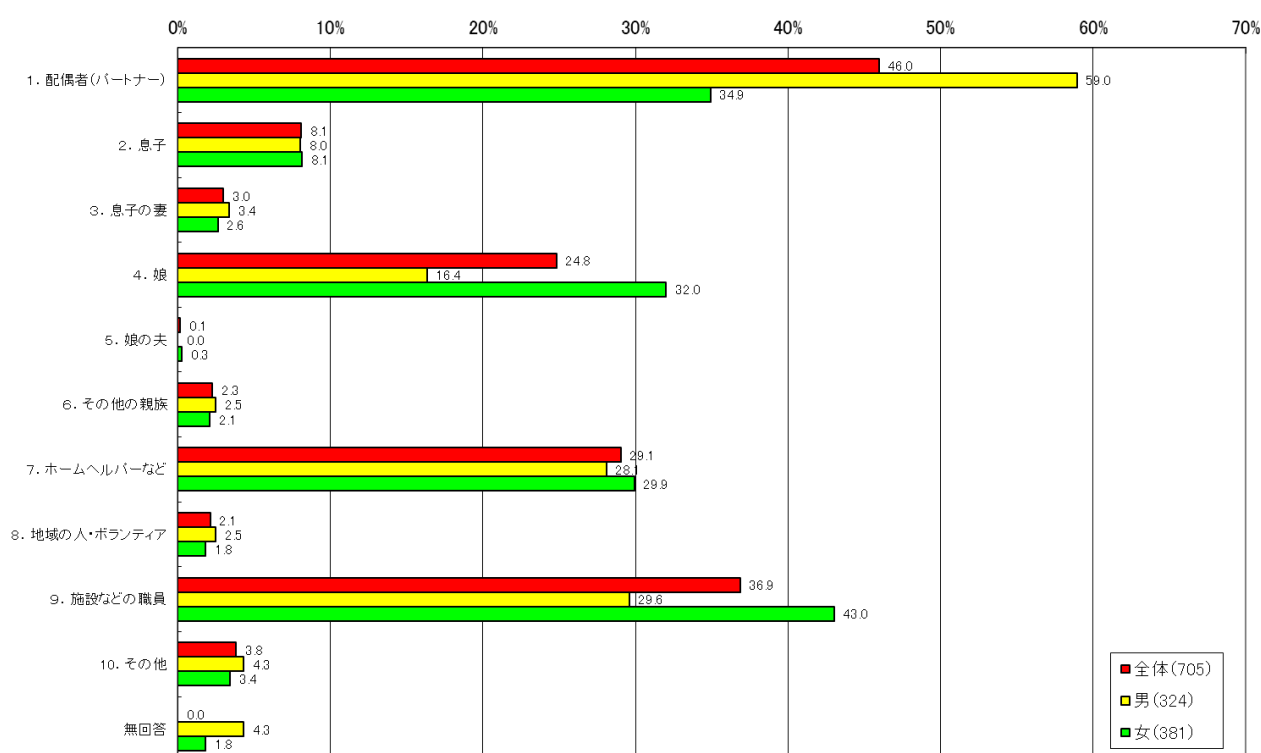
7-2 介護をする人

問24 将来もし、あなたが寝たきりなどになったら、誰に介護してほしいですか。(〇は2つまで)

【全体】

「配偶者（パートナー）」と回答した割合が46.0%と5割弱を占め最も高く、次いで「施設などの職員」と回答した割合が36.9%と高くなっています。

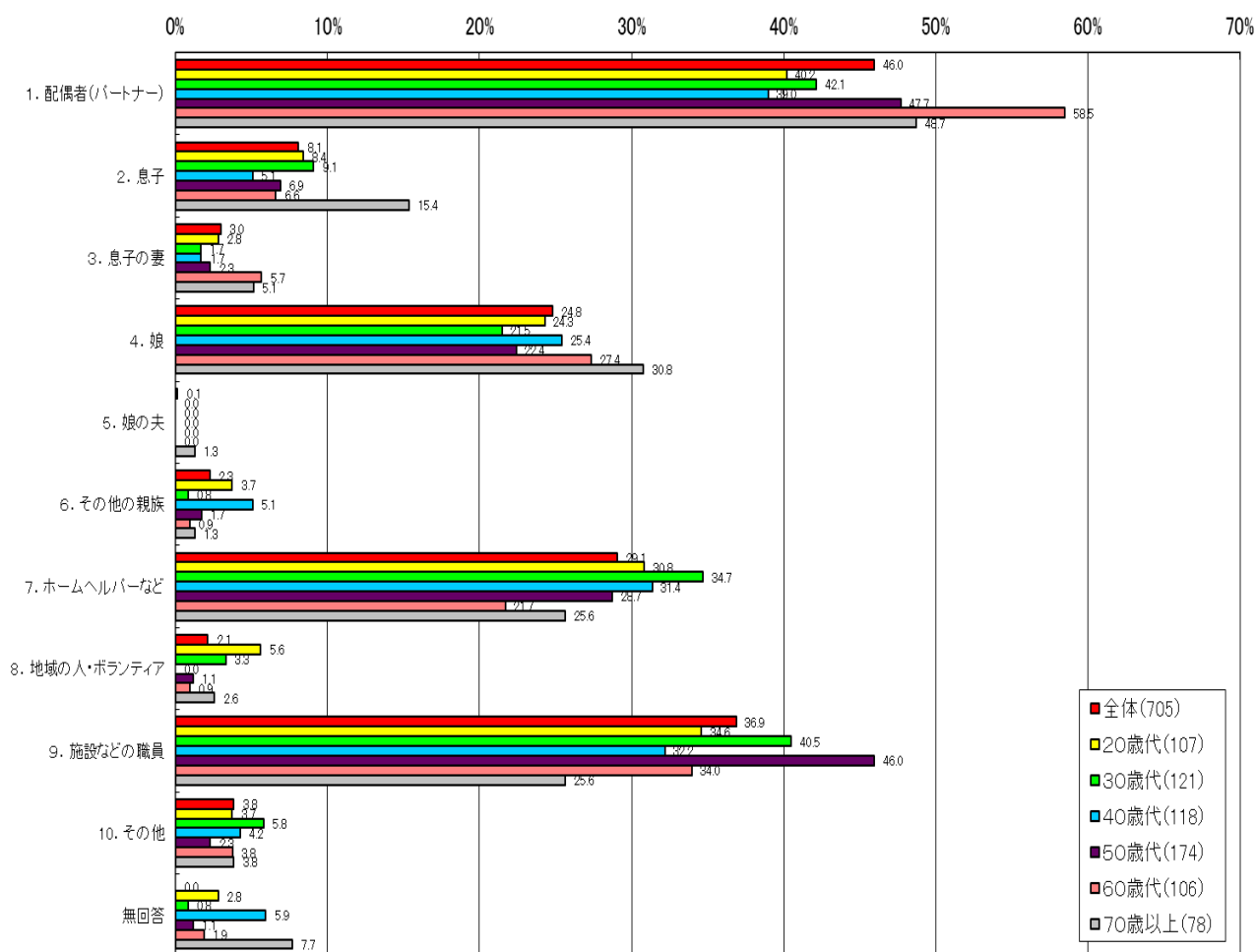
「息子」(8.1%)と「娘」(24.8%)では息子よりも娘のほうが割合が高くなっており、女性に介護を期待する人が多いことが推察されます。



【性別】

「配偶者（パートナー）」と回答した割合は、男性回答者が59.0%であるのに対して、女性回答者が34.9%となっており、男性回答者と女性回答のポイント差が顕著になっています。

「施設などの職員」と回答した割合は、男性回答者が29.6%であるのに対して、女性回答者が43.0%で、男性回答者よりも女性回答者のほうが高くなっています。



【年齢別】

「配偶者（パートナー）」と回答した割合は、60歳代で58.5%と最も高く、次いで70歳以上で48.7%、50歳代で47.7%となっています。

「ホームヘルパーなど」と回答した割合は、30歳代で34.7%と最も高く、次いで40歳代で31.4%、20歳代で30.8%の順で高くなっており、若い年齢層で高くなっています。

「施設などの職員」と回答した割合は、50歳代で46.0%と最も高く、次いで30歳代で40.5%となっています。

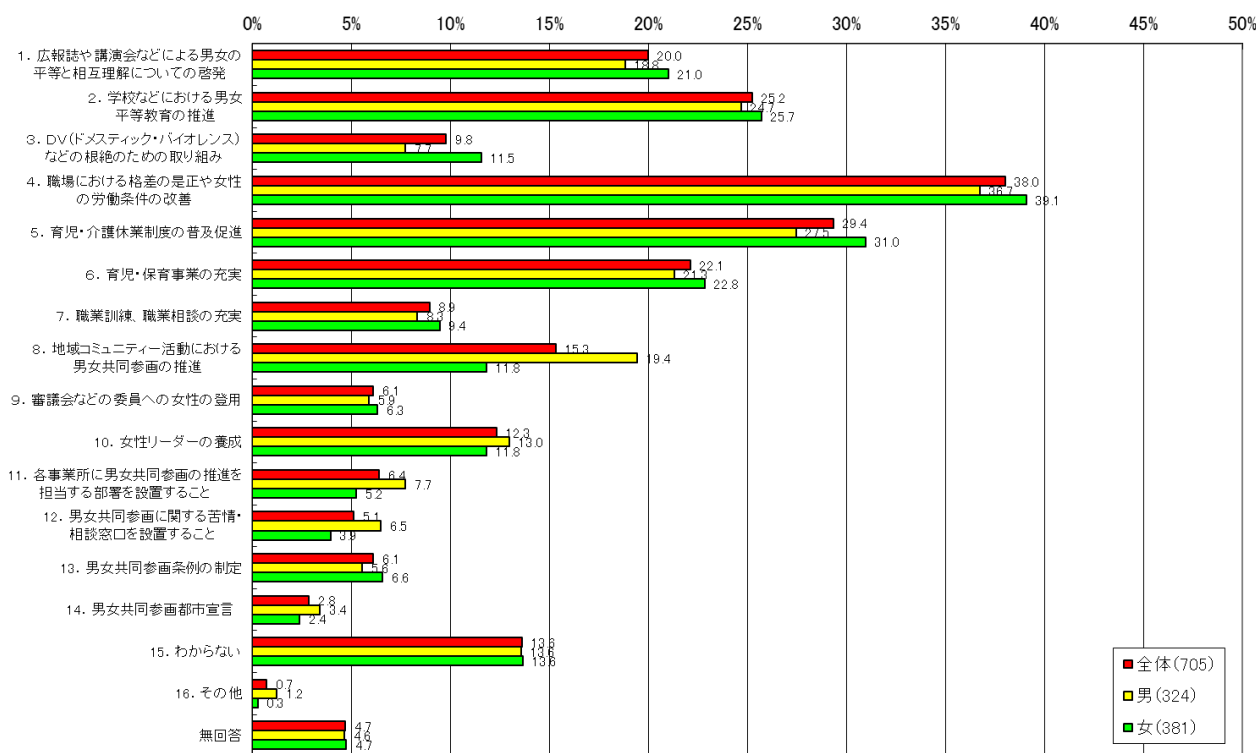
8 男女共同参画の推進について

8-1 男女共同参画社会の実現に向けた必要な取り組み

問25 男女共同参画社会の実現に向けて、どのような取り組みが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

【全体】

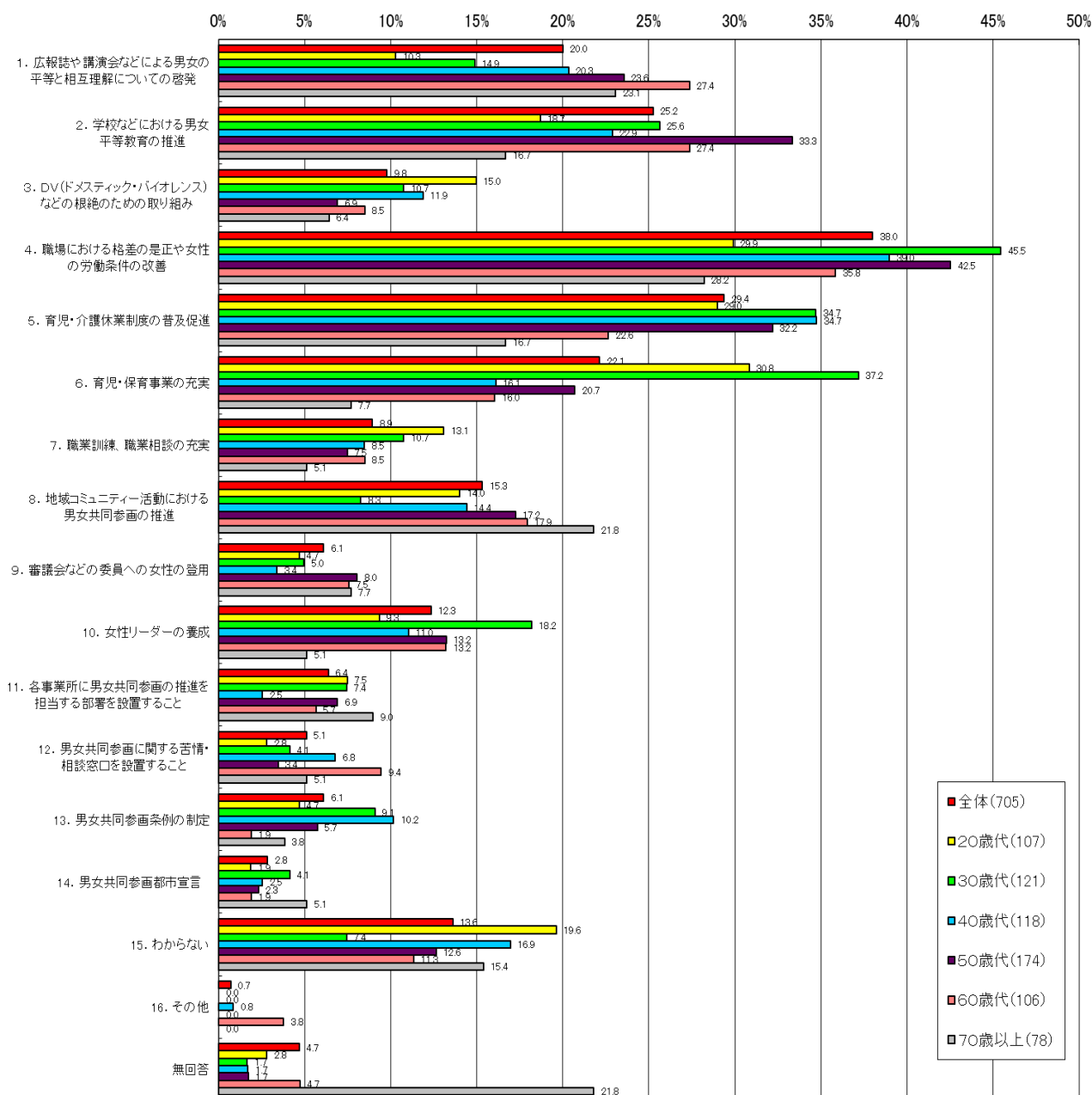
「職場における格差の是正や女性の労働条件の改善」の割合が38.0%と約4割を占め最も高く、次いで「育児・介護休業制度の普及促進」の割合が29.4%、「学校などにおける男女平等教育の推進」の割合が25.2%の順で多くなっています。



【性別】

「地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進」と回答した割合は、男性回答者が19.4%であるのに対して、女性回答者が11.8%と、男性回答者と女性回答者のポイント差が大きくなっています。

「DV(ドメスティック・バイオレンス)などの根絶のための取り組み」(男性7.7%、女性11.5%)、「育児・介護休業制度の普及促進」(男性27.5%、女性31.0%)と回答した割合は、男性回答者より女性回答者のほうが高くなっています。



【年齢別】

「職場における格差の是正や女性の労働条件の改善」と回答した割合は、30歳代で45.5%と最も高く、次いで50歳代で42.5%となっています。

「育児・保育事業の充実」と回答した割合は、30歳代で37.2%と最も高く、次いで20歳代で30.8%と、若い年齢層で高くなっています。

IV 「その他」の意見

Ⅳ 「その他」の意見

(回答者の属性) 職業

- 歯科助手 (女性・30 歳代)
- 教職 (幼稚園) (女性・20 歳代)
- 土木作業員 (男性・50 歳代)
- 施設職員 (女性・30 歳代)
- 会社役員 (男性・70 歳以上)
- 会社役員 (男性・50 歳代)
- 介護職員 (女性・40 歳代)
- 農業、会社員、公務員・団体職員、自営業 (男性・30 歳代)
- 調理師 (女性・50 歳代)
- 土木作業員 (男性・30 歳代)
- 植木 (男性・70 歳以上)

(回答者の属性) 家族構成

- 親と子と知人 (女性・40 歳代)
- 母と 2 人 (女性・30 歳代)
- 四世代家族 (男性・20 歳代)

- 親と子ども夫婦と孫とひ孫の四世代 (女性・60 歳代)
- 親と子どもと孫 (女性・40 歳代)
- 夫婦と未婚の子ども (男性・60 歳代)
- 親と兄弟 (男性・40 歳代)
- 両親と夫婦と子供 2 人 (男性・40 歳代)
- 夫婦と子ども 1 人 (男性・70 歳以上)
- 夫婦 子供 孫 (男性・60 歳代)
- 親 (母) 2 人 (女性・40 歳代)
- 祖父母と孫 (女性・20 歳代)
- 母子家庭 (女性・30 歳代)
- 妹と同居 (女性・60 歳代)
- 祖父母と親と子 (女性・20 歳代)
- 親と子どもと孫 (女性・60 歳代)
- 夫婦と孫 (女性・50 歳代)
- 親と姉、夫婦、未婚の子ども (男性・60 歳代)
- 寮 (男性・20 歳代)
- 親と未婚の子どもと孫 (女性・20 歳代)
- 家族 (女性・20 歳代)

- 親と子ども夫婦と姉と子 (女性・30 歳代)
- 祖母、父、本人 (男性・30 歳代)
- 親と子 (男性・50 歳代)
- 弟と2人暮らし (男性・50 歳代)
- 私と未婚の子供 (女性・30 歳代)
- 同居人と2人 (女性・40 歳代)
- 祖父・父・母・妻・子 (男性・30 歳代)
- 夫婦と親1人 (女性・50 歳代)
- 親と未婚の子供と妹 (男性・50 歳代)
- 祖父母、親 (男性・20 歳代)
- 親と子 (女性・50 歳代)
- 祖母、夫婦 (女性・60 歳代)
- 親と夫婦 (女性・50 歳代)
- 親と2人 (男性・30 歳代)
- 親と子どもと義妹 (女性・30 歳代)
- 兄弟2人 (男性・40 歳代)
- 四世代家族 (女性・30 歳代)

(問 1-1) 社会全体の中で男性のほうが優遇されていると思われる原因

- 作業資格が無い（国家試験） (男性・40 歳代)
- 女性の半分ぐらいが他人まかせ。男性だからやってと言う。 (男性・50 歳代)
- いろんな事柄に対して平等に対する意識がうすい。 (男性・40 歳代)
- できることが男性より少ないから。 (女性・20 歳代)

(問6) 女性の仕事や結婚についての理想像

- 男女共に育児休を2年とする法化 (男性・60 歳代)
- 本人が望む形になる。 (男性・30 歳代)
- 理想像はありません。 (男性・50 歳代)
- 年令的に回答は出来ません。 (女性・70 歳以上)
- 夫と共に全てに於いて行動したい。 (女性・50 歳代)
- 家族構成に応じて一番良い方法を話し合い決める。 (男性・60 歳代)
- その人の考え方にもよると思う。 (女性・60 歳代)
- 産休育休後職場復帰できる環境 (女性・60 歳代)
- 苦勞する理想像に思う。 (男性・30 歳代)
- その時に応じて自由に選択できる（まわりの環境でやりたいようにできないことが一番よくないと思います） (女性・50 歳代)
- 自営業なので考えた事はありません。 (女性・60 歳代)

- 女性の意見を尊重したい。 (男性・30 歳代)
- 出産を機に仕事を休職し家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く。 (女性・40 歳代)

(問7) 女性が仕事をもち続けるうえでの障害

- 金銭問題。家に入りたいとも思うが金銭に余裕がなくなる。 (女性・20 歳代)
- 会社経営者 (男性・50 歳代)
- 男性の法律制度 (男性・30 歳代)
- 出産後、3 歳ぐらいまでは子供を自分で見ていたい (育てたい) 為 (女性・40 歳代)
- 保育園に預けても、子どもが病気などで長期休むとクビになる。理解がない。 (女性・30 歳代)
- 子の病気や障害、見てくれるサービスの情報提供、体制の充実 (女性・30 歳代)
- 田舎の人間特有の偏見 (男性・20 歳代)
- 女性にとって (私) 家庭を基本におきたい時、働ける時間帯、曜日は限られる。子供が多ければ急な休みもある。そういった環境では替えのきく工場などしか働く場が限られてしまう事。 (女性・30 歳代)
- 給与の違い (女性・20 歳代)
- 障害となっていると決めつけていない。障害となっているのですか？ (男性・30 歳代)

(問8) 女性が働きやすい環境をつくるためには

- 子供が病気になった時に仕事を休みやすい環境 (女性・30 歳代)

- 補助金や助成金など (男性・30 歳代)
- 職場に保育施設などがあると、安心して仕事が出来ると復帰しやすい。
(女性・40 歳代)
- 男性の家庭生活への参加促進を阻むのが男性側の会社の理解と諸制度の遅れ。
(女性・60 歳代)
- 女性が働きやすい環境は、同時に男性も働きやすい環境であり、大事な所。誰かが優遇される事によって、誰かに負担がかかるのではなく、それぞれのポジションを選抜して働く事が出来たら良いと思う。1 番大切なのは家庭のあり方を夫婦で確認し合い協力し合う事と思う。
(女性・50 歳代)
- 女性だけを別もしくは限定していること自体が環境づくりのさまたげになっていると思う。制度自体は既に十分であると思う。
(男性・20 歳代)
- 家事・育児・介護などは参加するものではなく、男性もあたりまえのこととしてやるべきだと思う。
(女性・30 歳代)
- 家庭を大事にしたい女性の働く場の創出。(責任を持たない、意欲がないという事ではない。)
(女性・30 歳代)
- 男女間の意識のすりあわせ＝教育？
(女性・50 歳代)
- 男性だけではなく、子どもを社会全体で育てる意識。身近な人たちの協力、ネットワークの確立
(男性・20 歳代)
- 職場の理解
(男性・30 歳代)

(問9) 管理職になりたいか

- なんともいえない。
(男性・30 歳代)
- 女性も一生、仕事にオンリーなの
(男性・50 歳代)

- パートの為管理職にはなれません。 (女性・50 歳代)
- 農業 (女性・60 歳代)
- 農業なので無関係 (女性・50 歳代)
- 自営なので考えられない。 (女性・50 歳代)
- 職業が農業 (男性・70 歳以上)
- 今役員です。 (男性・70 歳以上)
- パート職なので。 (女性・50 歳代)
- 自営で店主なので。 (女性・60 歳代)

(問 10) 有給休暇や育児休業などを取りやすいか

- 制度があれば本人の考え方次第 (男性・60 歳代)
- 介護休暇は制度はあるが、取っている人はいない。年休を利用している。 (女性・50 歳代)

(問 11) 育児休業を取りたいか

- 仮に自分が若く、今の職場であれば必ず取ると思う。 (女性・50 歳代)

(問 12) 働いていない理由

- 高年令であるため働けない (女性・70 歳以上)
- 家庭での仕事が多い (女性・40 歳代)

- 大学生 (男性・20 歳代)
- 家事の間に家業を手伝っているから。 (女性・40 歳代)
- 子供の体調で休みをとったりと休みがちになる為。 (女性・30 歳代)
- 老人 (女性・70 歳以上)
- 年令 (男性・70 歳以上)
- 子供夫婦が働いて孫の面倒を見ている。 (女性・60 歳代)
- 子供に障害があって一緒に療育施設に通っていて、働きたくて面接に行っても落とされてしまう。 (女性・40 歳代)
- 高齢者だから。 (女性・70 歳以上)
- 夫と共に働いています。 (女性・50 歳代)
- 年令が高すぎるので働く場所がない。 (女性・60 歳代)
- 学生 (女性・20 歳代)
- 学生だから (男性・20 歳代)
- 学生 (男性・20 歳代)
- 学生だから (男性・20 歳代)
- 学生の為 (男性・20 歳代)
- 学生のため (男性・20 歳代)
- 歳月もすぎて気力向上しないと決めたから。 (男性・30 歳代)
- 農業ですので働きには出ません。 (女性・60 歳代)

- より学びたいことがあり、大学進学をしているから。(女性・20 歳代)
- 自営業で仕事がない。(男性・70 歳以上)
- 子供がまだ小さいから。(女性・20 歳代)
- 子供が小さいから。(女性・20 歳代)
- 出産を機に退職となり子育て中なので。(女性・40 歳代)
- 仕事での収入の安定(男性・30 歳代)
- 学生だから(女性・20 歳代)
- 学生のため。アルバイトはしています。(女性・20 歳代)

(問 13-1) 現在参加している地域活動

- 商業団体(男性・50 歳代)
- お子安講(女性・30 歳代)
- 消防団(男性・20 歳代)
- 青年会(男性・40 歳代)
- 部落 はやし連(男性・50 歳代)
- おこやすこう(女性・30 歳代)
- ボランティア(女性・60 歳代)

(問 13-2) 今後参加したい地域活動

- 部落の行事 (女性・40 歳代)
- 特にない (男性・30 歳代)
- 国際交流、シルバー人材センター (男性・70 歳以上)
- 祭り (女性・20 歳代)
- 農業関係 (男性・60 歳代)
- 参加する時間がない (女性・20 歳代)
- 参加していない (女性・20 歳代)
- 病気 (女性・20 歳代)
- 参加したくない (女性・20 歳代)
- 婚活 (男性・30 歳代)
- 商工会婦人部 (女性・60 歳代)
- 神社、寺 (男性・60 歳代)

(問 14) 男性の参加を促進するためには

- 上記全てを充実させる事 (男性・60 歳代)
- 日本の生活レベルは高すぎる。お金がかかりすぎる社会を改善すべき。
(男性・20 歳代)
- 本人の意欲増進 (女性・30 歳代)
- ムリだと思う。 (女性・30 歳代)

- 自覚だと思う。 (男性・50 歳代)
- 個人の考え方次第なので、強要はできない。 (女性・60 歳代)
- より充実した制度化とその啓発 (女性・60 歳代)
- 個人の気持ち (女性・40 歳代)
- 今の労働環境でフルに働いている男性に対して、家や地域活動に参加するべきなどと言うのは無理があるのでは？ (男性・40 歳代)
- 男性の意識の問題もあると思う。 (女性・30 歳代)
- 義務教育から教育する。 (女性・50 歳代)
- 子供の頃から「することが当たり前」ということを教えこむ。 (女性・50 歳代)
- やはり家族内での個々の意識ではないかと思います。 (女性・50 歳代)
- 男性の意識改革 (女性・30 歳代)
- 子供の時から男性も家事などした方がいいと育てていけば、将来、やるようになるのでは・・・ (女性・40 歳代)
- 学校教育の中でも啓発教育をしていくこと。 (女性・40 歳代)
- 行政が推進してもダメでは？結局本人達次第。 (男性・30 歳代)
- 職場の理解、給料の見直し (男性・30 歳代)
- 男性の年代によっても異なるし、本人にやる気が無い限り 1～6 の選択肢は無駄。また、介護については、女性より独身男性が親の介護をする場合、よりつらい立場にある気がします。 (女性・50 歳代)

(問 15) 女性のリーダーが少ない原因

- P T Aなどでは学校側から会長と言われる場合がある。 (女性・40 歳代)
- 面倒だから。 (男性・30 歳代)
- ほとんどの人が人まかせだから。 (男性・50 歳代)
- 仕事をしているとできない。 (男性・30 歳代)
- 仕事の時間が多く活動に参加できない。 (女性・60 歳代)
- 仕事をしていたら家事、育児、仕事に忙しくて無理です。男性は、仕事のみに関わり、比較的リーダーになれる条件がそろっている。 (女性・50 歳代)
- そうとも思えない。 (女性・60 歳代)
- 女性のリーダーが少ない事に何の問題があるのでしょうか？ (男性・40 歳代)
- 仕事がいそがしい為。 (女性・40 歳代)
- 西暦・時代背景から見て時期尚早で無鉄砲でもあるから。 (男性・30 歳代)
- 5～7の選択肢がとても失礼…これが差別の始まり。 (女性・30 歳代)
- 地域・学校が望むから。 (女性・40 歳代)
- 比較的自由のきく自営業の男性の方が多い、という流れが変わらない。 (女性・50 歳代)
- 酒の席等で「男連中の下衆な話に付き合いきれない」と思っているのでは。 (男性・20 歳代)
- 組織、社会がリーダーに女性を求めるから。女性は家事を放りだす事が出来ないから。 (女性・30 歳代)

- 平等に見る目がない。口うるさい。 (男性・40 歳代)
- 責任を負うため。 (女性・20 歳代)
- 最近は P T A など女性の方が多いと思います。 (女性・40 歳代)
- 昔からの日本の風習 (男性・30 歳代)
- C B、T P O、P C C (男性・30 歳代)
- 孤立している 1 人ひとりが (女性・50 歳代)
- 女性の方が多いと感じます。 (女性・20 歳代)
- 職場においても女性は男性の 2 倍働いて初めて一人前に見られる気風がある様に。例えば、独居老婦人はちょっと軽く見られたりする。 (女性・50 歳代)

(問 16) 男女ともに「仕事と仕事以外の生活の調和」をはかり、充実した生活を送るために必要なこと

- 質問者はなにが重要と思いますか？ (男性・60 歳代)
- 生活（金銭）に余裕がないから。 (男性・70 歳以上)
- 給料アップ (男性・60 歳代)
- 1、4 と回答しましたが、実質的には不可能ではないかと思う。 (男性・40 歳代)
- 元気で経済的苦悩のない充実した生活 (男性・30 歳代)
- 景気の回復と若年層の収入の上昇 (男性・40 歳代)
- そもそも結婚相手を探す場がない。 (男性・20 歳代)
- 今の社会は差別がある。 (男性・40 歳代)

- その人によって異なると思う。 (女性・50 歳代)

(問 17) 指導的地位に占める女性の割合が増えたほうがよいと思うか

- 能力があれば誰でも良い (男性・20 歳代)
- 割合の問題ではなく能力の問題 (男性・20 歳代)

(問 17-1) 女性の割合がもっと増えるほうがよいと思う職業

- どれということはない。現在の社会慣行上、能力があっても女性はその職（役）につけない状況を少しでも改善し、能力、意欲があれば女性でも登用、任用されるようになっていけば良い。 (男性・60 歳代)
- どの職場でもふさわしければ。但し、男女の性的違いはあると思う。 (女性・50 歳代)
- 性別に関係なく能力のある人 (女性・50 歳代)
- 今を変える全ての職業に必要 (女性・30 歳代)
- 土木作業・電気工事 (男性・30 歳代)

(問 18) 女性の参画が増えることによって、社会がどう変化と思うか

- 変化は会社で個人には変化なし (男性・30 歳代)
- 見方が変わる (女性・30 歳代)
- 能力のある人が首相をやる確率が高くなる (男性・40 歳代)
- 女性優先の社会になっていく (男性・30 歳代)
- 日本が変わるのでは。 (男性・30 歳代)

- これまで気づかなかった政策がない。 (男性・20 歳代)
- 細やかな気配りができても、ダイナミックな政策を大所高所から引っ張って行ける女性は少ないと思う。 (女性・50 歳代)

(問 20-3) 配偶者や恋人などからの暴力を誰（どこ）にも相談しなかった理由

- そういう性格だからなおらないと思った。 (女性・40 歳代)
- 言えなかった。自分の内にとじこもった。 (女性・40 歳代)

(問 21) 出生率が低下した原因

- 子どもが欲しくても出来ない夫婦が増えたから。近年非常に目につくようになった。 (男性・50 歳代)
- 単身や核家族化が進みすぎたから。 (男性・40 歳代)
- 不妊症が増えているから。 (女性・30 歳代)
- 核家族化に依り子育ての支えがないから。 (女性・60 歳代)
- 不妊女性が増えている（子どもがほしくてもできないなど） (女性・30 歳代)
- 「様々な理由で」・・・その中には経済的理由も含まれる。若い人が安定した職につける割合が減っている。 (男性・60 歳代)
- 子供がほしくても出来ない人も増えたからだと思う。 (女性・40 歳代)
- 家庭内の労働力として子供を必要としなくなったから。 (男性・20 歳代)
- 男女とも出会いの場が少なくなった。町でそういう場をもっとふやしてほしい！ (女性・50 歳代)

- 福祉というと高齢者にばかり目が向いて子育て世代への支援が少ない。若者への支援が少ない。年寄りを優遇しすぎ！！仕事で生活していける収入のない若者が多く、結婚、出産、子育てまで考える余裕のないケースが多いように思う。 (女性・50 歳代)
- 20代～30代の人々の低賃金化。欧米に比べて少子化対策への無策化。 (男性・60 歳代)
- 核家族化で、子育ての協力者がいないから。 (女性・40 歳代)
- 不妊治療費が高額だから。 (女性・30 歳代)
- 情勢とか時代の流れかも。 (男性・30 歳代)
- 不妊症の人が増えた（男女共に） (男性・30 歳代)
- 生活のゆとりが少なくなっています。 (女性・30 歳代)
- 時代の変化、結婚して未来を考えるほどの収入がない。 (男性・30 歳代)
- 家庭をもつという意識がない（特に男）とったかみたかでその日暮らし。 (男性・60 歳代)
- 雇用条件が不安定なので、金銭面で不安のあるまま結婚するのはできない。 (女性・30 歳代)
- 先進的になる程、後進国より出生率は低くなるもの。昔の様に、第一次産業を家業として生きて行くなら子供こそ労働力なので必要となるが、現在は第三次産業が多く、自分だけが食べる給料しかもらえず、結婚も無理という人も多いのでは。 (女性・50 歳代)

(問22) 出生率を上げるために行政が推進すべき施策

- 子どもができない・できにくい人たちへの様々な支援 (女性・30 歳代)
- 人材育成の強化、義務教育の自立へ向けての内容を充実させる。 (女性・30 歳代)

- 不妊に悩んでいる人が多いため、不妊治療助成を増やすべき。 (女性・30 歳代)
- 不妊治療費の補助 (女性・30 歳代)
- 若者が安定収入を得られる職（仕事）の受け皿の拡充。 (男性・60 歳代)
- 行政が出生率に口出し不要→人口に見合った行政をすればいいの。 (男性・70 歳以上)
- 不妊治療費の保険適用 (女性・30 歳代)
- 不妊や不育、産みたくても産めない人がいる事の理解と補助 (女性・30 歳代)
- 学校卒業後おちついて働ける場の確保。十分な収入の保障。 (男性・60 歳代)
- 不妊治療などの支援、（給付金）援助、職場の理解等 (男性・50 歳代)
- 不妊治療の助成金をもっと増やす (女性・30 歳代)
- 労働時間の制限（法整備）、罰則（長時間労働） (男性・40 歳代)
- 子供の必要性がわからないと何をしてもだめだと思う。目先のことしか考えられない親が多い。 (女性・30 歳代)
- 不妊症が 30 年位の間に激増している事について、社会的にもっと関心を持ち、皆で自分の問題として考え、対策を講じるべきだと思います。 (女性・50 歳代)
- 平等で希望のもてる地域であること (女性・50 歳代)
- 3.5.のように補助したり、増額したりすると親が社会へのあまえが出てくると思う。 (女性・60 歳代)
- 収入のアップ (男性・30 歳代)
- 若年層の賃金アップ (女性・20 歳代)
- 行政がどうこうして変わるものでもない。 (女性・50 歳代)

(問23) 自分の老後について、不安に思うこと

- 現在もらっている年金の額が少なくなる事 (女性・60 歳代)
- 一人で家事をこなさなくてはならないかと思う事 (女性・40 歳代)
- 子供に負担をかけてしまうのではないかと不安になります。 (女性・30 歳代)
- 年金 (男性・40 歳代)
- 子供達のせいかつをそくばくしたくない。 (女性・60 歳代)
- 年金がもらえるのか？ (女性・20 歳代)
- 老人ホームの料金を安くしてほしい。高くて入れません。 (女性・60 歳代)
- 自分が老いた時介護の環境が充実しているかどうか。 (女性・20 歳代)
- 払った年金をそのまま借りパクされそうな年金制度 (男性・30 歳代)
- 子の障害や病気から子の将来の心配 (女性・30 歳代)
- 年をとり地域の人との継続した接点を持たず、一人孤立すること (女性・50 歳代)
- 子・孫と同居出来ているかどうか。 (男性・30 歳代)
- 一人になってしまうので財産等の管理 (女性・50 歳代)
- 人生に楽しみがあるか (男性・30 歳代)
- 増税ばかりで、国は国民一人一人の生活を保障してくれるのか？すごく不安。
(女性・30 歳代)
- 楽しく生活する地域的な活動がイメージできない。 (男性・50 歳代)
- 年金受給額 (男性・50 歳代)

- 将来の退職金、年金が不安である。(個人年金の備えはあるが) (男性・50 歳代)

(問24) 誰に介護してほしいか

- 家族 (女性・70 歳以上)
- 介護は望まない。殺してもらってもいい。 (女性・60 歳代)
- 一生懸命生きて一人で生活できなくなったら覚悟を決めます。 (男性・30 歳代)
- 配偶者ができたら配偶者に (男性・40 歳代)
- だれでも (男性・30 歳代)
- わからない (男性・60 歳代)
- 自ら命を絶つ (女性・40 歳代)
- 介護する方もされる方も辛い。現実金の面で大変だ。 (女性・50 歳代)
- 寝たきりになるなら誰の世話にもならず、死んだほうが良いです。 (女性・40 歳代)
- 死ぬ (男性・30 歳代)
- 家族 (女性・60 歳代)
- わからない (男性・50 歳代)
- 殺してほしい (女性・20 歳代)
- 寝たきりになった場合お金がかかるので施設に入れるか？子供もあてに」ならない。出来れば年金でまかなえる施設に入れば良いと思います。高齢者が多くなるので不安です。 (女性・60 歳代)
- 寝たきりになったら世話にならずに息をひきとりたい。 (女性・20 歳代)

○ 誰でも (男性・30 歳代)

○ 入所 (女性・50 歳代)

(問 25) 男女共同参画社会の実現に向けてどのような取り組みが必要か

○ 家庭生活における男性の家事への協力の啓発・促進 (男性・60 歳代)

○ 「女のくせに」という男性が多い。女性を深く理解すれば、女性は何でもできるし、強いし、男性はダメ。私もダメ。女性はグレートだ。 (男性・年齢不詳)

○ 女性のがんばり (男性・40 歳代)

○ 自然のなりゆきにまかせる。時がかいけつする。 (男性・60 歳代)

V 自由意見

V 自由意見

問26. 男女共同参画についてご意見がありましたら自由にご記入ください。

- 質問に対し、回答するのが一寸むずかしく、そのままの状態になり、31日に書いています。今まで他県に居て、去年越してきたのでこの町の事はあまりわかりません。

男女がお互いを認め協力して生きていくのは、とても大変です。世代にもよりますけれど、我が家の夫も頑固で古く、どんなに話してもわかりません。学校の教育の中でもっと現実的にいろいろな事を教えたほうが成果があるのではないのでしょうか。回答の返事が過ぎてしまいました。参考にして下さい。

(女性・60歳代)

- 趣味ごとなどに時間をさく割合が増えているが、地元などでコミュニケーションを持てるような機会や場所などは少ないと思う。

そういう集まりも男女の垣根を行き来しやすくしたり、認識を新たにするのに役立つと思うので若い人向の企画などを増やし、広報に努めていただき、集まり易い地域になるといいですね。

(男性・40歳代)

- 老女にこのようなことの問いは無理がある。

(女性・70歳以上)

- 社会ではだんだんと根づいてきていると思う。特に学校などでは男女平等で、よく教育されていると思う。しかし、年配者は頭がかたく、いくら社会が啓発してもなかなか理解が難しいように思う。

(女性・40歳代)

- このアンケートが届いてから、私なりに考えさせられるものがありました。その中の1つは、この男女共同参画が出来るにあたってのキッカケは何だったのか？私が感じるには、女性主体のものに思ってしまったからです。自分が女性だから、というのがありますが、女性の結婚・出産・介護・仕事・子育てという役割が大きすぎる。大きすぎる割に男性の仕事量が少なすぎるからです。何が言いたいかというと、男性はこの企画についてどう思っているのか知りたいです。乱文で申し訳ありませんでした。

(女性・30歳代)

- ただ組織を作っても機能しないものでは役に立たない。現在この様なものが多い様に思います。

(女性・60歳代)

○ 基本的に幼少期・青年期からの教育が必要かと思います。成人からの教育は、正しい事を正しいと言える指導者（先輩など）が自分の身近なところにいれば可能かと思います。
(男性・40 歳代)

○ 出産率を高めるには、不妊治療助成は不可欠です。病院へ行くと不妊で悩んでいる女性が多く、ものすごく混んでいます。妊娠したくても経済的負担が大きく、あきらめる人がとても多いです。事実、病院は、朝 8:00 に行っても終わるのは夜 6 時になるくらい不妊に悩む人が多いのです。産めば、なんとか育てる人がいるのに、産んでからの助成が多いのがとても疑問です。ぜひ検討していただきたいです。
(女性・30 歳代)

○ 力仕事など、危険、きたない、きつい、いわゆる 3 K の職場での、女性の就職は実現が難しいと思う。
(女性・30 歳代)

○ 産後ケア施設（小雪が韓国に行って利用したみたい施設）が充実すると良い。（里帰り出産が難しかったり、里帰りしても親が働いていると出産後のケアが十分でないため。）
(女性・30 歳代)

○ その前に国会をどうにかした方が・・・T P P とかその他いろいろありすぎて不安をおることばかり。
(男性・30 歳代)

○ 子どものいる家計で、負担が増すようでは出生率は改善しないと思われる。
(男性・20 歳代)

○ アファーマティブアクションよりも性別にかかわらず、自由な生き方ができる社会作りをしていく事が大事ではないかと思います。
フレックスタイムの導入などによって仕事にしばられない生き方を送れるようになれば、男女共に不満はなくなっていくと思うし、出生率もあがっていくと思います。
(男性・20 歳代)

○ 子供を産んで育て、人として生まれてきた本当の幸せを女性に自覚してもらうような社会の構築が大切だと思う。
(男性・70 歳以上)

○ 家庭でも職場でも、女性を前面に出し、女性のやさしさ、きめこまかさ、その他を十分発揮できるように男性が協力すればよい。
40 才すぎると男性は、いろんな面で女性にかなわない。
うちは、女房が強いから平和な家庭です。
(男性・年齢不詳)

○ この地域は特に考えが古く新しい事には拒否する傾向が非常に強い。お年寄りの力が強すぎる。女のくせにと常に耳にします。街の発展にも強く影響すると思う。若い人には魅力のない街です。他の地域から転入した人達の意見はまず取り上げてもらえません。井の中のかわずにならない様いろいろな意見をもっと聞く耳をもってほしいと思います。男女共同参画も大事ですが、その前に人の意見を取り入れやすい様な地域づくりをお願いします。
(男性・60 歳代)

○ 私信ですが、この年でようやくアルバイトが見つかり神経的に病んで病院にも通院していますが、親にかける負担が今だに大きく、社会に対してもようやく3年目で年金を支払うことまでできましたが、まだこの町に税金をおさめたことが1回きりしかなく、とても申し訳なく思っ日々生活をしております。

自分自身も若年性更年期のはじまりなのかささいなことで悲しんだりイラ立ちがあります。自分は家政学校を出た身なので、品格のない女性や男性を見ると幻滅してしまいます。働く女性にも品格マナーは必要でしょうか。くだけた話ですが自分はぶっきらぼう性質ですので難しいです。

共同参画自体どんな企画か存じ上げませんが変な文章で失礼しました。参考になることを祈ります。
(女性・30 歳代)

○ 男女共同参画について1人ひとりがもっと積極的に地域コミュニティーセンターなどに行った方が良いと思った。

仕事における男女共同参画を取り組んでほしいです。
(女性・30 歳代)

○ 妊娠、出産、育児と女性にしかできない仕事がありますので、その後の職場復帰をしやすいように改善、推進していったはどうでしょう。その為の職業訓練、職業相談の充実も必要だと思います。今も昔も活躍されている女性はいる訳ですから無理に数の上で平等に役職に付させるのはどうかと思います。
(男性・60 歳代)

○ 女性の意欲や能力が男性に比べて劣っているという考え方や「男は仕事」という社会的風潮から男性が家事や育児、介護に参加しないという事は変えていった方が良くと思います。しかし、女性と男性でできる事とできない事があるのは仕方がない事なので職場や雇用の場で男女を平等にできるのか、する必要があるのか疑問出です。

(女性・20 歳代)

○ このような計画があったことすら知りませんでした。もっと積極的にアピールした方がよいと思います。
(女性・30 歳代)

- 男女共同参画（男女平等）の捉え方になると思いますが——様々な場面で女性にしかできないこと、男性にしかできないことがあります。それは、大切にしなければなりません。その上で、男女が尊重し合い、助け合って生活していける社会の実現を願います。

（女性・50 歳代）

- 男女平等に見てほしいです。能力がある人は、国の為に働ける場所をあたえて下さい。チャンス下さい。

（女性・60 歳代）

- 地域の特徴として、高齢者の間では男性優位の考え方が根強いと感じています。（私は、他県出身です。）性別、世代をふまえた取り組みも必要かと感じました。

（女性・30 歳代）

- 「男女共同参画社会基本法」が 1999 年に制定され、もう 15 年近くたっているのに社会はそれほど変化しているとは思えません。アベノミクスにより女性の社会進出がちょっと、やっと動きつつあるのではないかと思います。

私は現在就職活動中ですが、今後将来子どもが産まれたとしても一生働いていたいと思います。なので企業の福利厚生は重要視しています。社会がますますグローバル化していく中で女性のアイディアは絶対に必要だと思います。スウェーデンやドイツでは日本に比べてはるかに女性の社会進出がされています。TV などでも女性の外国人の方の活躍は度々見られますし。最近芸能人の方のパパなどがよく“イクメン”として紹介されているので、そのような光景から世の中の男性も理解を深めるきっかけになってくれればいいなと思います。もちろん男性のみならず女性や企業も意識を変える必要があると思います。NPO 等でも男性支援は行われていますし、今後この制度に注目していきたいです。

（女性・20 歳代）

- 自然発生的進展が理想であり、制度や法令で押し付けるのはいかがなものか？

（男性・70 歳以上）

- 長いこと女性は家に居るもの！と云う慣習、意識を持たされた社会で、なかなかスッキリと世間を変えるのは難しいと思われます。

こうしてアンケートをとられるのも意識の変革になると思いますが、やはり年配の（特に男性）の方々の気持ちを変える様な活動が必要ではないのでしょうか？家の跡取りどころか、地域の子供も居なくなる気がします。

（女性・50 歳代）

- あえて男女共同参画に熱を入れなくても自然の流れでも良いと思う。女は女、男は男の仕事をするればよいと思う。

（女性・70 歳以上）

- あまり感心がなかった。 (男性・60 歳代)
- 仕事をやめ家庭にいるようになると、このような計画を市で施策していることも全くというほどみえてこないし、感じられないのは私だけではないと思う。
具体的にどのようなことに取り組み、成果があるのか・・・形、言葉だけの施策にならないことを願います。 (女性・60 歳代)
- 今言われている「男女平等」という声は、女性から見て不利な出来事に対して平等じゃないと言っているにすぎない。本当に「男女平等」な世の中を目指しているとは思えない。 (男性・40 歳代)
- 男女共同参画社会の実現とは、どういう形でしょうか。「こういうものだ」というはっきりした形がありましたら教えて下さい。(広報誌)
平成 22 年 2 月策定、施策の展開。全く気が付きませんでした。
男・女お互いを尊重し、支え合い、みんなが幸せに暮らせる社会。とても素晴らしいと思います。 (女性・50 歳代)
- 男女の身体的・精神的差を考えての平等な社会になるよう願います。(男性・20 歳代)
- 男女共同参画の名称がわかりにくい。職場での女性の地位的なものは低いと思う。産休後そのまま退職というのが多い。しかし、それ以外の女性の地位は高いと思う。電車のチカンの冤罪が多いのに車内に防犯カメラが設置されない、男性専用車両が無いのがそれを示していると思う。 (男性・30 歳代)
- まだ農家では女性の立場が低い。家の中では嫁という立場が低いので、思っている事をなかなか口に出す事が出来ない。 (女性・50 歳代)
- だいぶ生活している経国済民。再開された日経平均も 3 ケタと覚える。「匠瑤市男女共同参画計画」とともに制度を作ることを進めてほしい。文章が作られなくて結局男女別に制度を置く懸念となるから。 (男性・30 歳代)
- 今は女性もよく働いている。 (男性・60 歳代)
- 前に出てくる女性がキツすぎて相談や下に就きたくない。男女平等になっても結局できない事も増えてくると思う。だからと言って、女性を卑下するのだけは嫌だ。 (女性・20 歳代)

○ 「男女平等」と影響力のある人間が発言する度に男女の格差は広がっていく。平等の定義が明確に定まっていない現代では本人達の「気の持ちよう」「心の持ちよう」である。全ての女性が「男女平等の世の中になった」と言えるような世の中が実現した時不平等で見苦しい世の中が生まれる。
(男性・20 歳代)

○ 単純な男女平等論ではなく、男性には男性の得意とする分野、役割があり、女性には女性の役割、得意分野があるので、同じ社会活動にしても、「単純に平等」とするのは、また、ちがうと思う。

男女の特性を活かした分野ごとに活動できる場づくりが本当の課題だと思います。

(女性・30 歳代)

○ 20 代、30 代、40 代は会社勤めをしていて、リーダーシップをとってきましたがどうしても女性ということで家事、仕事、育児に追われ、思い切って仕事が出来ずジレンマを感じていました。女性という事もあって時間がなかったように思います。男性は残業して遅く帰っても当たり前。女性は帰って家事をする。そうしないと家庭がうまく行かずギクシャクしてしまう。今となれば、家庭、地域の理解（世間体も気にする）保育の充実が必要だと思います。昔からの考え方がぬけきれず、今にいたっていると思います。

(女性・60 歳代)

○ 公務員は基本的には平等であるが、一般の企業は賃金や昇進の面で男性と女性では大きな差があるところが多い。男女差ではなく仕事の実力で管理職の方は評価してほしい。

(女性・50 歳代)

○ 私 76 才の老人です。もっと年の下の人の方が良かったと思います。ごめんなさい。

(女性・70 歳以上)

○ 気持ちにゆとりがあり、格差のない生活が送れる事が大切だと思います。又年代を問わず住民が自由に集まれる場所があるといいと思います。

(女性・50 歳代)

○ 男女共同参画→日本はまだ世界的には、男女間格差の改善が進んでいない現状とされます。よくむずかしい事はわかりませんが、先進国日本なのに、この問題を含めて全において考え方が遅れているといった事でしょう。

(女性・50 歳代)

○ 「男女共同参画」自体知りませんでした。設問の中で3つまでとあるところですが、正直、それ以上の項目も要因としてからんでいると思います。

女性は、仕事、育児、家事にと追われている中で「平等」「不平等」と思いながらも、不

安と感じながらも、声を上げられず、何か行動といってもそんな余裕もなく、日々を過ごすのがいっぱい、いっぱい・・・という状況なのではないでしょうか？平等といっても「女性」だからこそ「男性」だからこそその家庭、社会での役割はあると思うので、どうであれ、根本的な経済的補助などにより不安が少しでもなくなればよいのではないのでしょうか？

(女性・40 歳代)

○ がんばって下さい！！

(男性・30 歳代)

○ 女性が子供を持って働くと言うのは、保育がどんなに充実しようがたいへんです。両親の近くに住むか、同居して子供を見てもらうのが一番いいと思います。特に、男性の親ではなく、女性の親に見てもらうのが一番いいのでは。

(女性・60 歳代)

○ 深く理解できない。

(女性・50 歳代)

○ 「匝瑳市男女共同参画」について、今回、この調査票を見るまで、全く知りませんでした。私たち市民が何をどうすればいいかはわかりませんが、基本理念の「みんなが幸せに暮らせる社会」の実現が一日も早くむかえられるといいなと思います。

(女性・40 歳代)

○ 子育てにお金がかかる社会。次の世代を育てにくい社会。人がいなければ社会は成り立ちません。色々な人と協力し合って生きていける社会になってほしいです。

(男性・20 歳代)

○ 私が感じているところでは、地区自治会の長にこれまで女性が就いたことがないところも多い、ということです。検討したこともないようです。男性中心の社会だなあと強く思います。だから、地区自治会の運営内容に女性の目線からの意見は反映されないことになります。女性の方も夫など男性まかせで自分には直接関係ないと思ってしまうのでは。そうはいっても、女性から「長」になりたいというわけにもいかず・・・旧態依然です。

(女性・50 歳代)

○ ・匝瑳は子育て支援が少なすぎる。

・この質問の項目も3つでは少ない項目が多々あり、こういうところがまだ考慮が足りないと思った。

・あまり女性に優しいとは思えず、まだまだ男性寄りだなと思う。

・上記を考えるともっと見直しが必要だと思う。

(女性・20 歳代)

○ 今回のアンケートで初めて施策を知りました。市民のどれだけが認知しているかわかりませんが、いい取組みだと思います。充実した内容になることを願います。

(男性・40 歳代)

○ 女性が男性と同じように仕事ができるよう（家事と仕事の両立ができるよう）職場の仕事内容、時間を緩和。家事、育児、仕事を両立するのが難しい。男性は家事、育児がなく仕事に専念している。

(女性・40 歳代)

○ 子育てはもうすぐ終わります。

(男性・50 歳代)

VI 調査票

匝瑳市男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

本市では、「男性も女性もお互いを尊重し、支え合い、みんなが幸せに暮らせる社会をめざす」ことを基本理念とする「匝瑳市男女共同参画計画」を平成22年2月に策定し、施策を展開してまいりました。

計画の見直しにあたり、市民の皆様のご意見をうかがい、市が今後取り組むべき施策に反映させるため、意識調査を実施することといたしました。

調査の対象として、市民の皆様の中から満20歳以上の方2,000人を無作為に選びましたところ、あなた様に調査をお願いすることとなりました。つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、記入内容につきましては、無記名でお願いし、調査結果は統計的に処理します。個人の名前が公表されることはありませんので、お考えのままをご記入ください。

平成26年1月

匝 瑳 市

＜ご記入にあたってのお願い＞

- あて名のご本人がお答えください。
- 質問ごとにあてはまる回答の番号を○で囲んでください。
- ○をつける数は、質問ごとに指定していますので、その範囲でご記入ください。
- 回答が「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、質問の注意書きをご確認ください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

1月31日（金）までにご返送ください。

＜問い合わせ先＞

〒289-2198 匝瑳市八日市場ハ793番地2 匝瑳市役所企画課企画調整班
（電話）0479-73-0081 （FAX）0479-72-1114
（Eメール）k-kikaku@city.sosa.lg.jp

あなたご自身のことについて

F 1 あなたの性別（○は1つ）

1. 男性

2. 女性

F 2 あなたの年齢（○は1つ）

1. 20 歳～29 歳

4. 50 歳～59 歳

2. 30 歳～39 歳

5. 60 歳～69 歳

3. 40 歳～49 歳

6. 70 歳以上

F 3 あなたの主な職業は次のうちどれですか。（○は1つ）

1. 農 業

5. 会社員

9. パート・アルバイトなど

2. 漁 業

6. 公務員・団体職員

10. 無 職

3. 商工業

7. 専業主婦・主夫

11. その他（ ）

4. 自営業

8. 学 生

F 4 あなたの家族構成は、次のうちどれにあてはまりますか。（○は1つ）

1. ひとり暮らし

4. 親と子ども夫婦（二世世代家族）

2. 夫婦のみ（一世世代家族）

5. 親と子ども夫婦と孫（三世世代家族）

3. 親と未婚の子ども（核家族）

6. その他（ ）

男女平等に関する意識について

問 1. 今の生活や社会の状況をどのように思っていますか。（○はそれぞれ1つずつ）

	男性の 遇が優 れている	どちら かとい うが優 れている	男女 平等で ある	どちら かとい うが優 れている	女性の 遇が優 れている	わ か ら な い
1. 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
2. 地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
3. 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
4. 職場では	1	2	3	4	5	6
5. 政治の場では	1	2	3	4	5	6
6. 法律や制度上では	1	2	3	4	5	6
7. 社会通念・慣習では	1	2	3	4	5	6
8. 社会全体では	1	2	3	4	5	6

問1-1. 問1の「8. 社会全体では」の項目で、「1」または「2」と回答した方のみお答えください。社会全体の中で、男性のほうが優遇されていると思う原因は何だと思えますか。(〇は3つまで)

1. 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い
2. 「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い
3. 男女の平等について男性の問題意識がうすい
4. 男女の平等について女性の問題意識がうすい
5. 男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい
6. 女性が能力を発揮できる環境や機会が十分ではない
7. 能力を発揮している女性を正当に評価する仕組みが十分ではない
8. 育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどが整備されていない
9. 女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がある
10. その他 ()

問2. あなたは、次の言葉を知っていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	よく知っている	少し知っている	聞いたことがある	知らない
1. 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
2. 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
3. 女子差別撤廃条約	1	2	3	4
4. ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3	4
5. セクハラ(セクシャル・ハラスメント)	1	2	3	4
6. DV(ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3	4
7. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3	4
8. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3	4

男女の役割分担について

問3. 次に掲げる考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそうわない	そう思わない	どちらともいえない
1. 男は仕事、女は家庭	1	2	3	4	5
2. 性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい	1	2	3	4	5
3. 性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である。	1	2	3	4	5

問4. あなたは結婚されていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|----------|
| 1. 未婚 | 3. 離別・死別 |
| 2. 既婚（入籍せずパートナーと暮らしている方を含む） | |

問4-1. 問4で「2」と回答した方のみお答えください。あなたの家庭では、次の項目について、どなたの役割になっていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
1. 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
2. 食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
3. 掃除	1	2	3	4	5	6
4. 洗濯	1	2	3	4	5	6
5. ごみ出し	1	2	3	4	5	6
6. 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5	6
7. 地域行事などへの参加	1	2	3	4	5	6
8. 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
9. 家族の介護	1	2	3	4	5	6
10. 子どもの勉強やしつけ	1	2	3	4	5	6
11. 学校行事への参加	1	2	3	4	5	6

問5. あなたが平日、次のことに使う時間はどれくらいですか。____に時間をご記入ください。

1. 家事の時間	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分
2. 育児の時間	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分
3. 介護の時間	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分
4. 仕事の時間（通勤時間を含む）	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分
5. 趣味の時間	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分

仕事について

問6. あなたがお考えになる「女性の仕事や結婚についての理想像」は、次のどれに最も近いですか。(○は1つ)

1. 結婚をせずに、仕事を続ける
2. 結婚はするが、出産はせず、仕事を続ける
3. 結婚をし、出産をし、仕事も続ける
4. 結婚を機に仕事をやめて家庭に入る
5. 出産を機に仕事をやめて家庭に入る
6. 結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く
7. 出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く
8. 仕事には就かずに家庭に入る
9. わからない
10. その他()

問7. 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているものは何だと思いますか。(○は3つまで)

1. 女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと
2. 長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと
3. 職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと
4. 保育施設や保育制度が不十分なこと
5. 家族の理解が得られないこと
6. 子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされること
7. 仕事と家事の両立がむずかしいこと
8. 特にない
9. その他()

問8. 雇用の場への女性の進出が進む中で、女性が働きやすい環境をつくるため、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 再雇用制度の促進
2. 保育施設や保育サービスの充実
3. 産後休暇明け・育児休業明けの保育体制の充実
4. 育児休業制度の定着促進
5. 介護、看護との両立を支援する制度の整備
6. 昇進、昇給や仕事の分担など労働の場での男女平等の促進
7. 男性の家庭生活(家事・育児・介護など)への参加促進
8. 家事の省力化、外部化などによる家事負担の軽減
9. その他()
10. わからない

問 9. 現在、働いている方のみお答えください。あなたは機会があれば管理職になりたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. なりたい | 5. すでに管理職である |
| 2. どちらかといえばなりたい | 6. どちらでもよい |
| 3. どちらかといえばなりたくない | 7. その他 () |
| 4. なりたくない | |

問 10. 現在、働いている方のみお答えください。あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない
1. 有給休暇	1	2	3	4	5	6	7
2. 育児休業	1	2	3	4	5	6	7
3. 介護休業	1	2	3	4	5	6	7

問 11. 現在、働いている方で職場に育児休業制度がある方のみお答えください。あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 取りたい | 4. 取りたくない |
| 2. どちらかといえば取りたい | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかといえば取りたくない | 6. わからない |

問 12. 現在、働いていない方のみお答えください。あなたが働いていない理由は何ですか。(○は1つ)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 家事との両立が困難だから |
| 2. 子育てとの両立が困難だから |
| 3. 介護との両立が困難だから |
| 4. 希望する勤務条件(時間、場所、給与など)の仕事がなかったから |
| 5. 求職しているが仕事が見つからないから |
| 6. 経済的に働く必要がないから |
| 7. 年齢面の制約のため |
| 8. 健康面の理由から |
| 9. 配偶者(パートナー)など家族が望まないから |
| 10. 定年退職したから |
| 11. その他 () |
| 12. 特に理由はない |

社会への参画について

問 13. 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」「今後参加したいもの」についてそれぞれ選んでください。(あてはまるものすべてに○)

(13-1)現在参加している地域活動	(13-2)今後参加したい地域活動
1. スポーツ・サークル活動 2. 奉仕活動、福祉活動 3. 文化、教養、学習活動 4. 自治会 5. 婦人会 6. 老人クラブ 7. 子ども会活動 8. 消費者活動、住民運動 9. PTA活動 10. 政治活動 11. その他()	1. スポーツ・サークル活動 2. 奉仕活動、福祉活動 3. 文化、教養、学習活動 4. 自治会 5. 婦人会 6. 老人クラブ 7. 子ども会活動 8. 消費者活動、住民運動 9. PTA活動 10. 政治活動 11. その他()

問 14. これまで男性は、比較的家庭生活(家事・育児・介護など)や地域活動への参加が少なかったと言われていますが、男性の参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 男性の家庭生活や地域活動への参加を促進するための啓発活動を行う
2. 地域活動に関する情報提供を積極的に行う
3. 労働時間を短くして余暇を増やす
4. 仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する
5. 企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する
6. 男性の家事・育児・介護などに関する技能を高めるような講座を開催する
7. わからない
8. その他()

問 15. 自治会やPTAなどの活動で、女性のリーダーが少ないようですが、その原因は何だと思いますか。(○は2つまで)

1. 責任ある地位につきたくないから
2. 家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから
3. 組織活動の経験が少ないから
4. 指導力のある女性が少ないから
5. 女性がリーダーでは女性がついてこないから
6. 女性がリーダーでは男性がついてこないから
7. 女性がリーダーでは軽く見られるから
8. 男性がリーダーとなるのが社会慣行だから
9. わからない
10. その他()

問 16. あなたは、男女ともに「仕事と仕事以外の生活の調和」をはかり、充実した生活を送るために、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 育児・介護休暇制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備
2. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する
3. 在宅勤務、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入
4. 残業時間を減らすなど、年間労働時間の短縮
5. 保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実
6. 管理職の意識や男性中心の職場運営の見直し
7. ホームヘルパーや介護施設の充実
8. パートタイマーなど非正規職員の労働条件の改善
9. 職務上必要な教育や訓練などの機会、内容の充実
10. 男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること
11. わからない
12. その他 ()

問 17. あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えたほうがよいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. よいと思う | 4. よいと思わない |
| 2. どちらかといえばよいと思う | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかといえばよいと思わない | 6. わからない |

問 17-1. 問 17 で「1」または「2」と回答した方のみお答えください。次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 国会議員 | 8. 学校の校長・教頭 |
| 2. 県議会議員、市町村議会議員 | 9. 企業の管理職 |
| 3. 県知事、市町村長 | 10. 起業家・経営者 |
| 4. 国家公務員・地方公務員の管理職 | 11. 農協・漁協の役員 |
| 5. 裁判官、検察官、弁護士 | 12. 自治会長 |
| 6. 医師 | 13. その他 () |
| 7. 大学・研究機関などの研究者 | 14. わからない |

問 18. 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどう変化すると思いますか。(○は1つ)

1. 政治が身近になる
2. 男性中心の考え方に変化が生じる
3. 男女共同参画社会に向けて施策が推進される
4. 行政に対する要望がきめ細くなる
5. 何も変わらないと思う
6. わからない
7. その他 ()

ドメスティック・バイオレンス（DV）について

*ドメスティック・バイオレンス（DV）とは、夫、妻、恋人といった親密な関係にあるパートナーからの暴力のことをいいます。

問 19. あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について身近で見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 身近な人から相談を受けたことがある
2. テレビや新聞などで問題になっていることを知っている
3. 「ドメスティック・バイオレンス（DV）」という言葉を見聞きしたことがある
4. 見聞きしたことはない

問 20. あなたは、次のような行為をパートナーから受けたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 何をやっても、何を言っても無視された
2. 大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりした
3. ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた
4. 交友関係や電話を細かく監視された
5. 平手で打たれたり、蹴られたり、かまれたり、げんこつで殴られた
6. 生活費を渡されないことがあった
7. 望まない性行為を強要された

問 20-1. 問 20 で○が1つ以上あった方のみお答えください。問 20 で挙げたような行為について誰か（どこか）に相談しましたか。（○は1つ）

1. 相談した
2. 相談しなかった

問 20-2. 問 20-1 で「1」と回答した方のみお答えください。実際に誰（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 1. 家族 | 7. 警察 |
| 2. 親せき | 8. 裁判所 |
| 3. 友人・知人 | 9. 弁護士 |
| 4. 市役所 | 10. 医師・カウンセラー |
| 5. 千葉県女性サポートセンター | 11. その他（ ） |
| 6. 健康福祉センター（保健所） | |

問 20-3. 問 20-1 で「2」と回答した方のみお答えください。誰（どこ）にも相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 子どもに危害が及ぶと思ったから
5. 相談したことがわかると、もっとひどいことをされると思ったから
6. 相談窓口で不快な思いをすと思ったから
7. 自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人に心配をかけたくなかったから
10. 大げさにしたくなかったから
11. 自分にも悪いところがあると思ったから
12. 相談するほどのことではないと思ったから
13. その他（ ）

少子化対策について

問 21. 出生率が低くなった主な原因として何が考えられると思いますか。
(○は3つまで)

1. 男女とも「結婚して子育てをする」とこと以外に生きがいや価値観を見出す人が増えたから
2. 子育てより仕事や余暇の充実を求める人が増えたから
3. 女性の社会進出が進み、子育てよりも仕事に生きがいを見出す女性が増えたから
4. 結婚年齢が高くなったから
5. 出産・子育ては経済的に負担が大きいから
6. 子どもは少なく生んで、十分に手をかけて育てる人が増えたから
7. 労働環境などを含めて、仕事と子育てを両立させる社会的な仕組みが整っていないから
8. 出産後の職場復帰がむずかしいから
9. 住宅や公園など、子育てに望ましい住環境が整備されていないから
10. いつでもだれでも利用できる子育て支援サービスが整っていないから
11. 地域での付き合いが減り、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから
12. 地球環境や社会の動向に対して、漠然とした不安を感じる人が増えたから
13. 出産・子育てに対する夫の理解・協力が足りず妻の精神的・肉体的負担が大きいから
14. 様々な理由で「結婚したくてもできない人」や「結婚しない人」が増えたから
15. わからない
16. その他()

問 22. 出生率を上げるために行政が推進すべき施策として何が重要だと思いますか。
(○は3つまで)

1. 保育内容の拡充(時間延長や一時保育、病後児保育など)
2. 自宅に子育て支援者を派遣する子育てヘルパーサービスの実施
3. 出産手当や児童手当の増額
4. 保育所などの保育料を補助する
5. 教育費・住宅費・衣食費などを補助する
6. 子どもがのびのびと遊べる場づくり
7. 地域の子育てネットワークづくり
8. 出産・子育てを相談できる窓口の整備
9. 柔軟な勤務体制の導入を推進
10. 育児休業をとりやすい雰囲気づくりを推進
11. 男性の家事や育児への参加を啓発する
12. パートナーとの出会いの場づくりの支援
13. わからない
14. その他()

高齢者介護について

問 23. あなたはご自分の老後について、不安に思うことは何ですか。(○は3つまで)

1. 働きたくても仕事がないこと
2. 配偶者(パートナー)に先立たれること
3. 子どもが世話してくれるかどうかわからないこと
4. 適当な話し相手がいらないこと
5. 適当な趣味がないこと
6. 介護してくれる人がいるかどうかわからないこと
7. 生活費のこと
8. 健康のこと
9. 住居のこと
10. その他()
11. 特に不安はない

問 24. 将来もし、あなたが寝たきりなどになったら、誰に介護してほしいですか。(○は2つまで)

- | | | |
|---------------|----------------|------------|
| 1. 配偶者(パートナー) | 5. 娘の夫 | 9. 施設などの職員 |
| 2. 息子 | 6. その他の親族 | 10. その他 |
| 3. 息子の妻 | 7. ホームヘルパーなど | () |
| 4. 娘 | 8. 地域の人・ボランティア | |

男女共同参画の推進について

問 25. 男女共同参画社会の実現に向けて、どのような取り組みが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

1. 広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発
2. 学校などにおける男女平等教育の推進
3. DV(ドメスティック・バイオレンス)などの根絶のための取り組み
4. 職場における格差の是正や女性の労働条件の改善
5. 育児・介護休業制度の普及促進
6. 育児・保育事業の充実
7. 職業訓練、職業相談の充実
8. 地域コミュニティー活動における男女共同参画の推進
9. 審議会などの委員への女性の登用
10. 女性リーダーの養成
11. 各事業所に男女共同参画の推進を担当する部署を設置すること
12. 男女共同参画に関する苦情・相談窓口を設置すること
13. 男女共同参画条例の制定
14. 男女共同参画都市宣言
15. わからない
16. その他()

問 26. 男女共同参画についてご意見がありましたら自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

1月31日(金)までにご返送ください。

匝瑳市男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

平成26年6月発行

編集・発行 匝瑳市企画課
〒289-2198
匝瑳市八日市場ハ793番地2
電話0479-73-0081
